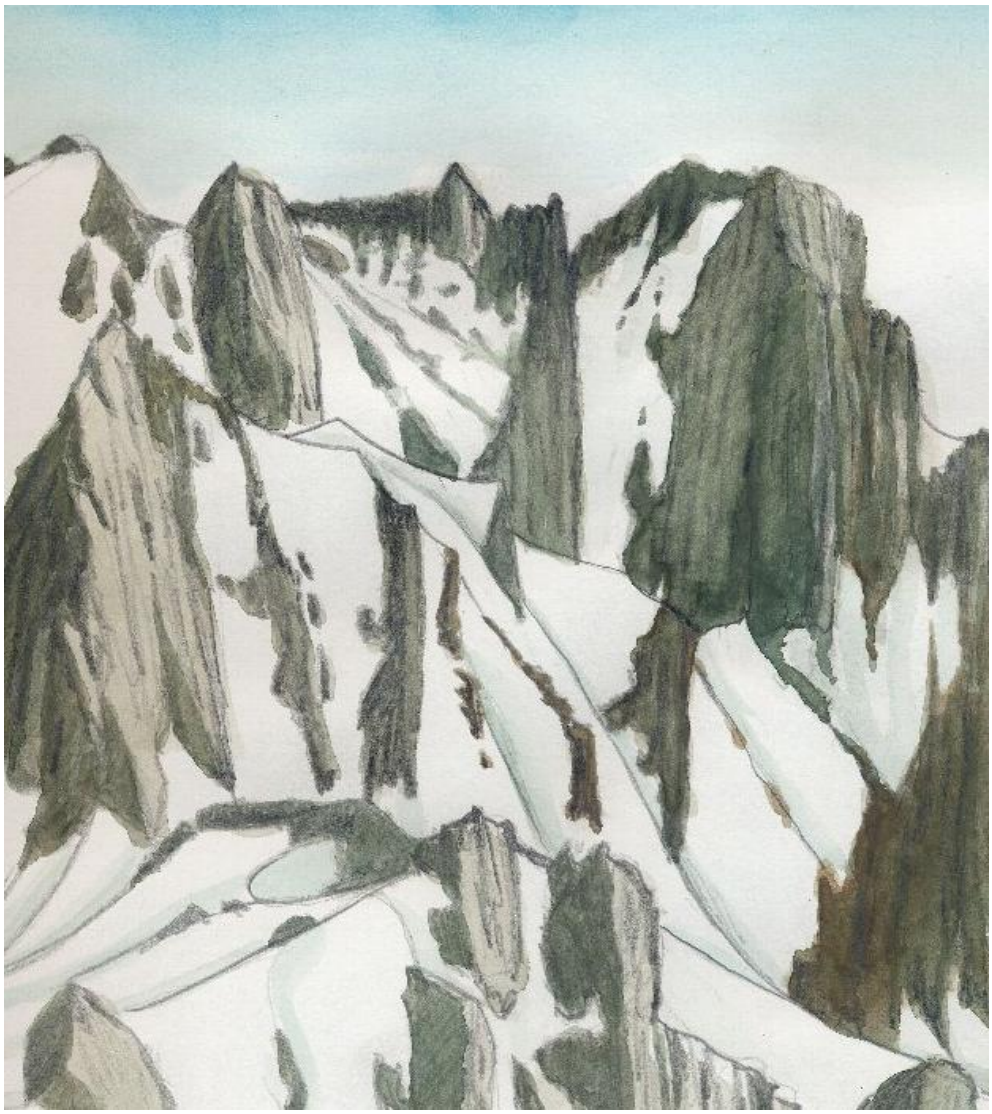
てんとさいと



冬の滝谷　　画　松浦　剛

草加山の会　No.243

焚き火と月と北岳

目　次

● コール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　石井文子　3
● 山行実績　2018 年 6 月～2018 年 8 月・・・・・・・・・　リーダー部・機関紙部　4-6
● 私の一名山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・森　律子　7
● 韓国　済州島　ハルラ山・・・・・・・・・・・・・・・・山口敏雄　8-10
● 高陽山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・澁谷・秦　11-12
● 埼玉百名山　甲武信岳　三宝山・・・・・・・・・・・・浅井祐子　13-14
● 埼玉百名山　武川岳　甲武信岳　甲仁田山他　・・・・森　律子　15
● 戸神山・高王山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中島秀子　16-17
● 埼玉百名山　雲取山・・・・・・・・・・・・・・・・・・　新島和子　18
● 赤城山　千手ヶ浜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　畑野順二　19
● 沢登り　東丹沢　本間沢・・・・・・・・・・・・・・・・　岸野康恵　20
● 沢登り　西丹沢　ヤビキ沢左俣右沢・・・・・・・・・　長田一樹　21-23
● 八ヶ岳　東・西天狗岳・・・・・・・・・・・・・・・・　澁谷久美子　24-25
● 越後駒ヶ岳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小野寺英子　26-28
● 沢登り　西丹沢　雷木沢・・・・・・・・・・・・・・・長田一樹　29-31
● バスハイク下見山行　秩父御岳山・・・・・・・・・・・・　井居奈美　32
● 東北山行　月山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　兼堀恵美子　33
● 埼玉百名山　伊豆ヶ岳　正丸山　子の権現・・・・・・・・　大門京子　34
● 沢登り　西丹沢　世附川土沢三ノ沢・・・・・・・・・・・　村上　綾　35
● 沢登り　秩父　荒沢谷・・・・・・・・・・・・・・・・・　岸野康恵　36
● 沢登り　那須　井戸沢・・・・・・・・・・・・・・・・・　岸野康恵　37
● 西沢渓谷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　松田　武　38
● 光岳　茶臼岳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山口敏雄　39-40
● 赤城山（黒檜山-駒ケ岳）・・・・・・・・・・・・・・・　高木英壽　41
● 北アルプス　唐松岳　五竜岳・・・・・・・・・・・・・・　畑野順二　42
● 三国山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　畑野仁美　43
● 沢登り　東北遠征パート１　安達太良山　湯川・・・・　長田一樹　44-46
● 沢登り　東北遠征パート２　吾妻　前川大滝沢・・・・　長田一樹　47-49
● 北海道　旭岳　暑寒別岳　樽前・・・・・・・・・・・・　山本・阿部　50-53
● 北アルプス　蝶ヶ岳　テント泊・・・・・・・・・・・・・　井居奈美　54
● 沢登り　上越　万太郎谷　大ベタテ沢・・・・・・・・・長田一樹　55-57
● 北アルプス　燕岳から槍ヶ岳・・・・・・・・・・・・・・鎌形瑞枝　58-59
● 中央アルプス　宝剣岳　空木岳・・・・・・・・・・・・・山崎正夫　60-63
● 南アルプス　聖岳～（茶臼岳）・・・・・・・・・・・・　小野寺英子　64-65
● 南アルプス　（聖岳）～茶臼岳・・・・・・・・・・・・・兼堀善和　66
● 青梅　御岳山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　石井文子　67

● 八ヶ岳　編笠岳　権現岳　西岳　（遠い居酒屋）・・・・宮澤明音　68-69
● クライミング　八ヶ岳　　大同心　雲稜ルート　・・・長田一樹　70-72
● 北アルプス　穂高岳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・畑野順二　73-74
● 沢登り　谷川岳　ヒツゴー沢・・・・・・・・・・・・・・松浦　剛　75-76
● クライミング　八ヶ岳　中山尾根　小同心クラック・　長田一樹　77-82
● 黒川鶏冠山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　張替清治　83
● 北アルプス　針ノ木岳・・・・・・・・・・・・・森　大門　出口　84-85
● 6月～8月山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・　山口裕史　86-93
● 6月～8月山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山崎寧子　94-103
● 巻機山・焼岳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　山田朗子　104
● 塩見岳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　山田朗子　105
● 山行報告文の基本事項他/編集後記・・・・・・・・・・・長田一樹　106-107

コール

石井文子

4 月から来年に向けて 45 周年記念事業の一つとして埼玉百名山登山が始まりました。
そこで以前の出来事を**「草加山の会」ホームページ｛会員専用・草加山の会の歩み｝**より抜粋してみました。

1974 年　昭和 49 年　草加山の会設立：会員集めの為、清津峡バスハイクを計画するが、入会者なし、4500 円の赤字となる。
創立　5 年目　1979 年　昭和 54 年　創立記念の 5 年報を発行
創立 10 年目　1984 年　昭和 59 年　尾瀬バスハイク
創立 15 年目　1989 年　平成元年　霧ヶ峰バスハイク
創立 20 年目　1994 年　平成 6 年　埼玉県境縦走リレー登山　20 周年記念誌発行
創立 25 年目　1999 年　平成 11 年　海抜 0mから富士山山頂まで、大雨の中登頂
創立 30 年目　2004 年　平成 16 年日本縦断縦走登山　終点の高尾山大雨の中、無事終了
草加山の会ホームページ完成、
草加文化会館で 30 周年記念パーティー
創立 35 年目　2009 年　平成 21 年　高尾山から太平洋へリレー登山、
野反湖でキャンプファイヤー、フォークダンス
創立 40 年目　2014 年　平成 26 年　尾瀬バスハイク 1 泊 2 日
日本高山 40 座、多摩川水限界山行実施
南越谷サンシティホール宴会場で 40 周年記念パーティー

と、運営委員の方々と実行委員が考えて企画しています。
今回のバスハイクは秩父御岳山と四阿屋山です。会員同士知り会あえる良い機会です。
参加して 45 周年を盛り上げましょう。
草加山の会のブログも面白いので見てください。

山行実績（2018 年 6 月～8 月）

リーダー部・機関紙部

山行	日程	山岳名	リーダー	参加者
埼百	6/1	甲武信岳	浅井祐	小林い　小野寺　新島　森花　山田郎
埼百	6/2	武川岳	森律子	平野　兼堀善　畑野順　出口宋　青木　奥村　山田郎
個	6/2	沢登り　勘七ノ沢	沼田	山口裕　岸野　山崎寧
個	6/2	戸神山　高王山	鈴木廣	中島　山崎正　関口　澁谷
個	6/9	沢登り　本間沢	沼田	鈴木勝　山口裕　森律　岸野
個	6/9	妙法ヶ岳	浅井祐	小林い
埼百	6/9-10	雲取山	新島	大門　兼堀善　森律　森花　村上　奥村
個	6/9-10	赤城山	畑野順	畑野仁　澁谷　今泉
個	6/10	沢登り　ヤビキ沢	長田	会員外
個	6/13-15	八ヶ岳　東天狗	澁谷	小林い　山崎正　関口　兼堀恵
個	6/17	沢登り　雷木沢	長田	沼田　会員外
個	6/17-18	越後駒ヶ岳	小野寺	和田　井口　新島　大門
埼百	6/27	伊豆ヶ岳　正丸山	大門	八並　平野　新島　兼堀善
会	6/26-27	月山	新庄	下川　杉山　木原　松田武　澁谷　兼堀恵
個	6/30	沢登り　土沢三ノ沢	山口裕	鈴木勝　鎌形　山崎寧　村上　奥村　会員外
個	6/30-7/1	沢登り　荒沢谷	沼田	岸野　会員外
会	7/5	秩父御岳　バス下見	殿塚	畑野仁　兼堀善　井居　土屋
会	7/7	西沢渓谷	松田武	小林い　小野寺　山本　山崎正　畑野仁　兼堀善　兼堀恵　畑野順　秦
個	7/8	沢登り　水無川本谷	山口裕	会員外
個	7/7-8	沢登り　井戸沢	沼田	岸野　会員外
個	7/10	平標山	山崎寧	会員外
個	7/10	巻機山	山田郎	
個	7/12	谷川岳	山崎寧	会員外
個	7/14	沢登り　坊主谷	沼田	会員外
個	7/14	赤城山	高木	土屋

個	7/14	上州武尊山	山崎寧	会員外
個	7/15	三国山	鈴木廣	新庄　畑野仁　関口　今泉
個	7/15	沢登り　安達太良　湯川	長田	会員外
個	7/16	沢登り　吾妻前川大滝沢	長田	会員外
個	7/14-16	光岳　聖岳	山口裕	鈴木勝　山口敏　岸野
個	7/14-16	唐松岳　五竜岳	畑野順	新島　大門　山田郎　秦
個	7/17-20	旭岳　暑寒別岳　樽前	小野寺	黒澤　和田　小林い　木原 八並　山本　鈴木里　小宮 松田武　平野　兼堀恵　森花
個	7/19-20	蝶ヶ岳	殿塚	井口　井居　宮澤
個	7/21	沢登り　水根沢	山崎寧	会員外
個	7/24	沢登り　鬼石沢	山崎寧	会員外
個	7/25-27	大雪山	奥村	
個	7/29	沢登り　万太郎谷大ベタテ沢	長田	会員外
個	7/30	焼岳	山田	会員外
個	7/27-30	利尻岳　礼文岳	山口裕	会員外
個	7/30-8/4	聖岳　茶臼岳	小野寺	八並　山本　兼堀善
個	7/31-8/2	宝剣岳　空木岳	山崎正	山口敏
個	7/30-8/2	燕岳　槍ヶ岳	鎌形	森花　出口
個	8/1	三国山　大源太山	山崎寧	会員外
個	8/4	青梅御岳山	石井文	石井美　今泉　秦
個	8/5	沢登り　西ゼン	沼田	会員外
個	8/5	クライミング　大同心	長田	会員外
個	8/4-5	沢登り　小仙丈沢	山口裕	会員外
個	8/4-5	八ヶ岳　編笠　権現	宮澤	尾崎　新島　大門　村上　奥村　松田　朝倉
リ	8/11	沢登り　谷川ヒツゴー沢	鈴木勝	松浦　沼田　鎌形　山崎寧 岸野　好田　会員外
個	8/11-12	乗鞍岳	山口裕	会員外
個	8/11-12	塩見岳	山田郎	会員外
個	8/11-13	クライミング八ヶ岳　中山尾根　小同心クラック	長田	会員外
個	8/11-16	涸沢　穂高岳周遊	畑野順	
会	8/15	黒川鶏冠山	小林い	小野寺　張替　山本　松田武
個	8/15-18	白峰三山　北岳	山崎寧	会員外
個	8/18	富士山	山口裕	会員外

個	8/19	沢登り　東ゼン	沼田	会員外
個	8/20-22	針ノ木岳	山崎正	大門　兼堀善　森花　出口
個	8/23	相馬岳	山崎寧	会員外
個	8/25-28	北アルプス　栂海新道	殿塚	鎌形
個	8/25	沢登り　倉沢谷	山崎寧	会員外

長野県警発表　平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 8 月 26 日現在迄の主な山域別遭難者数

4.山域別発生状況

区分		件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	45	21.7%	7	1	24	18	50
	後立山	53	25.6%	6	2	28	21	57
	その他	27	13.0%	2	1	13	13	29
	計	125	60.4%	15	4	65	52	136
中央アルプス		13	6.3%	1		4	8	13
南アルプス		6	2.9%		2	2	2	6
八ヶ岳連峰		23	11.1%	3		19	10	32
その他の山岳		40	19.3%	4		16	24	44
計		207		23	6	106	96	231

今年の 8 月 26 日現在、去年同日と比べても同水準で、相変わらず高止まりの傾向のようです。
計画は余裕を持って、自分と同行者の体力を過信せずに山行を計画して下さい。
山行中の体力と天候のチェックを忘れずに、無理がある時の停滞や下山も登山です。
雨、風、雪で動けない時には、耐水、耐風のアウターシェル、ツェルトが有効です。
出来れば濡れる前に身に付けましょう！寒ければ濡れていても風除けになりますから着用して下さい。
滑落、転倒、落石にヘルメットは有効です。転倒防止にはトレッキングポールが有効です。
道迷いには、地図、コンパス、GPS が、日没行動不能にはヘッドランプが必須です。
日没後、登山道以外や自分の居る位置が解らない場合は、動かずにビバークが基本です。
落ち着いて、安全な場所で、水分食料を補給して、ありったけの物を着て身体を休めて、
明日に備えて下さい。明るくなってから、もう一度行動開始です。

もしもの時の為にも、間違いの無い計画書を登山口または会に提出して下さい。

私の一名山

森律子

本格的に山歩きのことを学ぼうと思い、山の会に入会してから 6 年の歳月が経ちました。会の山行で初めて行った山、地図を片手に一人で計画を立てて行った山、テント担いで初めていった南アルプス縦走登山、この六年間は初めての経験が盛りだくさんで忘れられないことだらけで、一つの山に絞るの難しい・・・・というわけで私の一名山は、行ったことないけど絶対行きたい憧れの山をご紹介します。

家にはドイツ語で書かれた 1 : 50000 の登山地図があります。山の会に入会した年にオーストリアへ行きました。シュラドミングという町で自由行動があり山だらけのその街にはゴンドラに乗って 3000ｍの展望台まですぐ行くことができるのです。そこから見える景色は最高！登山道もよく整備されていて、登山道のしるしとして石に赤/白のオーストリアの国旗が書かれています。森林限界の高さなのでどこまでも続く縦走路にこの山域を歩きたいと願って登山地図を購入、今も時々この地図を眺めては、美しいこの山たちを小屋に泊まりながらトレッキングしたいと夢見ています。

シェラドミング／ダッハシュタィン地域の山、私の一名山です！

韓国一の高山=世界遺産　済州島・漢拏山(ハルラサン・1950m)

記：山口　敏雄

【ﾒﾝﾊﾞｰ】Ｌ山﨑、SL 山口(敏)、SL 鎌形、森(花)、出口

【日 程】2018(平成 30).5.15(火)

上り＝城板岳(ソンバナク)コース、下り＝観音寺(クァノンス)コース

4:30 ホテル発タクシー→5:10 城板岳登山口 5:20～7:09 ソンバクナ待避所～7:58 サラオルム分岐点～8:50 チンダルレ待避所～10:55 漢拏山山頂・白鹿譚(ペンノクタン)昼食 11:28～12:16 屏風岩・ヘリポート～12:48 吊り橋・水場～13:09 三角峰待避所～15:04 耽羅(タムナ)渓谷～16:20 観音寺登山口→タクシーで 17:00 ホテル

(上り＝標高差＝1250m＝5 時間 30 分、下り＝1330m＝5 時間、全行程＝11 時間)

【経 費】タクシー送迎　8,000 円

漢拏山は韓国南端の済州島の中心に聳え、３６８のオルム(側火山)に君臨する韓国最高峰の山である。

済州島では 2007 年に漢拏山が城山日出峰(ソンサンイルチュルポン)、拒文(コムン)オルム溶岩洞窟系(万丈窟(マンジャグル)や他の溶岩洞窟)と共にユネスコ世界自然遺産に登録されている。

昨年、山﨑正夫氏と漢拏山にチャレンジしたが、悪天候により、１５００ｍのチンダルレ待避所にて、登頂禁止措置に逢い、山頂到達を断念せざるを得なかったため、今回はリベンジと、今回はリベンジと全山を彩る躑躅(つつじ＝チンダレル)観賞を目的とする山行である。

ＪＴＢの済州島観光ツアーを利用して、フリータイムの日に漢拏山登山を楽しもうということで、前日に成田空港から済州島に着いたが、途中、雪を被った富士山、荒川三山、聖岳、琵琶湖、瀬戸内海、関門海峡上空を通過し、次々と変わるジオラマを堪能することが出来、大変感動の旅であった。

済州市の天気予報を確認したところ、３日目のフリータイムの日は曇り時々雨で、まして山中ではもっと天気は悪いと予想されたので、現地ガイドと折衝して、２日目に団体行動を離れて、漢拏山に行くことにする。その折衝の際、現地ガイド金さんはＪＴＢと相談した結果、団体行動を離れる離団料として２，０００円の支払いを求め、これを了承する。

２日目の５月１５日、まだ暗い早朝にホテル・メゾングランド済州からタクシーにて３０分の城板岳(ソンバナク)登山口に着き、明るくなるのを待って５時２０分に登山開始。

他所からの植物の種等の侵入防止の為の砂利道上の絨毯のような厚いマットの上を歩くこと暫し。

６時４０分に標高１０００ｍ表示の石柱を通過し、６時５５分に１回目の休憩、７時９分にソンバクナ待避所に到着するとハシブトガラスの出迎えを受ける。７時５８分サラオルム(沙羅側火山)分岐にて２回目の休憩。

８時５０分、昨年悪天候の為、登頂禁止措置により登頂を断念したチンダルレ待避所に着きトイレ休憩。いよいよこれから未知のゾーンに突入。

初めて山頂方面が望まれる森林限界となり、例年ならば 5 月 15 日が満開となる、待望のツツジの大展望を期待するも、残念ながら開花期は過ぎ去っているようで、花はチラホラ。山頂に近づくにつれて、山道は木製の階段の連続で世界遺産とはいえ、整備し過ぎではないかと思われる。ヒメシャガかアキツバタのような紫色の花が満開のところで休憩。

山頂直下の宇宙船のような半円形のドーム(多分レーダー施設)を過ぎると山頂で、沢山の人とカラスに迎えられ、山の会の会旗と共に記念撮影と昼食。残念ながら山頂はガスの中、期待した火口湖の白鹿澤(ペンノクタン)は見ることは出来なかった。

山頂は伯耆大山と同じように木製の階段状のテラスに覆われている。

山頂近くで茅ケ崎と長野から来た日本人の二人連れと会ったが、大部分は韓国の若者中心で、高齢者はほとんど見かけなかった。

城板岳(ソンバナク)コースは７５０ｍの登山口から標高差１２００ｍで 5 時間 30 分を要するダラダラと長時間の登りコースであった。

１１時２８分に下山開始。急傾斜の整備された木道の階段を下りて、左に礼文島・桃岩の

断崖を思わせる屏風岩の大展望の中、ヘリポートの脇を通り、吊り橋を渡ると水場がありのどを潤す。正に甘露水の恵み。

新緑の大展望を楽しみながら三角峰待避所に到着しトイレ休憩。ここは静岡のミカン山に見るような荷物用軌道の終点となっており、以後、登山道に添って軌道が続く。

下山途中、　ンアオイ、チゴユリの写真撮影に熱中していると、学生か、新社会人と思われる若者達が続々と降りて来る。１５時４分に耽羅(タムナ)渓谷に到着。

山﨑氏が迎えのタクシーに電話するが通じず。女子大生にスマートフォンを借りて連絡することが出来、お礼に１０００ウオン札を渡そうとするが、受け取ってもらえず、代わりに森さん持参の青森と森永の銘菓を差し上げて喜んでもらえた。

下り８６段の急降下と橋を渡って１４８段の登りは想定外。観音寺(クァノンス)登山口まで残り３ｋｍ。１６時２０分に登山口駐車場に着くが、トイレ脇の靴洗い場には水道水ではなく、圧縮空気での洗浄とは初体験であった。

駐車場の「ようこそ！ユネスコ世界自然遺産の漢拏山へ」の大看板前で記念写真を撮って、登山終了。

山頂での大展望は得られなかったが、無事に下山することが出来て大満足の山行であった。同行の皆さん、有難う！！

高陽山

4 月 29 日～30 日

参加　L 芳野．兼堀(善)．兼堀(恵)．渋谷．山本．殿塚．木原．阿部．秦

29 日（夜）

温泉付きコテージ（ロータスイン）にて夕食です。

芳野さんの実家からの差入れ、もちろん地元ならではのミズ、タラ、ニンジンのあえもの、ワラビなどなど、高陽山で採って来た、コシアブラ、山三つ葉、ヨモギの天ぷらに舌鼓。地酒に酔いしれ、温泉も満喫し、満足できた一夜を過ごしました。

30 日

山道のゲートを開け入山し朝からヤブコギで山菜採りを楽しみました。(ゲートの鍵を開けるのははじめての経験でワクワクする体験でした。)

ひめさゆりの自生地、6/2～3 ユリ祭りが開催とあり、一面のピンクのユリを堪能しました。

高陽山（1,127m）の急登、山頂のブナ林、コブシの花、墨絵のような残雪の飯豊連峰、ひめさゆりと楽しい山行でした。

リーダーの芳野さんありがとうございました。

また、同行していただいた皆さんご苦労様でした。

澁谷

泊りの山行、少々不安を抱えながらの参加となりました。
東北の山々はまだ、雪景色、とても美しく、初めての山菜採りにワクワク。名前、食べ方を教えてもらい、温泉、天ぷら、お酒とこの上ないごちそうでした。
やっぱり山は楽しい、その一言です。心温かい御気遣いいただきましたメンバーの皆様、ありがとうございました。

秦　明江

埼玉百名山「甲武信ヶ岳～三宝山～武信白岩山～十文字峠」

記：浅井祐子

2018.6.1(金)- 2(土)

L.祐子、小野寺、小林い、新島、森花、山田、

6/1 草加 5:50=毛木平 9:00-20 出-千曲川源流碑 12:45-甲武信ヶ岳 13:45-甲武信小屋 14:30(泊)

6/2 小屋出発 5:40-甲武信ヶ岳 6:00-三宝山 6:50-武信白岩山 8:50-十文字峠-毛木平 13:30 =三国峠へ移動 14:35-三国山 15:00-三国峠 15:30 = 入浴～帰路=草加 20:10

このルートは以前から気になっていたので時期もシャクナゲの頃とし、いち早く手を挙げた。

駐車場のある毛木平から沢沿いの道が緩やかに源流点まで整備されている。新緑を揺らす風がまだ冷たく申し分ない心地良さだ。途中見覚えのある男性が休んでいるのが目に留まる。甲武信小屋主の山中徳治さんだった。今夜お世話になることを告げると喜んでくれた。いつ来ても徳治さんは満面の笑みで登山者をもてなしてくれる。さて、源流で冷たい大河の一滴を味わい後半の急登をやっつけていざ甲武信の頂へ。好天に恵まれ展望は抜群。順調に登ってこれたので少しゆっくりするが、風も冷たくなってきたので小屋へ降りる。平日とあって今夜は60名程度だが明日の土曜は130名が宿泊と聞き、小屋の人気振りを改めて知る。夕食はカレーでナタデココのデザート付き。恒例のビデオ鑑賞後は早々に床に着く。

二日目も快晴。布団の中から小屋の窓越しに日の出が見られるなんて凄い贅沢！準備を整え

いざ出発。再度甲武信山頂に立つと見事な富士。好展望に後ろ髪を引かれるところだがこの先の三宝山へと進む。縦走路の展望はきかないが奥秩父ならではの美しい苔の世界にうっとりするばかり。やがて武信白岩手前の面白い巨岩「尻岩」に着く。我ら6人のお尻といざ勝負！と写真をパチリ！（判定は下の写真をご覧あれ!!）順調に進んでいる安堵も付かの間…。

「やってまった～」の浅井祐子である。白岩山の先の休憩箇所でザックを開けると貴重品を入れ

たポーチが見当たらない。三宝山頂の道標の上に置き忘れてきたことを思い出し血の気が引いた…。皆には先へ進んで貰い、私は回収すべく三宝山まで引き返し後を追うことにする。「この後のミッションは心配ないよ!」「車の移動は任せて!」と、アホな私を気遣ってくれる仲間には本当に感謝です。幸いポーチは道標の上で私を待っていてくれた。甲武信の山神様にお礼をするべく天を仰ぐ。走るように戻ってきたので少し気持ちを整えるべく休み考えることにする。ここからならば甲武信まで登り返し、昨日登ってきた源流の道を下る方が早いかも？ 下山後には三国山登頂の課題もあるので時間を無駄には出来ない。先に進んだメンバーにその旨のメールを入れ下山を開始。十文字峠から下山する皆の僅か 15 分前には毛木平に着いた。

合流後、車で 40 分程移動し三国峠から三国山を往復し、今回の行程を終えることが出来た。山行中、心配と迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。暖かく助けてくれたメンバーには心より感謝します。

武川岳～甲仁田山～二子山

森 律子

実施日：2018 年 6 月 2 日
メンバー：浅井昭光、青木麻子、奥村一江、兼堀善和、染谷智行、宋寅虎、出口栄子、秦明江、畑野順二、平野祥子、森　律子
コースタイム：8：13 名郷→10：59 武川岳→13：21 二子山→13：59 甲仁田山→13：21 二子山（雄岳）→14：45 二子山（雌岳）→16：20 芦ヶ久保

埼玉百名山に企画に県岳連の清掃登山を組み合わせた登山になりました。 各自ゴミを拾いながらの登山は、最初はあまりゴミも見つからず、これでは、岳連に提出する資料が作れないのでは・・・・と思いましたが、山頂付近や人が休憩する場所には、ゴミが落ちていました。 また、昔の登山者はゴミを埋めていたのか、土の中からもお菓子のゴミやプルタブが出てきました。 今の登山者は意識が高いので、ゴミを埋めたり、持ち帰らないということは無いので、こういう企画があると、改めて山の環境について、考える機会ができました。

武川岳～二子山のコースはアップダウンや岩場のある私のお気に入りのコースです。今回は甲仁田山もコースの一つとなっていたのですが、埼玉百名山とはいえ、地図にも載っていなく、道標も無い訪れる人もあまりいなそうな山でした。ただ鉄塔の裏にある山頂は広々とした芝生でとても気持ちのいい場所でした。
きっとこういう企画がないと、行くことのない、知る由もない山だと思いました。

クリーン登山の収集ごみの報告
参加者数　11 名
不燃ごみ：缶類約 1 個＋プルタブ等
ガラス：1 個＋破片
可燃ごみ：1.8ｋｇ
ペットボトル：0 個
収集できない産廃物や大型家庭ごみ：特になし。

参加者の皆さま；お疲れさまでした。

戸神山（772m）・高王山(たかおさん・766m)

（群馬県沼田市）　　記：中島　秀子

【ﾒﾝﾊﾞｰ】Ｌ.鈴木(廣)、山﨑(正)、中島、関口、澁谷

【日 程】2018(平成 30).6.3(日)

5:30 獨協大学前(草加松原)駅→関越自動車道沼田 IC→8:00 戸神山観音寺登山口～下発知分岐～9:10 戸神山山頂 9:50～下発知分岐～10:40 高王山山頂 10:50～下発知口→分岐～観音寺(昼食)→12:40 南登山口(鉱山跡コース)～戸神山山頂～14:30 南登山口→関越自動車道沼田 IC→獨協大学前(草加松原)

関越自動車道沼田インターが近づく頃、前方に見えるきれいな三角形の山が戸神山である。地元では三角山と愛称され、かつては金が採掘されていたと掲示されている。

登山口となっている石尊山観音寺の駐車場に車を置かせてもらい、観音寺裏手の鳥居をくぐり登山道へ。（後で分かったのですが、計画していた南登山口ではなく観音寺コースだった。） 途中の標識に熊除け用にフライパンが掛けてあり、緊張しながらも、その度に数回音をたててから登って行きました。ヒトリシズカ、コアジサイ、ウラジロヨウラク、ナルコユリ、ニッコウキスゲ等の花々を眺めながら、１時間程で芝草と露岩の広く気持ちの良い山頂に着く。三基の石燈籠と石宮が祀られてあり、３６０度の大展望です。眼下に広がる沼田の街、三峰山、赤城山、榛名山、子持山、武尊山の素晴らしい眺めをゆっくり楽しんで、下発知分岐迄戻り高王山へ。途中、地元の登山者からの情報で、高王山はヒルがいる為、地元の人達は皆登らないとの事であったが、私達は登る事にした。山頂は鉄塔が立っており、展望も無く草もうっそうとしていたので、写真を撮り早々に下山したのですが、分岐まで戻った所で、山

崎さんが３匹のヒルに襲われているのが分かり、全員が初めて見るヒルに動揺、澁谷さんが持っていたムヒをかけてヒルを退治、すぐに処置した為、大事に至らず良かったです。

下山して観音寺で昼食後、当初計画していた南登山口に車で移動。

山頂まで、１時間位で岩場や鎖もありスリリングな気分を味わう事が出来るコースと云う事で、リーダーの廣さん、山﨑さん、澁谷さんが再度山頂へ。

登山口にあった休憩所で関口さんと二人で待っている間、何組もの登山者が登り下りしており、午後２時過ぎになっても、地元の人が何組か登って行きました。気軽に登れる信仰の山として、地元に人に親しまれているようです。

２時間たらずで３人が戻り、昭和の湯で汗を流し帰路に着きました。

埼玉百名山ＮＯ.41

妙法ヶ岳～霧藻ケ峰～白岩山～芋ノ木ドッケ～雲取山

記：新島和子

Ｌ新島、浅井（昭）、兼堀（善）、鎌形、大門、森（花）、村上、奥村
6 月 9 日（土）
三峰神社（8：10）→妙法ヶ岳（9：00）→霧藻ヶ峰（10：40）→白岩山（13：20）
→芋ノ木ドッケ（14：20）→雲取山荘（15：30）→雲取山（16：15）
6 月 10 日（日）
雲取山荘（5：50）→奥多摩小屋（7：00）→鴨沢バス停（10：00）

三峰神社駐車場から杉並木の舗装路を進み奥宮入口の分岐で左へ鳥居をくぐり縦走路へ。
左に現れる奥宮の鳥居をくぐり最初のピーク妙法ヶ岳へ。山頂は奥宮だけでいっぱい。次のピーク霧藻ケ峰、大展望がひろがる。埋もれている三角点のすぐ先の霧藻小屋で一休み。この先下り着いたらお清平からは樹林の中ひたすら急登、前白山を越えれば 3 番目のピーク白岩山。山頂を示す標識が登山道より少し奥にあり、危うく通り過ぎるところ、鹿はいない・・4 番目のピーク巻き道の途中に芋ノ木ドッケの大きな標識・・しかしここは山頂ではない。本当の芋ノ木ドッケの山頂は長沢方面の分岐から 20 分、もうひと頑張り！そして本日のゴール 5 番目のピーク雲取山へ。皆さま、本当にお疲れさまでした。
翌日の予定の飛龍山へは台風が近づいているということで保留とさせていただき、ひたすら鴨沢へ下山となりました。
今回の山行、電車で行く予定でしたが浅井（裕）さんのご好意で三峰神社まで車で行くことができ 2 時間早くスタートすることができました。貴重な 2 時間でした。ありがとうございました。
参加いただいた皆さま、飛龍山の山頂は踏めず申し訳ありませんでした。来年、機会があれば又、ご一緒させてください。

ありがとうございました。

赤城山と千手ヶ浜

記：畑野　順二

◆山行日：2018 年 6 月 9 日～10 日

◆山行者：L 畑野順・澁谷・今泉・畑野仁

◆6/9 コースタイム：見晴館 7：45-駒ヶ岳 8：55-黒檜山 10：00-黒檜登山口 12：00-見晴館 12：30

赤城山のツツジと千手ヶ浜のクリンソウを見に出かけました。

一番期待していました、白樺牧場のツツジは満開を過ぎて枯れはじめていて残念です。

見晴館に駐車して出発です。

少し登ると、満開のツツジです。これを見にきました。

まさか、シロヤシロが咲いているとは思ってもなくラッキーです。

それと、サラサドウダン・ズミの花も見る事ができ満足です。

黒檜山で昼食し下山です。沢山の登山者が登ってこられ渋滞で大変でした。

下山後、車で奥日光の赤沼駐車場まで移動しバスに乗り換えて千手ヶ浜にいきました。

明日の天気が悪そうで今日クリンソウを見に行きました。

3 年前よりクリンソウが少なくなっているような、家に帰ってインターネットで調べたらヤッパリ、クリンソウは少なくなっています。

今日は、草加市奥日光自然の家にとまります。

◆6/10 コースタイム：草加市奥日光自然の家 7：55-熊窪 8：30-赤岩 9：15-竜頭の滝 赤沼駐車場 10：15

雨がふらないことを信じて中禅寺湖の湖畔を歩いて帰ります。

新緑の綺麗な木々を見ながらノンビリ歩きました。

朝から千手ヶ浜に向かって登山者が沢山います。

10 月下旬が紅葉の見ごろでまたこようかな。でも車は渋滞するだろう。

ご参加していただきありがとうございました。

東丹沢本間沢

記：岸野

山行日：2018 年 6 月 9 日
メンバー：L 沼田、鈴木勝、山口裕、森律、岸野、会員外　（2 名）
コースタイム：6 時間 10 分
本間橋 9:25～9:26 本間沢～14：25 本間ノ頭～15:35 本間橋

丹沢にある初級の沢。
私にとっては２回目の沢登りである。
駐車場から入渓までは近く、すぐに沢登りをスタートできた。全体的には沢沿いを気持ちよく登って行かれるが、慣れない私にはハードに感じられた。水は冷たく、何カ所かジャブジャブ水を受けながら登るところあり、身体が冷えてしまうのではないか心配したが、ロープを出してもらい先輩方に助けられ、なんとか登ることができた。濡れて寒くなるのが嫌な人は途中滝を巻ける所もあり。

詰めはそれほど長くもなく、本間ノ頭に到着するとホッと一息。みんなで写真撮影。
下山は破線ルートで、急な滑りやすい道を慎重に下る。１時間ほどで駐車場に到着。

西丹沢　中川川水系　ヤビキ沢 左俣 右沢

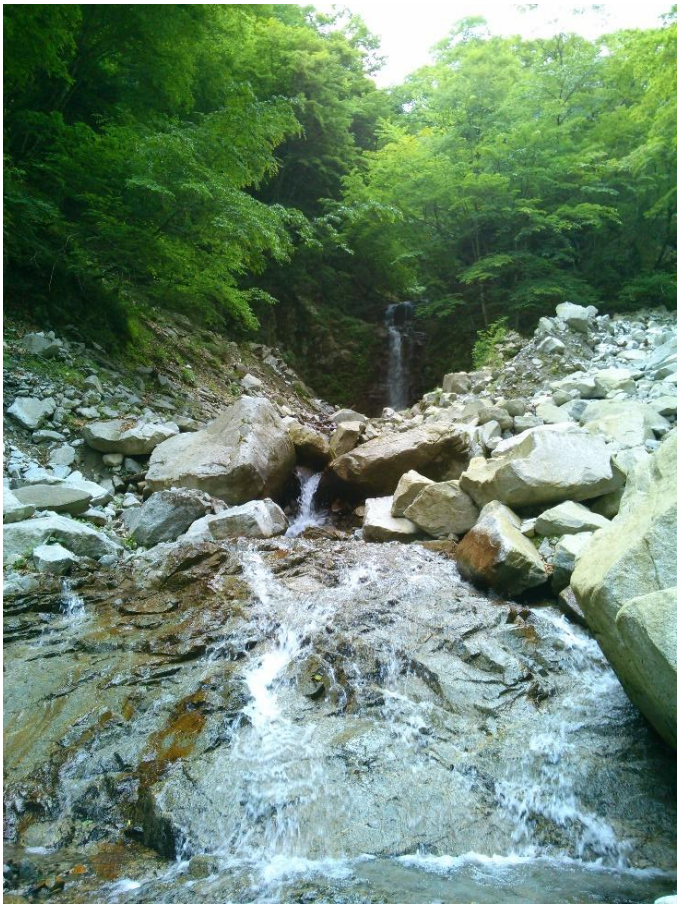
6 月 10 日　L 長田　一樹　会員外　　記：長田

8：48 西丹沢自然教室→9：35 ゴーラ沢出合い 9：40→10：30 ヤビキ沢 F1→右俣出合→11：30 涸棚→ツメ→14：45 白ザレの頭→14：55 下降路途中大休止 15：15→16：30 石棚沢東沢出合→16：45 西丹沢自然教室

そろそろ東京近郊 120 の沢は行き飽きてきた感があり、今年の沢初めを何処にしようか？悩んでいた所、ネットで面白そうな沢を見つけたので行って来ました。

＊最近出た丹沢の谷 200 には記載があるようです。

自然教室の駐車場では係の人に登山届の提出を催促される、持って来ていて良かった(笑) 台風による梅雨前線活発化予報のせいか？午後からは雨予報だし、朝の自然教室は車も人も疎らで、自分達以外に居るのは、メンバーの知り合いで下棚沢に行く沢登りの人達くらいです。ツツジ新道には蛭が見られるようになったと悲しい情報があったのは事実で（汗)。ゴーラ沢の出合で装備付けようとしたと時に、ザックの雨蓋に小さいのがﾋｺﾋｺ動いていました(ToT)

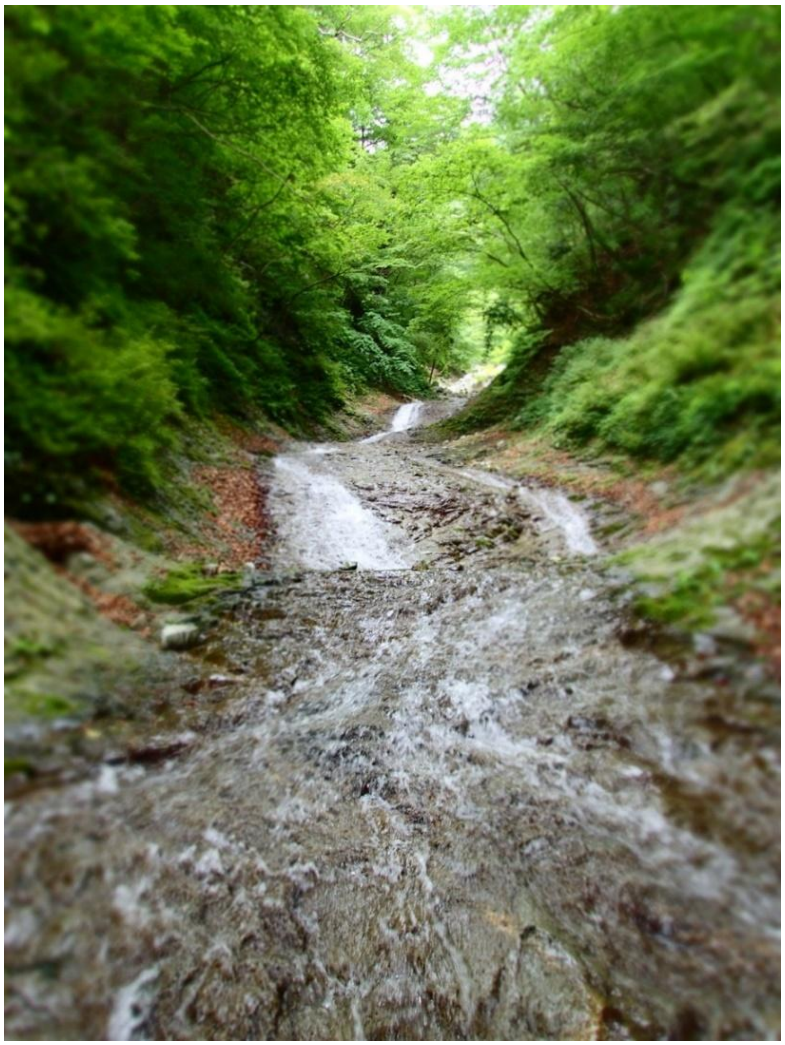


ゴーロ歩きをしばらくすると漸くヤビキ沢の F1 に到着、遠目に見ていると登れそうだったので真下まで見に行く、右側が登れそうだが全て外傾していてヌルヌル、サイドのホールドは豊富なので右レイバック状態なら行けそうかと、下部で試すと岩が剥がれまくる^^;ラバーソールだし、

素直に戻って右岸側から巻きました。その後は傾斜の緩い滝や綺麗なナメ床が出てきて、アプローチのキツさも少し報われました。

そんな事考えているとアッという間に、本日のメインイベント涸れ滝の棚郡（4 個）が現れます。

最初は簡単Ⅱ＋級くらい？フリーで通過、2 個目もフリーで行けそうだったが、沢始めなのでハーケンの回収と設置の練習のためロープを出す。思いの外滑ったので出して良かった(笑)確かに、Ⅲ＋級です。ここからはロープ出しっ放しで移動します。



2個目を登り終わったあたりからシトシトと雨が降り出す。丹沢本の著者解説だと3個目は白い岩を右から登りトラバースとあったがそれだとⅣ－無い感じがしたので中央のクラック下部にカム決めてフレーク上部のガバを取りに行くムーブを試してみると上手く行った！がフレンズの＃5＃6持って来ていないのでプロテクションが取れなくてランナウト(汗)登って慌ててハーケンを打つ、上部はⅢ級くらいか？快適です。二手くらいですが真ん中直登A0無しならⅣ＋かな？な感じです。

最後の涸滝はワイドクラック！本だと巻きですが行きます！！中盤右手にテラスがありそこから左のクラックに乗り込む所が難しい上に、クラックのサイズがオフィドウスとスクイーズチムニーの中間くらいなのに加えフレアしているので難易度アップ、カムは奥に決まる所があるので安心。途中のテラスにザック残置してワイドクラックへ！

テラスからクラックに乗り込む所は右のフェースを上がって左に移れれば良かったのだが右手アンダーと左足スタンスの位置が自分にはどうにも処理できなかったので、クラック下部に左手ジャミング右手は小さいＣＳをガバ握りで強引にあがる。上がったもののワイドクラックはどうにもならず、結局A0 で上部へ抜ける。（右フェースの上部のカチを上手く使って右足のスメアを使い、左半身のワイドクラックが上手く処理できればフリーで行けそうな感じはします。）下に居るメンバーのザックを引き上げてから登ってきてもらい、テラスに残置の自分のザックを背負ってクラックを登ってきてもらう。「Ｖ＋はある（笑）」「本日の核心だね（汗）」「登れないかと思った」等と話しながらロープ畳んでツメへと登って行く、白ザレの頭の直下辺りは崩壊していて右手尾根に乗るのが正解だったようだが、上がり過ぎてしまったようで^^;崩壊跡の右手の泥壁を、ロープのように伸びた木の根を頼りにメンバーが登り出すと雨が強くなってくる....。剥き出しの土は水分を含むと途端にグズグズになりメンバーの足元は覚束ない、それでも何とか登って自分の番だが、雨でグズグズからヌルヌルに近くなりこの傾斜では足元が滑ってどうにもならなかったので左手にトラバースして、もう少し低い壁を登る事としたのだが…雨が強くなり足元は滑り落石ばかり起こす。何とか左側の泥壁に辿り着く、登ってマントル返せば終わりなのに、良い場所にはアザミが沢山(汗)痛いとか言っていられないので構わずアザミを押さえ付けてマントル返して終了！ココが本日一番の核心でした！！

酷くなってきた雨をツェルトで避けて水分食料の補給、終わったらヤビキ沢・石棚沢の界尾根を下降する。雨でスリップして何度か転びながら降りる。登山道では無いから、時折地図とコンパスで確認したお陰で酷い間違いは無く、無事に西丹沢自然教室が閉まる前に降りられました。距離 10 キロちょっと標高差 900m強でカムやらロープ背負っての沢初めはちょっとハードでしたが、カムの設置回収、ハーケンの設置回収、登攀途中からのザックのデポに回収、ザックの引き上げ、沢登りでのクラックも出来て非常に有意義な沢始めでした。少し

距離と標高差はありますが最後の涸棚郡は登り甲斐有りますので行く価値は有ると思います。台風と梅雨前線が心配でしたが、昼までは雨に降られずに快適でした。しかし昼過ぎからは濡れ鼠でした（笑）今回のヤビキ沢遡行は自分達のパーティーのみでした。

使用ギア：WC フレンズ#4 #3　OP リンクカム#0.75 #2　エイリアン#1/3 #3/8 #1/2
BD ナイフブレード、モチヅキ軟鉄（全て回収済み）50mロープ、
ラバーソール

涸棚の 3 個目かな？忘れましたが、真新しい軟鉄ハーケンの残置ありました。入りが浅くあまり効いて無い感じなので行く場合は気をつけて使用下さい。

八ヶ岳(東・西 天狗岳)(2645. 8m)＋苔観察

（長野県茅野市・南牧村・小海町）

記：澁谷　久美子

【ﾒﾝﾊﾞｰ】L.澁谷、SL 下川、山﨑(正)、杉山、木原、新庄、兼堀(恵)、関口

【日　程】2018(平成 30).6.13(水)～15(金)

6.13(水)　南越谷駅 6:07→立川駅 7:21 特急あずさ 1 号→9:08 茅野駅→タクシー→
白駒池駐車場 9:30

①苔観察組　白駒池駐車場 9:30～青苔荘 10:30～苔観察会 11:30～白駒池一周 14:00～ヤマネの森～青苔荘 15:30

②ニュウ登山組　青苔荘 11:30～ニュウ(2351.9m)～青苔荘 16:30

6.14(木)　青苔荘 7:20～白駒峠～高見石 8:40～中山山頂(2496m)～中山峠 12:28～東天狗分岐 14:00～東天狗岳 14:45～西天狗岳(往復 25 分)～本沢温泉分岐 15:18～白砂新道～本沢温泉 16:20

6.15(金)　本沢温泉 7:30～7:45 野天風呂 8:00～本沢温泉 8:30～本沢入口 10:30→
タクシー→小海駅 11:15→12:26 小淵沢駅 12:45 特急あずさ１６号→14:18
立川駅→15:15 南越谷駅

【経　費】宿泊費(1 泊２食)＝青苔荘 8,500 円＋本沢温泉 9,700 円＝18,200 円
苔観察会(２時間ガイド・コーヒー・お焼き付き)＝3,000 円

JR 運賃＝往路＝3,670 円×3 割引＝2,560 円　特急料金＝1,830 円×3 割引＝1,280 円
復路＝4,000+円×3 割引＝2,800 円　特急料金＝1,830 円×3 割引＝1,280 円

タクシー＝往路＝16,000 円(ジャンボ)　復路＝5,700+5,800 円 1 人当たり＝3,438 円
合計　1 人当たり＝32,558 円

6/13(水)

茅野駅から白駒池までジャンボタクシーで行き、原生林の中、青苔荘まで行きました。

青苔荘の前で昼食を摂り、苔のネィチャーガイドを体験しました。原生林の苔には色々な種類がある事、陸上植物の中で一番原始的な事、土壌が必要ないこと等驚きがありました。

スギゴケの中にもコセイタカスギゴケ、セイタカスギゴケ等蘚類、苔類、菌類等八ヶ岳には485種類の苔が確認されていること等、驚きがありました。

又、ニュウに登山したグループも１６時３０分には青苔荘にそれぞれの目的で一日過ごしました。

6/14(木)

青苔荘を７時２０分に出発し、本沢温泉に向かいます。

高見石では縞枯れの森の展望を堪能し、中山山頂から中山峠の間では、イワカガミの花の回廊を進み、荒らしい東天狗へと、西天狗には男性二人が荷物を置き２５分で往復するこ

とになりました。

本沢温泉への分岐で白砂新道を下りました。急な滑りやすい坂道の連続で大変でしたが皆さん無事に１６時２０分に本沢温泉に着きました。日本最高所の温泉を楽しみました。

6/15(金)

白砂新道の疲れもあり、天気も怪しく、一路帰宅することに決定。朝から怪しい天気、野天風呂で足湯を楽しみ下山してきました。二日間の想い想いの登山が楽しめ、一同笑顔で帰路につきました。

初めての八ヶ岳に同行してくださった皆様、ありがとうございました。

越後駒ケ岳　（2003m）

山行日：平成３０年６月１７日（日）～１８日（月）　　記：小野寺英子

参加者：L 小野寺・和田・新島・大門・井口

コースタイム

【一日目】

草加 4：00＝＝小出 IC＝＝３５２号線＝＝枝折峠 7：40

枝折峠登山口 8：００-ー明神峠 8:45－道行山１０：２０―小倉山 11：40～11：55－

駒の小屋 14：30～14：50－越後駒ケ岳山頂 15：20～15：40－駒の小屋 15：55

【二日目】

駒の小屋 6：25－小倉山 8：30～9：00－道行山 10：15－明神峠 11：50－枝折峠 12：25

小倉山雪渓

３５２号線がやっと山行前日の夕方に開通のニュースに喜んだが、台風の影響で雨予報。土・日の予定を一日ずらしての山行に…そのせいで、山菜天

ぷらを作って呉れる約束で、みんなも楽しみにしていた山口さんがお仕事で参加出来ず、本当に申し訳ない事をしてしまいました。

心配だった枝折峠の駐車場は数台の空き状態で難なく停められて一安心、お天気も最高の青空で気合を入れて出発！すぐにきつい登りが始まる。途中タニウツギが綺麗だ。明神峠の手前で最初の雪渓が現れた。アイゼンを履く程でもなく通過、現れた枝折大明神に無事登頂のお願いをする。すぐに三角点が何本も有る明神峠で前方が開け、雪渓を抱いた山が現れた。余りの遠さに不安を感じるが今日は小屋までだと、自分に言い聞かせて道行山を目指す、分岐からちょっと登った所に山頂が有り、展望は良かった。

木立の中、小倉山を目指す。保護の為の木道や木の階段のアップダウンを進む。時折日帰りの人達が下山して来る。目の前に急な雪渓が出たら小倉山だ。道標が見当たらなかった。少しずつですが山が近づいて来る感じだ。途中からイワカガミやカタクリ、アカヤシオ、山ツツジ、シラネアオイ、私の大好きなイワウチワ等々…沢山の花が現れるのが救いでした。

何度か崩れた危ない登山道が数か所も有って、緊張しながら登る。

前駒に回り込んだら、目の前に駒ケ岳がバッチリ！小屋の塔も見えた。あとは小屋の下の岩場を登ればよし！中々の岩場だ。

昨年の７月、足の骨折、今年４月の思いがけない眼の病気と１年間のブランクには

辛いなぁ…やっとの思いで小屋に到着！

私達も含めて小屋泊まりはご夫婦と単独の８人だけです。ザックを置いて、小屋のご主人から山頂までの説明を受けて向かう、大雪渓が見えるが、登山道は殆ど出ている。

少しだけ、雪渓を横切ると山頂までの夏道がしっかりと有った。真っ青な 360 度の展望の山頂！！昨年のリベンジが出来た！！信じられないほど嬉しい！良かった！

これでこの夏の聖岳に繋がって行ける。みんなでしばし、山頂からの眺めを満喫した。

若者が一人中岳の方から来た。聞けば今朝、荒沢岳～兎岳～中岳～越後駒ケ岳～枝折峠に下りて、荒沢登山口の車迄歩くと言う。急いでいる彼に集合写真を一枚お願いした。小さなデイバック一つの日帰りで…颯爽と下山するのを見送った。

私達も小屋に戻り落ち着く。皆さんが明るい内に外で夕食を作って呉れた。

私のミスでカレーを持参出来ず、みそ汁とご飯と漬物だけの何とも寂しい夕食です。美味しい山菜天ぷらの筈が、悲しい事に【猫まんま】になってしまった。ご免なさい！！

小屋の水は豊富で何度も宮ちゃんが、「おばあさんは水汲みに…」と冗談を言いながら汲んで来て作って呉れた。

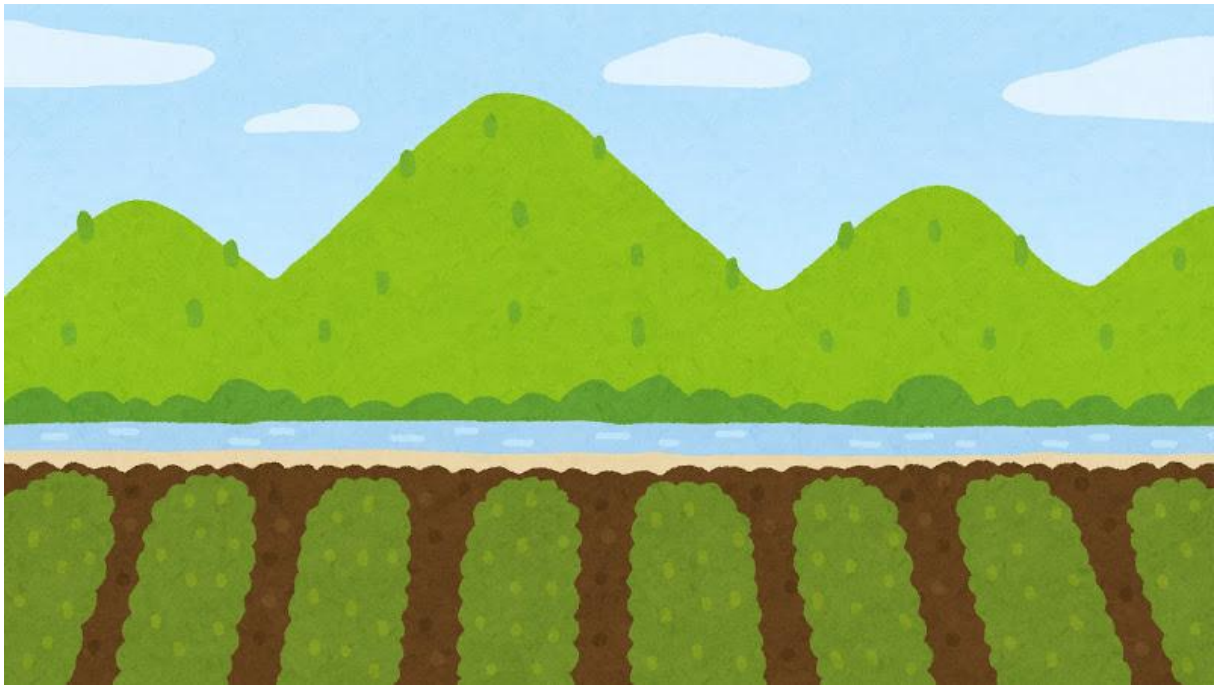
私は食べるだけの人でした。

陽が落ちると途端に寒くなる。早々に小屋に逃げた。トイレはバイオで、終わったら自転車漕ぎを 20 以上回してから出なくてはならず、少し億劫だった。

小屋で毛布を借りて、8 時に寝袋にもぐった。

翌日、お天気はまぁまぁの感じだが下り坂は

間違い無しで、なるべく早く下山しなくてはならない。朝食のラーメンも私は何もせず食べるだけ！
小屋のご主人に見送られて…さぁ下山！えぇっ…怖い！急な岩場に初めての感覚です。
岩場大好きな私が…何と言う事でしょう！！我ながら信じられないが…現実でした。
何とかゆっくりと降ろさせて貰い突破出来きたが、トホホホ…情けない限りです。
小倉山の山頂は雪渓の上の方にしっかりと有りました。雪渓の下りにアイゼン着けようか？と一瞬迷ったが、アイゼン無しで笹に捕まりながら全員通過！
小倉山を過ぎた辺りから、山菜採りです。「コシアブラ」も沢山有るが、今年は大きくなり過ぎで、中の柔らかそうな部分だけを、山ちゃんへせめてものお土産に…と、
先を争うようにみんなで採った。途中、雪解けの池にカエルの卵が沢山、木にぶら下がったり、池の中だったりとしばし見とれてしまった。
明神峠までの小さなアップダウンの多い事！超えても越えても目の前に山が現れて…
もう嫌になる程…登りではそれ程感じなかったが、やっとの思いで枝折峠へ到着！！やったぁ…！長かった～～！
昨年の７月からのブランク、嫌と云う程感じた山行でした。
皆さんにいたわって貰いながら達成出来た山行です。本当に有難う御座いました。
小出 IC 近くの「見晴らしの湯こまみ」で汗を流して帰りました。
黒一点の和田さんには一人運転でお世話に成りました。さぞかし疲れた事と思います。
感謝・感謝です。ありがとう～～！！
勿論、お土産のコシアブラは即、山ちゃんの手に渡りましたよ～（笑）



西丹沢　中川川水系　雷木沢

6 月 17 日　L 長田一樹、沼田真澄、会員外　　記：長田

8:53 用木沢出合→9:30 入渓→9:35 F1 15m 10:05→10:15 F2 チムニー状 20m 10:25→10:30 F3 30m→10:55 トイ状 3×7m 6×10m 10m 三段の滝→11:05 10m 滝 焚き火大休止 12:20→12:40 950m付近→12:50 左岸尾根→13:30 用木沢出合

図らずも丹沢の谷 200 シリーズ第二弾になりました。メンバーの一人に不幸がありドタキャンになったり、自分や沼田さんに朝から捜し物があったり、用木沢出合に行くのに道間違いをしたりとドタバタしましたが無事に行って来ました。

満車の用木沢出合にて、沼田さんが自分の畑で捕まえた蛇(命名太郎)を放してからスタート、30 分程ですぐに入渓、5 分後には本日のメイン 15mF1 に到着（はやっ）15ｍとは思えない大きく感じる滝で圧迫感あります。ほとんどの記録やトポでは巻いているみたいですが、左クラック付近から登ったという記録を見たので、朝イチですが取り付いてみました。細いクラックに決められるかと思ってカム持ってきましたが、浅いのと泥が詰まっていて無理、

残置の錆びたハーケンと腐りかけスリングにビナをかけてロープ通して確保してもらい観察、右足ハイステップ気味に上げて、上手くそちらに体重かければ何とか乗り越えられそうだが、ホールドが全て甘くて思い切ったムーブを起こせない（汗）ラバーソールで来たことを若干後悔しながら、何か無いかとタワシでヌメリとクラック掃除したら、残置ハーケンの更に 10cm 上に、もっと錆びて細くなったハーケンを発見！！もう一個プロテクション追加で、何とか踏ん切りが付いて思い切って右足上げて乗り越す。バランシーでした（汗）Ⅳ＋かな？中間は脆いものの何とかフレンズを決める所がありホッとする。落口手前でもう一つキャメのC3を決めて漸く落ち口へ、何も終了点になるようなもの無いのでビレイ解除してもらい奥の 2 段目の小滝の水平クラックに、カムを 2 個突っ込み固定分散で終了点作成し後続を引き上げる。

F2 は左の水流沿いに行くのが楽しそうだが、余りの冷たさに負けて右に逃げる、しかしコレも地味に悪い（笑）途中で左トラバースして上がって又右へ、アッという間に F3 の 30m滝に着く、新緑の中、綺麗なスラブに白く泡立った水が流れるとヴェールを広げているようで美しい、雲の隙間から覗いた太陽からの木漏れ日が当たると、西丹沢とは思えません。

ここは無理なので大人しく少し戻って右岸高巻き、途中メンバーから 50cm 四方の落石（汗）を受けるが無事右横を通過､3 段の滝も無事通過して 10m滝に着いて時計見ると未だ 11:00！時間有るので直登が無理そうなヌメッとしたコノ滝にトップロープを張って遊びながら焚き火してのランチ休憩にする。遊んで食べたら焚き火の始末をして遡行再開。ナメ床は綺麗なのだが徐々に川床が崩壊した岩で埋め尽くされてきて滝らしい滝もなくなる､950m付近で下降に使う左岸尾根が近づいたので、その後の行程を確認すると、やはり小滝だけなので此処で遡行を打ち切り左岸尾根に上がることに変更、装備解除して 5 分ほど上がると左岸尾根に乗ることが出来ました。下降でコンパス当てずに GPS だけで下降しようとした所、危うく支尾根に入りそうなったので地形図とコンパス出して目標セットして、ひたすら南東方面へと

下降を続けると、あっさりやまびこ橋に到着。林道歩きながら「今回は前半がハイライトで後半は消化試合的な感じ」「やっぱりマイナーな沢には理由があるねぇ」等と話しつつ用木沢出合いに到着。今回の遡行も自分達のパーティーのみでした。ぶなの湯から出ても未だ 15：00 前で拍子抜け（笑）今回は、山行帰りの現地ごはんは食べずに草加に戻ってからの飲み会に変更しました(ˆωˆ)
先週の行程の半分と言うこともあり若干物足りなさも感じたが、こういうユルイ感じも、たまには良いかなと。

行きに西丹沢自然教室(ビジターセンター)の前を通ったのですが 8:20 の時点で満車！しかも登山者の半分近くはヘルメットとハーネス着用していたので沢登りではないかと思います。コレは沢登りブーム到来かと喜んで話していましたが、よくよく考えると沢登り人口増える→近場でメジャーな所は混んでしまうので、やはり遠方かマイナーな所に行く事になるのかなぁと思い直してしまいました...。

使用ギア：WC フレンズ#0 #0.5 #1.0　　BD キャメロット C3 #000 #00 #0 #1
50m ロープ、ラバーソール

秩父御岳山(バスハイク下見)

〈日程〉6 月 25 日(月)
〈行程〉7:30 強石登山口～10:30 山頂(30 分休憩)～12:30 贄川宿

〈メンバー〉リーダー兼堀、畑野(仁)、井居

バスハイクの下見で行ってきました。
参加者の皆様、お楽しみに♪
よろしくお願いいたします。　　(井居)

東北山行　　月　山

記：兼堀　恵美子

★山行日・・・６月２５日（月）～２７日（水）

★参加者・・・Ｌ新庄、澁谷、下川、松田、杉山、木原、兼堀（恵）

★コース

２５日　南越谷 5：22＝南浦和＝大宮　大宮 6：34（とき 301）＝新潟 8：13
新潟 8：22（いなほ１）＝鶴岡 10：15 レンタカーにて加茂水族館～羽黒山～田村坊泊

２６日　田村坊 6：00＝＝月山８合目駐車場 7：30～弥陀ヶ原～９合目仏生池～行者返し～月山～月山８合目駐車場 15：00＝＝白滝旅館泊

２７日　笙が岳（２７日)、滝巡り（２８日）とまだまだ楽しむ予定でしたが、二日間とも大雨、強風の為皆で相談した結果残念ながら帰宅する事にしました。

＜１日目＞　鶴岡駅到着後、レンタカーにて加茂水族館へ･･･私が前から行きたかったです。日本海に面した岬に建っているクラゲの水族館です。沢山の種類・形のクラゲに感激！

久し振りにアシカのショーも見て楽しいひとときでした(^^♪　昼食後は羽黒山へ向かいました。羽黒山は五重塔特別拝観と大権現の仏像初公開の期間となっていて貴重な体験をすることができました。五重塔の心柱と内部構造、仏像等を拝観。宿泊場所は近くの宿坊（田村坊)。広くて綺麗なお部屋と精進料理に皆大満足(^^♪

＜２日目＞　月山登山～天気も良く、言われていた程寒くもなく絶好の登山日和。８合目から出発！！下山途中に寄る予定だった弥陀ヶ原になぜか入ってしまい３０分程散策。下川さんが見つけたサンショウウオやお花（水芭蕉、チングルマ、ニッコウキスゲ）を見ながら登山道へ入る。シラネアオイを見つけてからは数々のお花が出現！特に見事だったのはハクサンイチゲ・ウズラバハクサンチドリ・コバイケイソウ・ミヤマウスユキソウ・チングルマ等です。山頂付近ではクロユリも見ることができました。月山の登山道は長いけれどお花に助けられて登りきる事ができました。途中４，５ヶ所雪渓が残っていて私は恐々だったので下山の時はアイゼンを付けました。雄大でお花の宝庫の月山。２回目でしたがまた楽しい山行でした。

計画してくれたリーダー、参加した皆さんありがとうございました。

埼玉百名山　No.1

正丸山、伊豆ヶ岳、子の権現

2018.06.27　　記：大門

メンバー：L 大門京子　新島和子　八並絹代　兼堀善和　今泉優子　平野祥子

コースタイム：南越谷 5：31→7：47 正丸駅 7：55→9：00 旧正丸峠→9：30 正丸山→10:15 小高山→10:55 伊豆ヶ岳→11:55 高畑山→12:30 天目指峠→13:48 子の権現→15:17 吾野駅→15：37 吾野→17：28 南越谷

蒸し暑い日が続いている今年の梅雨、低山歩きはちょっと大変かもしれない。今朝も集合時間には汗が流れている。

正丸駅を左に少し行くと旧正丸峠への分岐を左に入る。道標はしっかりとあり迷わず歩けそうです。旧正丸峠から伊豆ヶ岳へのコースはなかなか行かないので、二時間程の回り道も良かったかなと感じました。

曇り気味の空で、照りつける日差しも少なく、樹林帯という事で幾らか助かるが、水分を細めに、時間は短く休憩を取る。「関東ふれあいの道」になっていて歩き易く、皆快調に歩いている。

小さな山を何度も登り下りを繰り返す。後半の天目指峠からの登りが少し急になり、子の権現までがとても遠く感じられた。子の権現は足腰の神様。無事ここまで歩けた事を感謝。更にここから吾野駅までの 5 キロが長い。みなさんお疲れ様でした。

今回計画の上で、時間を多く取り過ぎました。ゆとりのある地図上の時間で十分良いかなと思いました。皆足並み揃っていてとても安心して歩けました。

暑い中おつきあいありがとうございました。

西丹沢 世附川土沢三ノ沢

記：村上

○日程　２０１８年６月３０日（土）
○メンバー　Ｌ山口（裕）、ＳＬ鈴木（勝）、山崎（寧）、鎌形、奥村、村上、会員外１名
○コースタイム：6 時間 10 分
三国峠 8:20→三国山 8:40→明神峠ゲート 9:35→一の沢出合 9:50→10:15 三ノ沢出合（入渓）10:30→12:30 三国作業道（装備解除）13:00→鉄砲木ノ頭 14:20→三国峠 14:30

初めて沢登りにワクワクしながら参加しました。前日に梅雨明けし、ピーカンのお天気！と思っていたら、これから向かう方向だけに雲がかかっていました。それでもこれからの沢登りを思うと気持ちは晴れやか。

三ノ沢出合いの入渓ポンイントで、初めての沢靴を履き、ハーネスを装着して、いよいよ沢へ。冷たい沢の水が心地よく、最高です。この楽しくて懐かしい感覚は何だろう？と記憶をたどっていると、小さい頃の川遊びの思い出が蘇ってきました。つるっと滑る感覚、バランスが崩れておっと！となる感覚、とっても久しぶりでした。ウン十年経っても、楽しさは変わらないなあと思っていると、深そうな釜が出現。先輩の方々のアドバイスを聞きながら、水に流されないように岩にしがみつきました。岩が滑ってなかなか指に引っかからなくて、内心焦ったり、リュックがプカァと浮いたりして、流されそうになりましたがそれも楽しい体験でした。

先に進むといろいろな景色がありました。ゴルジュはとても神秘的で探検気分、滑滝は楽園にいるかのようでした。最後の４～５メートルの滝も、アドバイスをいただきながら、何とかクリアすると、楽しい沢登りは終わってしまいました。ずっと沢が続いたらいいなあ、と思える体験でした。あいにくの雲で鉄砲木ノ頭からは富士山と山中湖はドドーンとは見えなかったですが、雲間かチラっと見える富士山で今回は十分でした。帰りには「おばぁの台所」というお店に立ち寄りました。「おふるまいの日」という特別な日だったらしく、全員にうどん１杯ずつが振舞われ、びっくりしました。最後までこの日は、本当に嬉しい一日でした。計画をたててくださったり、沢の歩き方、滝の登り方を教えてくださったりした先輩の皆様のおかげです。ありがとうございました。

奥秩父 大洞川 荒沢谷

記：岸野

山行日：2018 年 6 月 30 日～７月１日
メンバー：L 沼田、岸野、会員外　（2 名）
コースタイム：9 時間 30 分
6/30　10 時鮫沢橋のゲート→１１時　荒沢橋到着、入渓→　１４時　菅ノ平着
7/1　　８時　懸垂下降練習→１０時　井戸淵→１２時　菅ノ平→１２時４０分　ベンガラの滝　→１４時半　荒沢橋→１５時半　鮫沢橋のゲート

駐車場から林道を約１時間歩いて入渓。晴れていてそれほど沢水も冷たく感じず、気持ち良く沢を登っていく。迫力のあるベンガラの滝は巻いて、急なザレた道を慎重に通過。比較的緩やかな沢を歩き、早めに幕営地の菅ノ平に到着する。私にとって今回は初めての沢泊。タープを張り、寝袋を４つ並べる。薪を拾って宴会の準備ができたら乾杯！楽しい一時を過ごす。寝床は腐葉土と落ち葉でふかふかのベッドになっており、虫もいなくて快適に熟睡できた。

翌朝、朝食後に懸垂下降の練習をして、大きな滝壺のある井戸淵まで進む。私たちが見学する中、リーダーの沼田さんが見事滝を登り切る。そこから引き返し、タープをたたみ下山する。前日巻いたベンガラの滝を、人生初めての懸垂下降でドキドキしながら降りる。その後は下山途中の滝壺で滑り台、ダイブ、泳ぐなどアクロバティックに楽しみ、無事下山する。

緊張感がある中でも笑いの絶えない楽しい沢登りとなりました。今回沢泊にあたり他のメンバーのみなさんには重い荷物を担いでいただき、懸垂下降や危険個所での指導など、本当にありがとうございました。

那須岳（茶臼岳）・井戸沢

記:岸野

山行日：2018 年７月７日、７月８日
メンバー：L 沼田、岸野、会員外　（2 名）
コースタイム：10 時間 30 分
7/7　登山指導所・登山ポスト 11:3311:44 中の茶屋跡 12:00 峰の茶屋跡避難小屋 12:11 硫黄鉱山跡 12:1212:24 お釜口 12:28 お釜口 12:28 山頂口 12:33 那須岳 12:3412:43 山頂口 12:43 お釜口 12:43 山頂口 12:46 お釜口 12:57 硫黄鉱山跡 12:58 峰の茶屋跡避難小屋 13:10 那須岳避難小屋 13:1113:26 延命水（水場）13:2713:31 沼原分岐 13:45 三斗小屋温泉泊
7/8　泊三斗小屋温泉 07:3612:27 流石山 12:2813:06 大峠 13:0814:38 三斗小屋温泉 14:4114:57 沼原分岐 15:01 延命水（水場）15:22 那須岳避難小屋 15:2515:38 峰の茶屋跡避難小屋 15:4215:55 中の茶屋跡 15:5716:06 登山指導所・登山ポスト 16:0716:09 ゴール

雨が上がるのを待っていたがなかなか止まず、レインウェアを着て遅い時間のスタートとなった。当初は真っすぐ宿泊する三斗小屋に向かう予定だったが、避難小屋まで来ると「やっぱり茶臼岳に登ろう」と計画変更。天気が悪く真っ白の中、何も見えなかったが無事に登頂してお釜を一周。避難小屋まで下り再び三斗小屋を目指す。途中から雨が上がり晴れ間が出ると気持ち良く歩けた。三斗小屋の温泉に入り早々と宴会を開始。のんびりできる小屋泊となる。

翌日は沢登り。比較的登りやすく開けた沢をぐんぐん進む。途中２カ所ロープを出してもらいながら登りきる。稜線に出ると見晴らしが良く、ニッコウキスゲが咲いていた。見頃には少し早かったようだが、それでも充分私たちを楽しませてくれた。ここから長い下山が始まる。三斗小屋まで来るとホッとし、前日歩いた道を戻る。途中延命水で喉を潤し、無事下山。鹿の湯の温泉に入り、美味しいお蕎麦を食べて帰宅。楽しい山行となった。

西 沢 渓 谷

記：松田 武

山 行 日　平成 30 年 7 月 7 日
参 加 者　L.松田、小林（い）、小野寺、兼堀（善）、兼堀（恵）、畑野（順）、畑野（仁）
　　山崎（正）、秦、山本
コ ー ス　草加松原 5：30＝勝沼 IC＝西沢渓谷駐車場 8:20…渓谷入口トイレ 8:50…
　　方丈橋 9：05…展望台 10：45…ネトリ大橋 12：30…西沢渓谷駐車場 12：50…
　　雁坂トンネル経由…花園 IC…草加松原 15：40

朝 3 時半起床、窓を開けて外を見る、雨は降っていないのでホットする。
久しぶりのリーダーで西沢渓谷を計画したが、山行前日の朝から雨降り、西日本では大雨が降り被害が発生しているとテレビのニュースが伝えている。夕方の 5 時までには山行を決断しなければならない。何度となく天気予報聴き、ネットで西沢渓谷の天気を調べる。ネットでは、一日中曇りとなっている悩ましい。夕方 5 時前に小林さんから督促のメールが入る。
「今、スーパーにいます！明日はどうかな！？」迷いがふっ切れ山行決行の決断をする。

草加松原を 2 台の車に分乗して出発。空は相変わらず曇り空、時折雨もぱらつく心中穏やかでない。天候のためか道路も渋滞もなく、談合坂ＳＡに着く頃には青空も垣間見え一安心。
何時も混雑している渓谷駐車場は閑散としていて寂しいかぎりです。西沢渓谷と言えば滝、大小さまざまな滝があり、日本の滝百選にもなっており人気の渓谷ですが、今日は全くの無人で渋滞もなく貸し切り状態です。連日の雨のおかげで轟音を響かせて滝が流れ見応えがあります。雨のため渓流が濁っているかと心配していましたが、花崗岩の上を流れているため何時ものように清流で、マイナスイオンの森林浴を満喫しました。
クライマックスの七ツ釜五段の滝を右手に見て急登を進むと、折返し地点の展望台に着き昼食にする。何時もは登山者で賑わっている展望台は本日貸し切りです。
なだらかな森林軌道跡を下山、ネトリ大橋から鶏冠山がハッキリと見えた。

光岳～茶臼岳～上河内岳　易老渡よりテント泊周回

記：山口敏雄

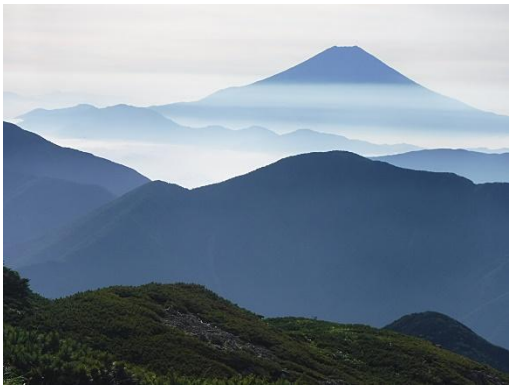
日時：2018 年 7 月 14 日～16 日　メンバー：L 山口裕、山口敏、鈴木勝、岸野

ルート：1 日目：12 時間 30 分／2 日目：10 時間 20 分／3 日目：12 時間 30 分

1 日目：芝沢ゲート 5:35 -6:44 易老渡 - 9:03 面平 9:26 - 14:24 易老岳 - 18:07 県営光岳小屋

2 日目県営光岳小屋 4:13 - 4:30 光岳- 4:40 光石- 5:00 光岳 5:20 - 5:34 県営光岳小屋 6:27 - 9:23 易老岳 9:46 - 11:45 希望峰- 12:05 仁田岳（往復）- 12:21 希望峰- 13:40 茶臼岳 14:00 - 14:33 茶臼小屋

3 日目：茶臼小屋 4:28 - 6:40 上河内岳 6:51 - 7:35 南岳 7:53 - 9:14 聖平小屋分岐- 9:58 薊畑分岐- 11:21 苔平- 12:02 大木の広場- 14:09 西沢渡 14:31 - 15:34 便ヶ島- 16:11 易老渡- 17:00 芝沢ゲート



日本百名山登頂に欠かせないテカリ岳山行は想定外の過酷な山でした。

草加を夜 9 時発、諏訪湖 SA・梨本ていしゃばにてトイレ休憩の後、易老岳登山口の 6 キロ手前の柴沢ゲート駐車場に 3 時頃に到着し 2 時間の仮眠。 6 時４０分に登山口に到着して休憩の後登山開始。いきなりの急登にあえぎながら面平を過ぎ、易老岳に着いたのは１４時３０分でコースタイムより 2 時間超過。三吉ガレ・三吉平を過ぎ、静高平からセンジケ原までは果てしなく続くような長いガレ場の登りにダウン寸前で、途中の水場で息を吹き返す想い。18 時過ぎにやっと光岳小屋テン場に着くも実に１１時間を要し、絶不調の山行で迷惑をかけてしまった。

翌 7 月 15 日早朝に「光岳」と「テカリ岩」に登り念願の百名山をゲットするも、山頂は林の中で展望は無く感動は薄い。往路を易老岳まで帰り喜望峰を過ぎ、茶臼岳の手前でライチョウの親子に遭遇し、写真を撮ることができてラッキーであった。ペースが上がらずに聖平小屋までの予定を茶臼小屋でのテン泊へと変更してもらって、明日の長丁場に備えゆっくりとする。小屋の向こうの富士山が美しい。

16 日は茶臼小屋分岐まで登り返し、上河内岳を目指すが登山道はどんどん下り、小沢を渡るとお花畑や天然記念物の亀甲状土原の広がりは想定外の光景で楽しい。森林限界を超え気持ちの良い登りで上河内岳の肩に着き荷

物をデポして山頂へ。２８０３Ｍの上河内岳山頂は時の経つのを忘れさせる大展望で、正に至福のひとときであった。南岳・聖平小屋分岐・薊平を過ぎ、ひたすら長い下りで西沢渡に着き、荷物運搬用滑車籠にて対岸に渡り、旧木材運搬トロッコ道を「便ケ島」に至るも施設は閉鎖されており待望の水場もない。

易老渡を過ぎ、芝沢ゲート駐車場に着いたのは皆に遅れること１時間の 17 時４５分で、１日の行動時間は１３時間余りを要してしまった。

私の体力不足によりコースタイムを大幅に超過し聖岳登頂を断念してもらって、同行の皆さんに多大な迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。

また、易老岳の急登で足を吊りそうになった時、勝幸さんに薬を頂き助かりました。食欲をなくして水だけで凌ぎ、その水も飲み干してしまった時に、岸野さんからアミノバイタル・ジェルを頂き、元気が復活することができて本当にありがとうございました。

とりわけ、息子には長時間の運転と、テント他の重い荷物を負っているうえに、私の荷物の一部を背負ってもらい、本当に迷惑をかけてしまいました。７０過ぎの高齢者であることをわきまえ極力余分なものを持たず、日頃トレーニングを積んで体力の維持向上を図ることを痛感させられた山行で、百名山でなければ来ることはなかった山でした。ありがとうございました。

赤城山（黒檜山-駒ヶ岳）

記：高木英壽

●山行日　　2018 年 7 月 14 日（土）

●参加者　　L 高木，土屋

●コースタイム　新越谷駅（6:00）→おのこ駐車場（8:35）→赤城神社（8:50～9:10）→
黒檜山登山口（9:15）→黒檜山山頂（10:50～11:30）→駒ヶ岳（12:20）→
駒ヶ岳登山口（13:20）→おのこ駐車場（13:30）→
北橘温泉ばんどうの湯（14:30～15:30）→新越谷駅（18:00）

3連休の初日でしたが久喜ICあたりで少しノロノロした程度でスムーズにおのこ駐車場に着きました。車の外気温表示は 23℃で天気も良く気持ちよく登山できそうな予感を持ちながら赤城神社でお参りをしていざ黒檜山登山口へ。が、登山口から結構急坂で岩場が多くこの日は何故か足が上がらなくてかなりキツかったです。途中から土屋さんに先頭を変わってもらいようやく山頂へ。山頂から 2 分の絶景スポットで昼食と休憩をとりました。そこには疲れが吹っ飛ぶような景色が目の前に拡がってとても気持ちがよかったです。大群のとんぼを見た後に駒ヶ岳へ向かい所々にある鉄の階段を使って下山しました。下山後は温泉に寄って汗を流し、帰りの高速も渋滞することなく無事に新越谷駅に着きました。個人的には 2 か月ぶりの登山で結構バテてしまい（下りの写真を殆ど撮っていない）もっと体力をつけなくてはいけないと思い知らされた山行になりました。

唐松岳～五竜岳

記：畑野　順二

◆山行日：2018 年 7 月 14 日～17 日
◆山行者：L 畑野順・大門・新島・秦・山田
◆コースタイム：
7/14　八方池山荘 8：30-八歩池 9：40-12：50 唐松岳頂上山荘 14：10-唐松岳 14：30-唐松岳頂上山荘 15：15
7/15　唐松岳頂上山荘 5：00-7：50 五竜山荘 8：55-五竜岳 10：20-五竜山荘 11：40
7/16　五竜山荘 4：45-大遠見山 6：40-ゴンドラ乗場 9：05

7/14　草加を 4：00 に出発して、八方の駐車場に 7：30 頃ついた。すでに駐車場は満車に近く、なんとかスペースを探し駐車できた。良かった。
ゴンドラリフトなどを乗り継ぎ八方池山荘まで行く。
天気予報通り晴れで、今日は唐松岳頂上山荘までなので、余裕があり花を楽しみながら歩く。
八方池からの白馬三山を見たかったが、なぜかこの時だけは白馬三山は雲の中でガックリ。

唐松岳頂上山荘につき、テント場を見るとすでに満杯だ。むりやり登山道の広い場所に設営した。3 連休で混雑するだろうとは思っていたが、想像以上の混雑だ。
7/15　本日も山小屋が混雑するので、今日下山かもと思い 5：00 に出発した。
皆様、昨晩はそれなりに眠れて、予定通り五竜山荘に泊まることにした。
五竜山荘につくのが早く、今日は平らな場所にテントを設営できた。

五竜山荘のすぐ近くにライチョウの親子がいて皆様で撮影タイムです。
飲み物と雨具だけを持って、五竜岳へクサリ場は慎重に歩く。
7/16　帰りの高速道路の渋滞がイヤで、5：00 に五竜山荘を出発する。
遠見尾根は、アップダウンが続きものすごく疲れました。
ご参加していただきありがとうございました。

三国山

(1636M)

記：畑野　仁美

◆山行日：2018 年 7 月 15 日（日）
◆山行者：　L 鈴木廣・新庄八重・関口美津江・今泉優子・畑野仁美
◆コース：駐車場 8：30～三国峠 9：17～三国山 11：50～三国峠 11：50～駐車場 12：30

月夜野 IC から猿ヶ京温泉街を通り三国街道 R17 沿いの駐車場に停め、道路を少し歩いて三国トンネル入り口脇から入る。しばらくは沢沿いの道です。
猛暑の登山チョット歩いただけで足が止まる、ほんの少しの日陰と風がうれしい。
ジグザグに登ると分岐があり、旧三国街道に続く道で帰りはこちらから駐車場近くに降りる予定、峠はすぐそこです。
以前、大源太山に登った時も三国山から行った、その時はトンネルの向う側から今回と逆方向から峠まできました。

大きな鳥居と避難小屋を兼ねたお社の脇から登る、ここから山頂までは魔の階段が続く、でも登り始めるとニッコウキスゲ、クガイソウ、シモツケソウなど色とりどりの花が咲いていた、中腹にはニッコウキスゲの群落が広がっていてその向うに苗場山が見える。
後半分頑張って階段を登ると山頂です、ここ頭上に沢山のトンボが乱れ飛んでいました。日影がないので峠まで下ることにしましたがもう足はプルプルしています～
昼食休憩して、来た道を帰りますが沢沿いの道に出てしまった、峠からすぐの分岐から旧三国街道方面に行くはずだったのですが、分岐を見逃してしまったようです。
登り返すには来すぎたようでこのまま下ることにしました。

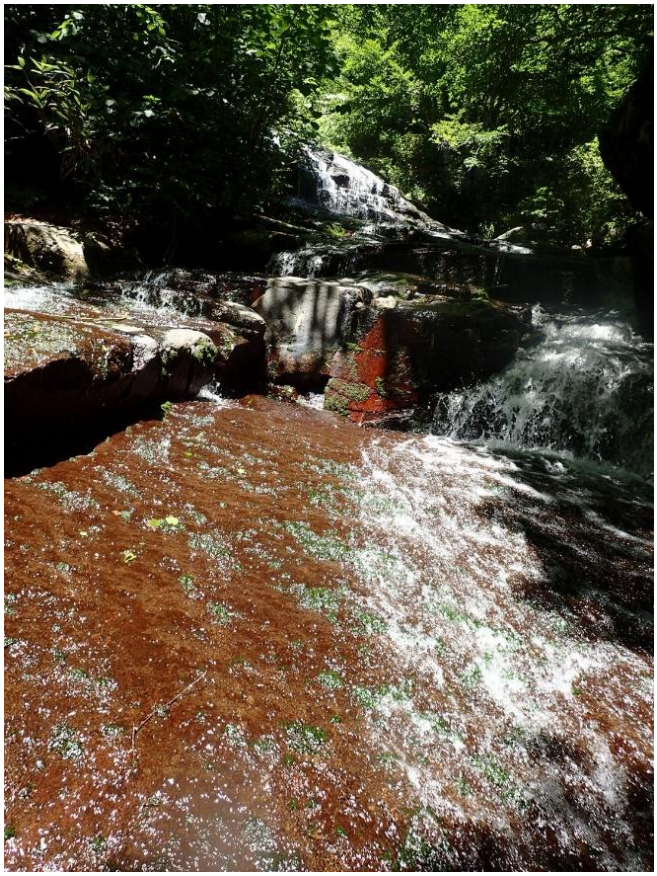
お風呂は法師温泉へ行きました、レトロな旅館のお風呂、大浴場は混浴だそうです。もちろん女性専用があります。
ニッコウキスゲの群落がみられたのと素敵な温泉に連れて行ってもらってリーグに感謝です、ありがとうございました。

東北沢登り遠征パート１　安達太良山　湯川

7/15　L：長田一樹　会員外　　記：長田

7：30 塩沢スキー場　駐車場→8：30 F1→9：15 3 段滝　10：15→10：45 八幡滝 10：55→11：15 霧降ノ滝 11：50→八幡滝 12：15→登山道下降→13：20 駐車場

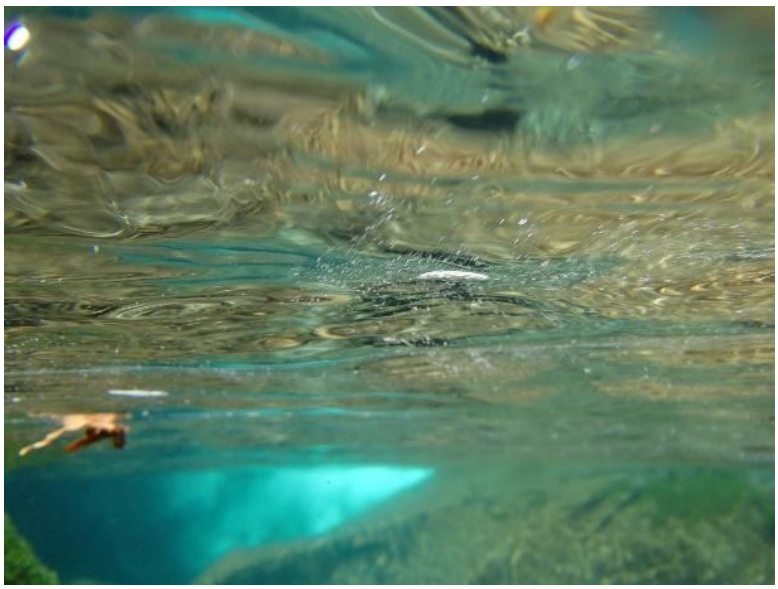
世間は 3 連休ですが、土曜日にあまり休みを取れない自分にとっても貴重な連休！東北方面の沢に入りたいが沢中 1 泊 2 日だと日程が厳しそうなので、安達太良山で唯一残っていた湯川と、メジャーですが行った事が無かった前川大滝沢と併せて日帰り 2 本セットで行って来ました。事前情報はある程度調べましたが、2 本とも滝の登攀可否とコースは現地で決めようと思い、地形図のみで遡行図は持たずに遡行しています。



車の中で仮眠していると強烈な太陽で起こされるアッツイ(汗)用意して 7：30 出発、すぐに入渓出来るが F1 までは約一時間のゴーロ歩き、湯の花なのか？温泉成分のせいか？石の水に浸かっている部分が白くなっているのが面白い！水不足で水量それ程でもないかと思っていましたが、そこは東北の沢それなりに豊富で冷たい。暑い最中の遡行には川の水の冷たさも心地良い！ヌメリあるのでフェルトの方が良かったかも？F1 は左側適当にフリーで上る、3 段の滝は右岸に立派な巻道とアルミの脚立まで用意されて纏めて巻けるようですが、折角なので登ってみる。最初は左側をフリーで！思ったより寝ているので楽ちんⅢマイナスくらい、二段目は右側壁が楽そうだったが泥や葉っぱ乗っていて汚れそうだったので水流の右側、ギリ濡れない所を行く。微妙にスタンス無かったのでクロモリハーケン打ってから凹角に左足ヒールで突破、一箇所だけなのでⅣ－くらい？リーチの無いフォローはハーケン回収後、右壁使用してドロドロになりながら来ました。そちらの方がⅢ級くらいで簡単なようです。三段目も右側を突破Ⅲ＋くらい。二段目からロープ出して最後まで使用しました。ココを過ぎるとゴーロも無くなり癒やしの滑滝と滑床の世界が広がります。滝の釜はターコイズブルーです！

赤い川床には緑の苔が生えてコントラストが綺麗です。程なく登山道と合流して八幡滝へ到着、その先は旧登山道だったらしく錆びた鎖もあります。

滑っていやらしいナメ滝を超えると、本日のメインイベント霧降ノ滝！水流の右側が登れそうだが上部は水流に入ら無いと駄目そうで、尚且かなりの水量で悩ましい... 右側の灌木帯に逃げたと聞いたのも有ったので、最悪右に逃げれば行けるだろうと思い取り付いてみました。下部から脆くヌメヌメで嫌らしい、登りながら怪しいのは落として行くがヌメって外傾しているスタンスが恐怖を増長させる、錆びて朽ちかけているハーケンを見つけてプロテクションを取ると、昔ココを登ったであろうクライマーと時間を共有したようで嬉しく思う。ただ適当に調べたのと聞いただけだったので、カムもエイリアンとリンクカムの#1#2 しか持って来なかった…後悔しつつナッツも動員して、後 2m弱の所まで来るが灌木帯はガレガレで駄目…水流側に行かないと無理そうだが一歩が遠いのと水流の中の掴んだホールドがグラつき剥がれる(汗)地味に水を被っていると段々と体温を奪われマイナス思考に囚われる、フレンズの#2～#3 があればプロテクション取って思い切りいけるのだが、最後に取ったプロテクションはナッツで足元から 2m弱下...。ラバーソールでのヌメリもあり萎えました(ToT)ココはフェルトソールですねぇ。



慎重に右に移動してガレの上に乗っている灌木の中でも、親指よりは太い、まともそうなのに捨てスリングに捨てビナ掛けてロープ通して、悔しさと安堵をミックスしながらロアダウンとクライムダウン併せ下降しつつカムとナッツを回収して降りる。もう少し修行が必要なのか？賢明な判断だったのか？は解らない、又あの錆びたハーケンを打ったクライマーは直上して抜けたのか？そんな事も考えながら、気を取り直して来た道を戻る。途中でメンバーが 3 回ほどスリップダウンする、足の置き方を教えて慎重に歩いてもらうが、一箇所だけロープ出して懸垂をする。遡行中は自分達だけでしたが、八幡滝から登山道に復帰して、快適に下降していくと登ってくる人達が結構居ました。13:20 にクソ暑い最中の駐車場に到着、片付けているそばから着ている物が乾くくらいでした。下山後に岳の湯に入るも、熱くて湯船に長くは居られない(笑)常連さんも今日は一番暑いと言っていました。

実際福島は当日に最高気温記録したようです！お湯を送っているパイプが外に在るため外気温の影響を非常に受けるらしいです。それでも熱いお湯でサッパリして、奥羽線の峠駅に移動し、飛び入りの野良ニャンコを交えて宴会して明日に備えて 20：00 就寝。
駅近所の飼い犬の大型犬が夜に駅を徘徊するので注意！！

使用ギア： OP リンクカム#1 #2　エイリアン、BD ナッツ#8 #9、モチヅキ　クロモリ薄刃(回収済み) 50mロープ、ラバーソール

＊フレンズ#1～#3.5 使えそうな場所あり

東北沢登り遠征パート 2 吾妻 前川大滝沢

7/16　L:長田一樹　会員外　　記：長田

7:25 滑川大橋駐車場 7:35→8:15 前川大滝 8:45→5m滝→幅広 6m滝→8mヒョングリの滝→12m滝→11：40 桶木沢→11：50 トロッコ道跡→12：45 大滝展望台 12：55→尾根下降 13：35 前川大滝沢出合い→13：40 駐車場

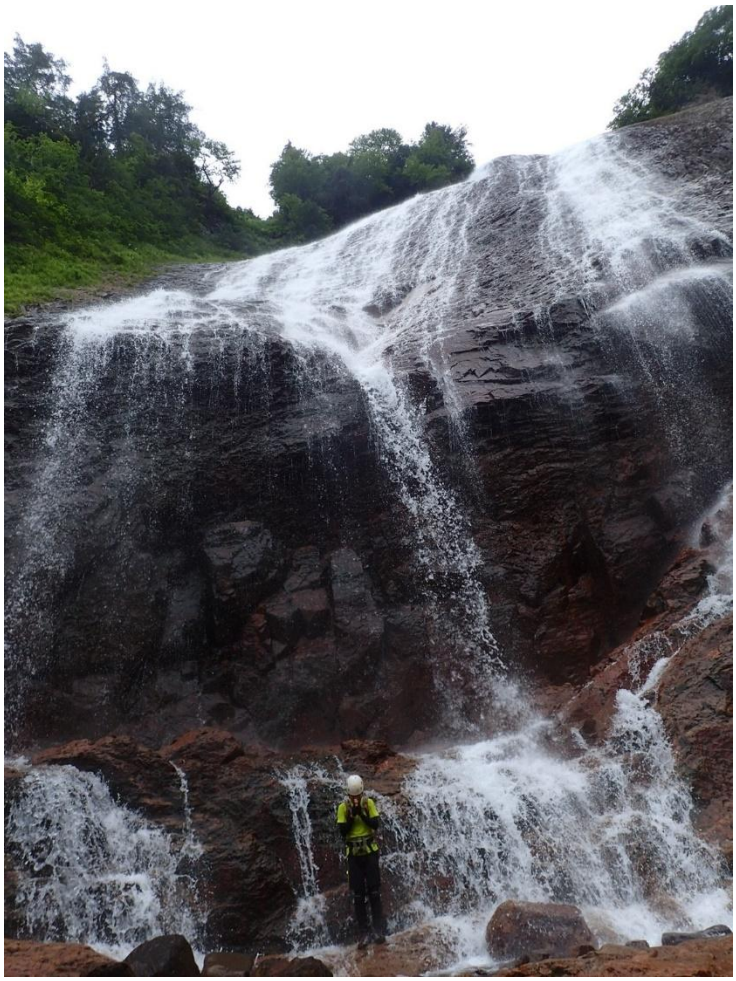
5：00 起床で 6：00 出発が、5：30 起床(笑)おまけに昨晩仲良くなったニャンコが朝飯に寄って来たので朝食の世話を焼いてしまい 7：00 出発(汗)

駐車場に着いて用意していると、新潟ナンバーの車が入って来る、沢登りのようなので、挨拶して先に入渓。

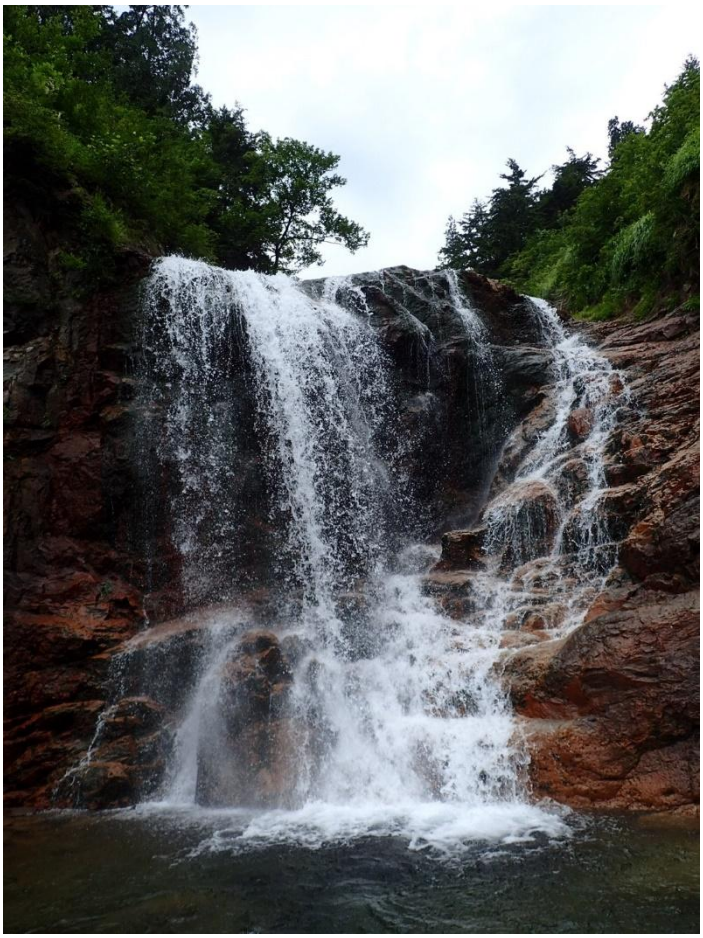
いきなり赤茶の滑床に綺麗な水流で否が応にもテンションはあがる！曇りベースなのが少し悲しいがコレだけ開けた渓で日陰も無いと曇りで助かったのかもしれません。最初の連続した滝はチョット緊張するがフリクションも良いのでロープ出さずに通過、結局この日は一回もロープ出しませんでした。40 分ちょっとで 120m の前川大滝に到着、一応登れる可能性の有りそうなルートを目で追うが、登る気はサラサラ無いのでポカーンと口開けて見上げて、素直にルンゼから巻き上がる。途中二箇所トラバース悪い所があるので気を引き締めて通過、本気で登りたいなら敗退の可能性も含め 60mダブル 2 本と、ハーケン入らない所も多々有るので、リングボルト等が必要になるのでは無いかと思います。そこまでして登ったとしても、リングボルト残置の問題も含めて、果たして価値があるのか？ネットには途中で落ちてグランドして（動けなくなるような怪我は無かったようです）敗退した記録もありました。

滝上に戻り遡行再開。登っても、登っても、開けたスラブの側壁にナメの川床に綺麗な滝に、ブルーグリーンの綺麗な釜！飽きる事が無いと言うか、普通い歩いていてニヤける所は、そうそう無いです。お風呂サイズの釜というか穴があり、入ってみたりナメに寝そべってみたりと、絶景の中だと凄く単純な事でも楽しいです。大滝以外は快適に登れる滝が多いし、中盤からは川床が赤から白に変化していきコレも又楽しいです。ヘツリあり泳ぎありで楽しく進んでいきます。壊れた吊橋を過ぎて終盤に差し掛かると大きい石がゴロゴロとしてきて川床を埋めて、ボルダーちっくな動きが多くなり最初は楽しく登るのですが、今までの景色とは違い普通の上流部分が続きます。贅沢な事に普通の景色には飽きてくるので、遡行を打ち切ろうと地形図を確認する。

右岸側を登山道というかトロッコ道跡が走っているので適当な支沢（桶木沢）を詰めて遡行を打ち切る。ここの水は凄く冷たかったです（汗）大滝沢はラバーソールで正解でした。

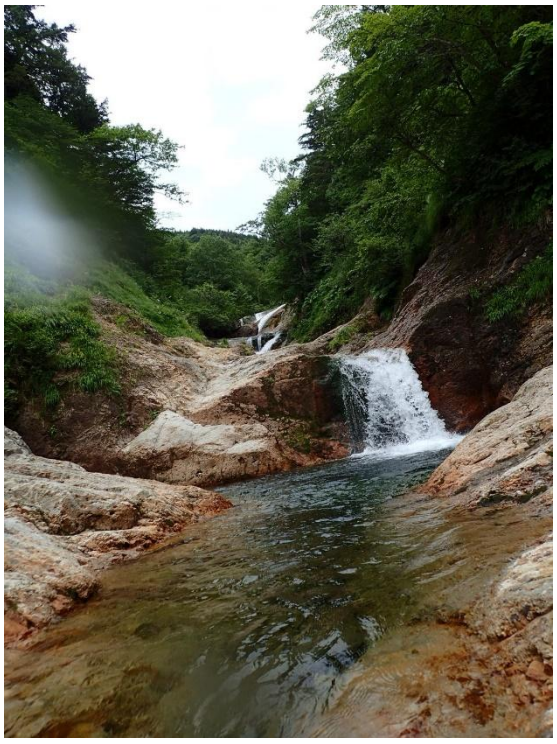


登山道なのか？ヤブに覆われていて何処がトロッコ道なのか？解らないが笹薮を分けると踏み跡があります。左側切れていて危ないが右の山側からのヤブの圧力も凄く、何とかバランス取りながら通過すれば、徐々に快適な道に変わります。それでも所々崩壊しているので登山道としての利用は少ないのではないでしょうか？大滝の展望台で大滝見学して降りようとすると看板が？！看板信じて→方向に進んで行くと鉄塔があり少しすると踏み跡が消えた。あれ？と思い地形図確認しようとしたが、尾根上を進んでいる？滑川温泉方面に行くには下降方向に向かって尾根の右手側に降りないといけないのだから、間違い確定なので GPS で位置を確認してもらうと、やはりロスト、戻ろうかとも思ったのですが、地形図もコンパスも GPS も 2 セット以上あるし、尾根上を降りればそのまま駐車場だし、地形図を確認すると、一箇所だけ急そうだが、最悪懸垂すれば下降に問題ないと判断して、その場でコンパスだけ当てて、そのまま下降継続。急な所では木と笹薮を手がかりにして下降して無事に取り付きの出合いに到着、装備洗って水浴びしてから、車で滑川温泉に行き、お風呂入って帰路につきました。



結局、後からのパーティーと会う事も無く、入渓から駐車場に戻るまで、又自分達のパーティーのみでした。前川大滝沢は噂に違わぬ美渓でしたし、湯川も攀り応えが有る滝があり、沢登りを始めて二回目で連れて行ってもらった万太郎谷の感動以上の感動を久々に味わえた今回の沢旅でした。山形、福島の沢も探せば一泊で行ける所も多々あるようですし、岩魚も居るようです。沢登りからの姥湯温泉泊や、滑川温泉泊まっての沢登りも面白そうです！！

使用ギア：特に無し、お助けスリング、ラバーソール



旭岳（大雪山）暑寒別岳

山本 理郎

■日時　　平成 30 年 7 月 17 日（火）～7 月 20 日（金）

■メンバー　　1 日目
ツアーL=山本、登山 L＝小野寺、阿部、和田、松田、兼堀、黒沢、木原、八並、平野、小林、森（花）鈴木（里）

■コース草加松原 6：00……外環……京葉道……成田空港……新千歳…… レンタカー……層雲峡温泉（泊）

2 日目 宿……黒岳ローウェー……リフト……黒岳山頂……お鉢平…… 間宮岳……旭岳…姿見池……ロープウェー……紋別神居岩温泉（泊）宿…暑寒

3 日目

別野営 4 日目 場……７合目……登山口……朝里川温泉かんぽの宿（泊）宿 …1　　班は樽前山７合目駐車場……西岳……新千歳空港・2 班は真駒内滝野霊園……美々川カヌー……新千歳空港……草加 21：40

1 日目……マイカー２台で成田に向かう。外環が京葉道路につながり、70 分で空港まで行くことができるようになった。送迎付きの成田の駐車場は利用料金が安く、グループ旅行には最適である。 9 時発の Vanilla Air 因みに運賃は早割で 7860 円でした。現地のレンタカーも格安の業者を選択する。新千歳空港内で昼食を済ませ、２台のレンタカーで 240Km 先の層雲峡温泉に向かう。宿は「温泉ペンション銀河」という宿で登山者相手の宿のようで、朝食も朝の４時から OK という宿である。お酒も近くのコンビニで買ってきてくださいという持ち込み自由の宿であった。

2 日目……午前 4 時起床。銀河流星の滝を見たいという女性のリクエストで朝食前に滝見見物に行く昨日まで雨模様が続いたようで、滝の水量に圧倒される見事なものであった。5 時 30 分黒岳ロープウェーの始発に乗るために行列に並ぶ。7 分で 5 合目まで運んでくれる。さらにペアリフトで 15 分で 7 合目そこから登山が始まり 110 分で黒岳山頂（8：30 着）となる。この 110 分が結構厳しかったが頂上に出たとたん全山が見渡せるパノラマとなり、今までの疲れが一変に吹き飛ぶ思いであった。阿部さんと松田さんには当初から黒沢さんと里子さんを乗せて車を旭岳ロープウェー乗場まで回送してもらう役目を了解してもらっており、４

人は黒岳までゆっくり登ってもらった。縦走組 9 人は中岳、間宮岳、旭岳への縦走が控えており、先が長くコースタイムを考えながらの行動となる。

黒岳ロープウェー乗場（6：00）……リフト終点（6：42）……黒岳（8：30）……中岳（10：47着）……間宮岳（11：34 着）……旭岳（13：10 着）……姿見池（15：21）

振り返ってみると黒岳の登りで 30 分ロスったが、その後ピッチを多少上げ旭岳ロープウェーに降りたときはほぼ予定どおりであった。10 年前、山の会で旭岳を登り裾合平に下るコースで一面のお花畑に出会い、その光景は今でもはっきり覚えていますが、今回は裾合平コースを通過しない計画ではあるが、あまりにも少ない高山植物にガッカリであった。前回とは 12 日遅い山行で、花の盛りが終わっていたのかとも想像してみました。姿見駅から 15：30 のロープウェーに乗り下界の駐車場へ、松田阿部組の層雲峡から 100Km も回送をしてもらった車に乗り、今晩の宿である 145Km 先の留萌市の神居岩温泉へと向かった。

3 日目……午前 4 時起床、４時半増毛町の登山口へ向かう。暑寒別岳は登り口が 3 本あり、今回は暑寒ルートを選んだ。登山口出発（5：45）1 合目まではぬかるんだ登山道が何か所もあり、40 分を要した。そこから先は緩やかな尾根を上る感じで、5 合目（8：20）まで 6.2Km の標識があった。５合目から先は勾配がきつくなり、７合目は（9：30）でガイドブックより１時間近く遅れた。当初より今日の登山は山頂まで行くのは無理との判断があり、７合目の先で登頂を断念する。山頂付近にはお花畑がある様でせめて見晴らしの効くところまでと考えてが、それもかなわなかった。登山口に戻ったのは 12：30

を過ぎていた。今日の宿は、朝里川温泉の「かんぽの宿」を予約していたので、早めに宿にはいり、ゆっくり温泉につかりたいという気持ちが大勢を占めたように思う。
暑寒別野営場(登山口) 5：45……1 合目 6：27……５合目 8：20……7 合目 9：30 （登頂断念）……
登山口 12：30　　（登頂するには更に 3～4 時間必要であり断念）

4 日目　　……最終日である。帰りの飛行機の予約もあり、軽い登山かレジャーを考えていた。メンバーの希望を聞いたところ、樽前山登山組とカヌー教室参加組にうまく分かれたので、2 班の別行動をすることにした。

樽前組の報告は阿部さんが書いてくれることになり、別紙での報告とする。カヌー組はカヌー教室が 12 時からなので、真駒内滝野霊園に寄り道をしました。イースター島のモアイ像が何体も並び、大仏があったり、ストーンヘンジあったりで、その意図するところはよく理解できないが、北の大地の解放感はなんとも清々しい。台湾人のグループと出会ったが、台湾では有名な場所らしい。

カヌー教室は千歳空港と苫小牧の中間地点にあるウトナイ湖に流れ込む美々川で 4Km の川下りが楽しめる場所があります。全員が初めての経験でカヌーの前席と後席で息を合わせ、船の方向を定めるのが結構難しく、慣れるまでに川の中で回転したり、岸の草木に突っ込んでしまったりしましたが、インストラクターが並走してくれて、後半の 2Kmは余裕をもって漕艇できました。山行の余興でしたが、楽しい時間でした。

3 泊 4 日の北海道の山旅も怪我もなく無事に終わり、ほっとしているところです。それにしても 80 代のメンバーで、黒岳に登り、カヌーを初体験できるのも、山の会があってこそであり、日ごろから鍛えていないと中々できることではない素晴らしいことだと思います。
リーダーとして至らぬ点も沢山あったとおもいます。まずは参加者のメンバーシップに感謝したいと思います。

樽前山（4 日目の山行）

記・ 阿部 芳夫

■日時　　7 月 20 日（金）

4 日目

■メンバー　　登山 L＝阿部、和田、木原、八並、平野、森（花）鈴木（里）

■コース朝里川温泉かんぽの宿（7：40 発）……札樽自動車道……千歳 IC……樽前山 7 合目駐車場（9：25 着～9：45 出発）……東外輪山（10：35）……西山頂上（11：20 着～11：30 下山出発）…… 登山口（12：40 着）……車出発（13：00）……レンタカー会社

今日は 2 班と分かれて 7 人で樽前山登山に向かった。7 合目駐車場で昨日から足を痛めていた和田さんが車で待ってる事になり 6 人で登る事にした。今日は最後に飛行機の時間もありみやげ物を買う時間等を考えてある程度頑張って登らないといけないと皆が覚悟を決めている。最初のうちは林の中で日陰ではあるが足幅の合わない階段ばかりで、なかなかきつい登りだ、その内、里子さんがきつくなり遅くなりだしたので平野さんにお願いして一緒に少しゆっくり歩いてもらい他は頂上目指して頑張った。林が切れて、ざれ場になる頃になると、木原さんが遅れだした、上までは無理なようなので少しゆっくり歩いて後続の里子さんと合流してもらい、二人でゆっくり歩いてもらう事にして我々は平野さんを待って四人で頂上を目指して登った。後続の二人は外輪山あたりで下山する事になり四人で頂上を目指した。花は結構咲いている、特にイワブクロの花が、途中一面に咲いてるところもある。目の保養になった。その内外輪山過ぎからガスってきた。だんだん廻りがみえなくなった。そのまま登るが上では何とかちょっとでもガスが消えてくれと願いながら登った。樽前山神社でもすぐ前のドームがほどんと見えない、晴れることを願って頂上まで行った。最初はガスっていたが 4～5 分できれいにガスが流れてくれた。あっと言う間に廻りがきれいに見えた。ここまで登ったかいがあった。皆で喜んで写真を撮ったりして下山に着いた。下の二人からも登山口に向かって降り始めたと連絡があり安心して下山に着き、12：40 分頃に登山口に下山する事が出来た。皆さんお疲れ様でした。

北アルプス　蝶ヶ岳　テント泊

〈日程〉2018.7.19～20(1 泊 2 日)
メンバー:L 殿塚、井口、宮澤、井居　　記：井居

〈行程〉
1 日目…10 時三俣登山口→12:30 まめうち平→16 時蝶ヶ岳ヒュッテ
2 日目…7:30 蝶ヶ岳ヒュッテ→11:00 三俣登山口

テント泊をしてみたいとリーダーにお願いし実現しました。メンバーは 40 代、50 代、60 代、70 代と、10 歳ずつ離れた 4 人。山の会ならではのメンバー構成ですね。
三俣からの登山道は樹林帯であまり展望がなくしかも体感気温は 30 度を超えていたと思います。暑さに増してザックも重く、後半は 30 分ごとに休憩をとり「楽しい！」だけではない山行でした。それでも山頂からの景色を期待して、また可憐なお花たちに応援されながら、なんとか登り切りました。
大量の汗をかいた後のビールは本当に美味しかった～！ 2 日間天気も良く、夕暮れ、星空、そして朝日を浴びる山々もきれいに見えて全てに満足の山旅でした。
初めてのテント泊でしたがぐっすり眠ることができ、今後も是非テント泊参加させていただきたいです。
テントを背負ってくださった殿塚リーダー、ご一緒してくださったメンバーに大変感謝しています。

上越　魚野川万太郎谷　大ベタテ沢右俣

7/29　L:長田一樹　会員外　　記：長田

9：20 下部駐車場→9：40 最終スリット堰堤 9：45→10：40 大ベタテ沢出合い 10：50→11：20　五段 60m滝下部→13:40 30mスラブ→15:20 藪こぎ開始→15:55 稜線登山道 16:10→17:25 駐車場

大ベタテ沢は全長 6km とコンパクトですが、標高差は 600m ちょっとあり、急峻な沢です。新潟方面は割と台風の影響を受けてなさそうだったのと、天気予報が谷川側に比べると良かったので行って来ました。台風あとなので、やはり駐車場と沢には我々だけでした。

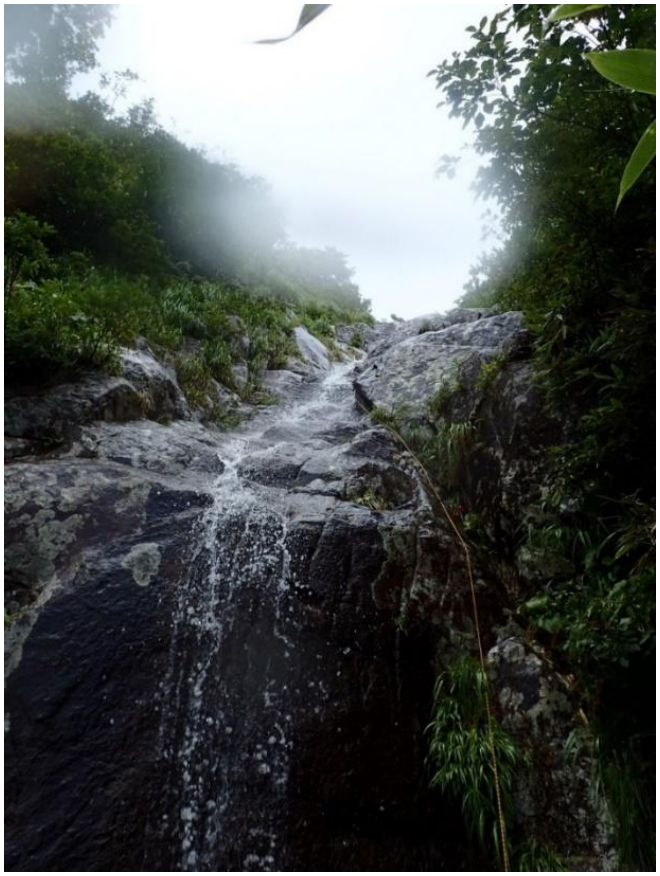
朝方まで台風の雨が残る予報でしたので、ギリギリまで出発を遅らせる。なのに林道で行く事を忘れて早々と入渓してしまう失態(汗)
最終スリット堰堤では増水していてメンバーが流されて取り付けず、お助けスリングにて引き上げる。濁流とまでは行かないが、濁って増水した万太郎谷本谷を大ベタテ出合いまで登る、ナメ滝郡が出てきて何時もであれば綺麗とか感嘆の声が上がるが、残念ながら今回は濁った水に迫力ある水量で、我々を癒やしてくれない、ウォータースライダーなど出来る筈も無い(汗)

ナメ滝郡の途中からショボい枝沢(気を付けないと本当に見落とします)に入り、本当にココか？と細かいガレと言うか小さい滝を少し登ると、開けてきて、本格的な滝の連続になります。ココまで来ると漸く大ベタテ沢なんだと安堵出来ました。
時折ゴーッというジェット機の様な音がして

風が強まる中、小さい滝を登って行く、大ベタテ沢は直登多いので、シャワークライミングばかり、二股を右に入って五段 60m の滝下部に着く頃から風雨が強まります。

1 段目は水流から外れた左側のクラックを手がかりにして登れそうだが、風雨が心配になってきたので左から巻く事にしたが、今ひとつ？草付きが濡れて滑るので難易度と緊張度が双方アップで時間がかかる、二段纏めて巻こうとして巻き切れず一段目の落ち口には、懸垂で降りないとダメそう...やる事に思う事は、皆さん一緒のようで残置支点が目の前に（笑）ロープ出してヤブに絡まないように、バッグに入れ直し繰り出しながら下降して 2 段目から登り出す。また地形図のみで遡行図無視のせいか（笑）巻き失敗....。どうもココは右から巻くのが正解だったようです。

ヌメリが嫌で、とにかく水流を登るから、カッパ着ていてもホールド取りに行くと袖口から水が入り、頭から水被って、濡れた体に更に雨が当たり、強まった風が当たり、体温を奪われていく(ToT)滝はヌメヌメで神経使うが、

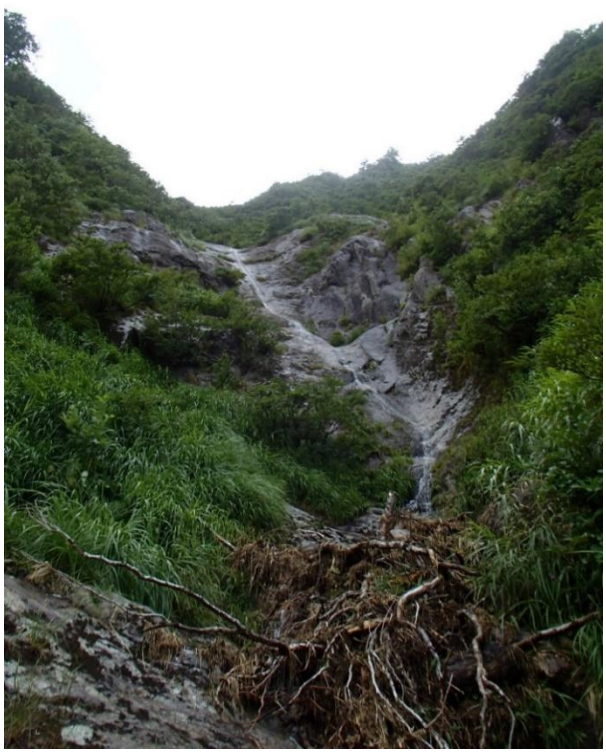


フェルトで濡れた草付きの巻きはもっと嫌なので、頑張って登ります。2 段目は右側から巻き気味に途中水流側へトラバース、3 段目は右から 4 段目は記憶に無いが？正面からアンダー使ったような？5 段目は比較的楽だったような気がしますが、多過ぎて忘れました。エイリアン効く所ありましたが、もう少し大きいフレンズの#0～#1.5 くらいがあると良かったです。その後もロープ仕舞うのが面倒になり出しっ放しで何個か滝を登る、30mスラブは上部の 5m樋状と併せると 50mロープイッパイです。雨に濡れてスラブが嫌らしいが、何より風が強くて滝の水が、風で煽られて巻き上がり、水流から離れていてもシャワーというのが萎えました。樋状の上の灌木で終了点作って引き上げる。

ココが終わって漸くロープ仕舞いましたが、その後も 3,4mくらいの嫌らしい滝の連続、尚且ムーブ考えないと抜けるのに苦労するので、雨の中の登攀と云う事もあり非常に疲れました。ツメて藪こぎ開始地点になっても天気は回復せず....。藪こぎは 15 分程度との事だったのですがルート間違ったのか？30 分強かかる（汗）雨で下地がドロドロなのもあったのでしょうが？傾斜が強く腕力勝負で非常に疲れました。

稜線に抜けると、晴れて来ていて夏雲が浮かび、大源太や巻機山方面は快晴でした。茂倉岳と万太郎山は辛うじて見えましたが、谷川は終始雲の中で残念。

下山では、暑気払い３連荘で体力の消耗が激しかったのか？雨のせいか？足元が覚束なくなり、三回ほどスリップダウンする。長目の休憩を取り、水分補給してストック借りて慎重に降りる。駐車場で着替えて岩の湯でお風呂に入って、湯沢でご飯食べようかと思ったのですが、フジロックの最終日渋滞も有るかと思い直し帰路に着く。途中の谷川岳 PA でカツ丼とうどんのセットを頼むが、ご飯を少し残してしまう…もう無理は止めます。22：15 草加着



使用ギア：50mロープ、エイリアン、フェルトソール

フレンズ#1.5 以下あると便利です。

ハーケン効く所は余り無さそうです。30mナメ滝上部に一箇所リングボルト有ります。

燕岳～槍ヶ岳縦走

記:鎌形瑞枝

日　　時・・・2018 年 7 月 30 日～8 月 2 日
メンバー・・・L.鎌形瑞枝、森花江、出口栄子
日　　程・・・・5:30 八潮 IC―中央高速―8:40 安曇野 IC―9:00 穂高駐車場 10:43―11:40 中房温泉 12:10―15:25 合戦小屋―16:50 燕山荘(泊)
7/31・・7:10 燕山荘―燕岳往復―8:40 燕山荘 8:55―12:45 大天荘―大天井岳往復―大天荘(泊)
8/1・・・大天荘 5:10―8:00 西岳ヒュッテ―11:30 ヒュッテ大槍―12:50 槍ヶ岳山荘―槍ヶ岳往復―14:30 槍ヶ岳山荘(泊)
8/2・・・6:10 山荘―9:05 槍沢ロッジ―11:00 横尾―13:15 明神―14:10 上高地バスターミナル（バスにて島々、電車にて松本、穂高駐車場）

7/30　バスを待つ間、穂高神社で完登祈願。中房温泉は学生等若者が多く、北アルプスにやってきたを実感する。遅い出発で次々追い越される。第一、第二ベンチを過ぎ、合戦小屋に。恒例のスイカを頂きました。展望はなくガスの中を行く。山荘が中々見えず突然、到着。三人で１スペース使う事が出来ました。夕食時ホルンの演奏。　　(鎌形)

7/31　朝の燕山荘からの眺望は、槍ヶ岳を丸い月が照らし、反対側に雲海の上の富士山が霞んで見えて、３６０度見渡せました。日の出の後は槍ヶ岳を始めとする峰達が赤く染まり、北アルプスの人気の理由が分かる気がしました。

燕岳を朝登ってから出発です。槍ヶ岳を望みながら進み大天井岳を登った後、今日は大天荘泊となります。天気が良くてイルカ岩と槍ヶ岳をカメラに撮ったりできても、雷鳥は燕岳では会えませんでした。その後大天井岳の近く、霧が出て涼しく感じる辺りで二カ所、親子の二組の雷鳥を見ることができました。やっぱり嬉しい。

大天井岳の山頂は岩ツバメが沢山旋回していました。山頂では２～３人出会った位で、大天荘も一人一組の布団で眠れました。平日登山ですから人出はとても少ないです。

大天荘の夕食はとんかつ、ハンバーグ、鯖のみそ煮から選べます。生ビールにワインもありました。満足、満足。

私は初めての山小屋連泊の縦走ですが、鎌形さんや森花江さんは、紐を出して洋服を干したり、何種類ものフリーズドライを用意していたり、経験者としての姿を今回の山行で見せて頂きました。特に鎌形さんは、８回目の槍ヶ岳と聞いて唖然としました。　(出口)

８/１　大天荘を早朝発つ。西岳へ続く喜作新道をのんびり。槍ヶ岳の山容を間近に見ながら進んだ。景観は素晴らしく、胸ワクワク。西岳ヒュッテでヘルメット装着。

東鎌尾根へ。水俣乗越まで急な下りで、岩場の鎖やハシゴ、慎重にと声をかけして進む。道の両側が切れ落ちていたり、注意して足元ばかり見ていた。岩間にチシマギキョウの青紫がキレイ、ホッとする。尾根から槍沢を登って来る人たちがアリさんのように連なって見える。山荘に着いた時は“あ～やった！！”一休みして槍へ。見上げればすごい傾斜に足はガクガク。「大丈夫ダイジョウブ」とつぶやきながら登る。

自分の足で穂先に立った喜び。感謝です。ガスで展望は叶わなかったが大満足でした。

ありがとう。明日は長い行程。気を引き締めて行こう。　　(森)

８/２　５時の朝食後槍沢を下る。播隆上人の洞窟まで来ると槍が小さくなり、昨日通過した東鎌が覆いかぶさるように連なる。１５年前にアルバイトをした槍沢ロッジで休憩。若いスタッフが掃除中。大浴槽で入浴できる良い小屋である。徳澤園でソフトクリームを頂く。ミストシャワーに悠仁さまが寄ってきて、紀子様がカメラ向けていました。

リュックにヘルメットがついていたので、槍か穂高に登るのでは？頑強な若者が５、６人付かれ、横尾方面に向かっていました。明神まで来ると、観光客の方が多い。

小川でバイカモを探したが、見つけられず残念！７羽のライチョウ、駒草にも出会え、大満足の山旅でした。

宝剣岳 (2931m) ・ 空木岳 (2864m)

(長野県駒ケ根市)　　記：山﨑 正夫

【日 程】2018(平成 30).7.31(火)～8.2(木)

【天 気】①晴れ　②晴れ一時雷雨(30 分)　③晴れ後曇一時雨

【ﾒﾝﾊﾞｰ】Ｌ．山﨑正夫、山口敏雄

【ｺｰｽ】

① 7/31(火) 草加駅 5:25→5:35 北千住駅 5:35→5:52 西日暮里駅 5:59→6:18 新宿駅～ﾊﾞｽﾀ新宿＝高速ﾊﾞｽ 6:55→10:18 駒ヶ根ＩＣ(770m)～路線バス＝女体入口ﾊﾞｽ停 10:37→11:15 しらび平(1662m)11:35→駒ヶ岳ロープウェイ→千畳敷駅(2612m)11:42 ホテル千畳敷/昼食 12:30～宝剣山荘 14:35～15:20 伊奈前岳(2883m)～15:48 宝剣山荘 (泊)

② 8/1(水) 宝剣山荘 6:10～6:35 宝剣岳～7:10 極楽平～ (島田娘ノ頭(2858m)～濁沢大峰～11:10 檜尾岳 (2727m) 11:20～大滝山(2708m)～13:25 熊沢山 (2778m) 13:35～15:40 東川岳(2671m)～16:05 木曽殿山荘 (泊)

③ 8/2(木) 木曽殿山荘 6:00～第 1～2～3 ピーク～8:28 空木岳(2863m) 8:35～9:10 駒峰ヒュッテ 9:30～10:12 駒石～10:42 分岐～12:06 ヨナ沢の頭～小地獄～12:10 迷尾根～大地獄～14:00 池山避難小屋分岐～野生動物観察棟～15:20 林道終点～16:30 菅の台ﾊﾞｽｾﾝﾀｰ～17:00 こまくさの湯 17:40～菅の台ﾊﾞｽｾﾝﾀｰ(850m)18:00→18:05 女体入口バス停～駒ヶ根ＩＣ 18:50→22:15 ﾊﾞｽﾀ新宿→23:40 草加駅

【経 費】交通費＝草加―新宿＝620 円×往復＝1,240 円＋高速バス往復 7,000 円＋　現地バス(950＋230 円)＋ロープウェイ 1210 円＝10,630 円、
山小屋(１泊２食)＝8,800 円＋8,000 円＝16,800 円　　合計＝27,430 円

7/31(火)

当初計画では 7/16(月)～18(水)、４名の山行であったが、7/8(日)から 19(木)まで１２日間、体調不良の為、暗い部屋で一人寂しく寝て、体調の回復を待った。その間、市販薬と寝るだけでは回復を望めないと、草加中央診療所の関先生に診察してもらい、「市販薬と寝るだけで治る年ではなくなったのだから」と諭され、カルテに「空木岳山行を取りやめた」と具体的事項を記入されて、医家向け薬を出していただいた。そのお陰で 7/20(金)にようようと起き上がることができた。体重が５kg減り、久しぶりの５８ｋｇになってしまった。

その間、山の会の皆様には大変御心配をいただき、ありがたさが身に沁みました。

大きな山に行くのは、今年は諦めて来年にしようと思った。しかし、山は逃げないが、来年になるともっと歩けなくなるのではないかという不安も持ち上がってきた。

幸い山口会員が付き合っても良いとのことで、先に同行していただくことになっていた会員には申し訳ないが、病み上がりの身とて、最小人数で山行を実施することにさせていただいた。

高速バス、路線バス、ロープウェイも待つことはなく順調に進み、千畳敷へ。

千畳敷ホテルのレストランで昼食を摂る。ウエイトレスさんにホテルの宿泊予約状況を聞くと３か月前から予約を受け付け、常に満員とのこと。逆に昨年はよく予約が取れたものだと思う。昨年は９月５～７日の予定で１泊目に千畳敷ホテルを予約して山口会員と二人で空木岳を歩く予

定であったが、天候悪化の為、山行を諦め、３割のキャンセル料を振込んだのだ。今年もホテルを予約しようとしたが、全く空きが無く、予約を取れなかった。

宝剣山荘にて手続きし、時間があるので、目の前に見える伊奈前岳に行く。目の前に見えるかっこいいピークが頂上と思っていたら、更に行くこと、３番目のピークが伊奈前岳であった。最初と２番目のピークは立ち入り禁止になっている。以前には入れたようで路が出来ている。北御所登山口から入ってきた登山者と一頻りお話をする。

帰りはかなりの速足で宝剣山荘に戻る。天狗荘を開く程の宿泊者はいないようだ。

同室は北海道から来た７５歳の紳士、島根県益田市から来た５０代の二人連れの計５名。布団５枚を敷くの苦労する狭さだ。この３人とは翌日の道中が一緒になる。

8/1(水)

朝５時に明かりがつき、目が覚める。この部屋は窓が無く暗いので、５人とも寝ていた。食堂に行くと既に多くの人が食事を始めている。更に外に出てみると、宝剣岳を登る明かりが見える。

食事を済ませ、６時１０分に出発。益田市からの２人は我々からの情報で宝剣岳を経由せず、ホテル千畳敷経由の巻道で行く。宝剣岳の頂上で山口氏は大岩の上に立つ。登りよりも下りの方が厳しい。途中で北海道の紳士が追いつく。下りの途中で、ブロッケン現象で自分の手を振る姿を見ることが出来た。山口氏も同じ体験をし、共に感激する。宝剣岳の道は岩の変化があり面白い。

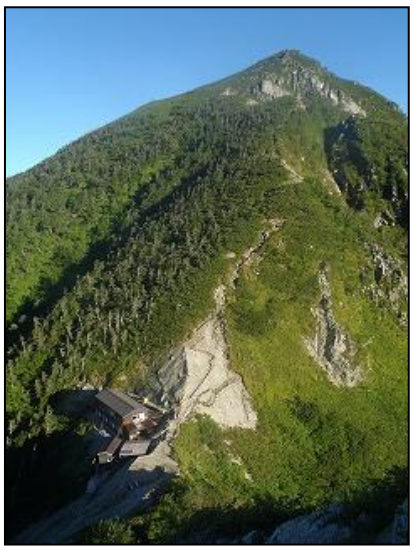
極楽平で益田市の二人連れと一緒になる。結局、同室だった５人で暫く一緒に歩く。北海道の紳士の歩きが素晴らしく、すたすたと先に行く。逆に益田市の二人連れは我々の後をついてくる。

晴れて展望の良い中、島田の娘ノ頭、濁沢大峰を経由し、気持ち良く檜尾岳に着く。東方向にかまぼこ型屋根の檜尾避難小屋を見る。続いて熊沢岳に向かうが、岩稜が続き変化があり、歩きがいがある。漸く熊沢岳の頂上に着き、４人でほっとする。

熊沢岳頂上を過ぎると、やっと空木岳の雄姿が初めて見える。ここで急にかなり近くで雷が鳴りだす。と思う間もなくスコールのような雨が降る。雷と大粒の雨で合羽を着けるのに苦労する。３０分間降り続き、東川岳の手前でやっと止む。１５時０５分から１５時３５分の間であった。

以前から山小屋には１５時前には入るように言われてきたが、本当に雷は怖かった。

東川岳を越え、下ると途中で漸く木曽殿山荘が見える。１６時５分に到着。やっと夕食を出してもらえる制限時間内に到着することができた。北海道の紳士は１４時３０分に到着し夕食を確保。益田市の二人連れは遅れはしたものの、制限時間内に到着した。予約していなかったということで、夕食は無しとなったが、泊まることは出来た。そのような人が５人位いた。２階の大部屋の寝る場所も皆が揃ってから、おもむろに小屋の主人が各グループ、個人を割り当てていく。夕食までは皆が１階や霧で曇る外でたむろしているしかない。昔気質のオヤジである。



8/2(木)

朝食後、６時に出発。我々が最後の出発であった。花崗岩のざらざらした山道が続く。滑りにくいのが助かる。山道の先にピークが見えるが、第１、第２、第３ピークがあり、その間、足場の無い大きな斜めになっている岩に飛びついたりして進み、その先がやっと空木岳の頂上となる。直下に見える駒峰ヒュッテから１人が登ってくる。聞くと朝３時に駒ヶ池登山口から入った。何時もは雲が上がってきてしまってこの絶景を充分に楽しむことができなく残念に思っていたので、今回はこの景色を楽しむために大阪からきて、暫くこの景色を楽しみ、ここから引き返すと言う。写真を撮ってもらい、駒峰ヒュッテに向かう。

ヒュッテの中がどのようになっているのかと主人に挨拶し見せてもらう。主人は笑顔のきれいな方で、あまりにもきれいな小屋の様子を申し上げると、この小屋の歴史なりを話し始めた。この小屋は２代目で、駒ヶ根山岳会(会員３０名)が会員の山の木を使って、色々な職業の会員による設計、建築作業で出来上がったという。建築費は会員が各人３０万円、駒ヶ根谷筋の山岳会に１泊３千円×３０泊分＝９万円の会費を募ったところ、１００名の賛同を得て、建築資金に充てたと言う。「随分良いアイデアを考えた人はすごいですね」と申し上げると、にこにこして「それは私です。会計係でしたから。」お名前は林さん。そこから話が弾み、１代目の建物は今のデッキのところに在ったが、海外遠征登山で泊まったスイスの山小屋のデッキが気に入って、その雰囲気を再現した。２０１４年9月２７日当日にこのデッキから御岳山の噴火を見ていた。その時、姪の小川さんがガイドとして頂上に居た。ガイドしていた障害を持つ方を救うことが出来なかったこと。罹災の場所を覚えていたので、その後、遺体を発見したこと。ＮＨＫのインタビューを何回も受けたこと。更にその経験を本に著したこと。小屋の番は会員が都合の付く時間に合わせて交代でしていること。山岳会は創立６０年になり、海外遠征も含めて厳しい登山も実施しているが、一度も事故を起こしていない。私も２回受講した長野県山岳センターの登山教室の講師もしている。明日は韓国から１６名の団体が宿泊する等々のお話をデッキで伺っていると、御岳山から噴煙が上がった。御岳山の８合目以上は火山灰に覆われているのが見える。お話は尽きないが、本日中に帰らねばならない。

林さんから気を付けて進むように言われた痩せ尾根の小地獄、大地獄に着く。ここでは毎年死者が出て、昨年は救助隊から死者が出て二重遭難が発生。これを機に、救助隊の保険が引き上げられたとのこと。ストックを収納。それ程でも無いと思って進むと、大地獄になる。さすがに何カ所かは危ないところがあった。このような状態がこの先どの位続くのかと思う頃、前から夫婦が来た。この夫婦からこの先はどの様になっていますかと聞かれた。かなり厳しい所がありますよと伝える。逆にこの先の様子を聞くと、厳しい時間が続くとのこと。歩き方があまりにも大変そうなので、因みのこれまでどのような山に行きましたかと尋ねると、本州にある百名山の最後が今回の空木岳という返事。歩き方の様子と本州の百名山の最後が今日との言葉が合わない。この後、我々が進んだ道は、夫婦に会った所が大地獄の終りで、普通の山道であった。あの夫婦は無事に先を進めたろうかと山口さんと心配した。私もトレッキングはしているものの、クライミングはしない身なので、あまり他人に百名山登頂と言わない方が良いと思わされる。

空木岳(山頂のみ)　　東川岳　　熊沢岳　　槍尾岳　　宝剣岳

池山避難小屋分岐、野生動物観察棟を過ぎて、北海道の紳士が追いつく。聞けば、我々がゆったり話を聞いたりしている間に、南駒ケ岳に足を延ばしてきたとのこと。コースタイムだけでも４時間２０分を余分に歩いてきたことになる。素晴らしい、驚くべき７５歳の健脚である。漸く林道終点に着く。菅の台バスセンターに着き、駒ヶ根市内の旅館に泊まる紳士と別れる。こまくさの湯であたふたと汗を流し、缶ビールを飲んで、路線バスで駒ヶ根ＩＣから高速バスに乗り、帰路に着いた。翌３日に草加で、下川、澁谷会員を交えて打ち上げ会を行った。

聖岳（3013m）

記：小野寺　英子

山行日：平成３０年７月３０日（月）～８月３日（金）

参加者：L 小野寺・山本・兼堀・八並

【コースタイム】

7/30 日月　独協大学前西口 11：00＝＝東名清水 IC＝＝赤石温泉白樺荘 16:50　（泊）

7/31 日火　白樺荘 6：45＝バス＝聖岳登山口 8：10…聖沢吊り橋 10：26…造林小屋跡 12：50…乗越 14：10…岩頭滝見台 15：40…聖平小屋 16：55　（泊）

8/1 日水　聖平小屋 4：15…小聖岳 6：20…前聖岳山頂 7：53…聖平小屋 10：17（泊）

27 日の出発予定が 25 日朝の台風発生。12 号の直撃予報で急遽 3 日間の順延に…
白樺荘や小屋の予約の取り直しと慌ただしい一日を過ごす。最初から参加予定の平野さんには本当に申し訳ない事になってしまった。
出発から白樺荘までの到着迄 4 時間は甘かった。6 時間かかり、とても反省しました。
男女混合のベッドの部屋だが、ゆったりとした良い感じでお風呂に浸かり、明日からの長い山行ゆえ、早めに就寝する。

朝、宿の前からのバスに乗り登山口へ、いきなりの急登が始まる。
厳しい登りにヘロヘロになりながら吊り橋を渡る。此処までは元気だった私だが

次の急登から身体が急に動かない！亀のようにゆっくりと登り、もうダメかも？と
弱気が出る。何とか造林小屋跡までをコースタイムの倍を掛けて登った。
皆さん何も言わずに登って呉れた。うっかり血圧の薬を飲んでしまったので、低血圧状態になってしまった！約 2 時間位は正常に戻らない。遅くなった分を取り戻そうとするが、登山道が荒れて通れず、危ない巻道が何か所も有る。乗越を過ぎて滝が見える所に出てほっとする。しかし、厳しい下りがまだまだ有り、危なっかしいザレ場のトラバース等、中々安心できず、緊張のしっぱなし！途中小さな沢を何回か渡り、
水の補給や汗を拭いたりする。尾根を回り込んだ所に急に開けた所が岩頭展望台のようだ。
下を見下ろすと聖沢の凄いのが良く見えた。すぐに又、急な下りが現れる。
いつまでこのアップダウンを繰り返すのか？

本当に危なっかしい崩れた下りだ。最後の渡渉かと思える沢を渡ると、「ご苦労様でした。聖平小屋へ」見たいに書いて有るが、平らな樹林帯になって、すぐ小屋のはずが、疲れた体には中々長く感じた。
やっと発電機の音が聞こえ、人の姿が見えた。到着です！お疲れ様でした！！
取り敢えず受け付けを済ます。
「遅すぎる」と言われてしまった。トホホホ…
でもでも…頑張った分、小屋のサービスのフルーツポンチをたっぷりと…あぁぁ美味しい！！夕食はおでんだが、疲れ過ぎて喉を通らなくて困った。夜の内に明日のデポして置く物を分けて寝袋へ潜る。
小屋はとても良いのだが…トイレが遠過ぎて夜は怖い！男性と一緒について行く。

翌朝、いよいよ聖岳にヘットランプを付けて出発！標高差７５０m だ！30 分ほどで朝日が出て来る。良いお天気だ。薊畑分岐を過ぎるとひたすら登るだけです。途中マルバダケブキの群生が凄い！
ひたすら登り、森林限界を過ぎ、ハイマツ帯に入ると小聖岳の山頂が近づいた。
山頂からは聖岳がどっしりと聳えてる。
厳しそうだな！！
左側が切れて、ガレの細い尾根を進む。
ザレた急斜面に出て、ジグザグのつづら折りを必死に登った。山頂は 360 度の展望が素晴らしい！目の前に赤石岳が大きい！南にはこれから登る、南岳や上河内岳が遠くに見えて、ふぅと遠いなぁ…って感じた。

奥聖岳は登らずに下りようと、みんなで決めて下山に入った。
ガレ場の下りが苦手な私は最後に下りた。途中で他の人が雷鳥が居ると教えて呉れる。雷鳥に会うのは何年振りだろう～嬉しい。小聖岳でメンバーが待って居て呉れた。
樹林帯の下りではお花が沢山咲いていた。タカネナデシコ・ハクサンフーロ・シオガマ・イブキジャコウソウ・白タカネビランジ等々…凄い！登りでは殆ど気付かなかったが、薊畑に近づくとマルバダケブキの見事な群生が太陽を受けてそれは本当に素晴らしい花畑でした。
小屋に着いてやったぁ…！！みんなで凄かったと感慨にふけった。
しかし、皆さん聖岳の登頂によっぽど満足したらしく、もう下山しようと言い出す。
えっ！光岳は行かないの？…と私、このまま下山とまで言う…ムリだよ！下りたってバスは無いし、椹島まで歩かないと何時になるか分からないし、私は大反対した。
光岳を諦めるなら、もう一晩泊まって明日茶臼岳まで行こうと提案した。
実は私、茶臼小屋から下って大吊り橋を渡るのが、夢だったんですよう～！！
小屋に予約の変更をお願いして、さぁ…、乾杯！！光岳用の食料が有るので、素泊まりにする。荷も軽くなり一石二鳥と言う事に…後はみんな気分も明るくなり、飲んで飲んで…小屋のカレーと中華丼をみんなで食べて、男性はお昼寝タイムです。
バッチリ２時間ぐっすり！！その間に雷と雨が降り出した。動かないで良かった。
持参の食料をきっちりと食べて、茶臼岳に思いをはせて休む。聖岳の大きさがみんなを大満足させた事にやはり凄い山だなぁ…とつくづく思った。でも私、光岳を一緒に踏んで欲しかったなぁ…なんて、未練がましく思ったりして…まぁ光岳は易老渡の方から登れるし、きっと挑戦して呉れるだろうと信じる。
私の南アルプスは終わりだ！！お疲れ様でした。　茶臼岳へつづく～～

続き　茶臼岳

平成３０年８月２日
コース　聖平小屋 6:15～7:40 岩頭～8:35 石島～10:05 上河内岳～10:55 奇岩竹内門～12:08 分岐～12:20 茶臼小屋 13:15～1405 茶臼岳～14:50 茶臼小屋

当初予定の光岳を諦めて、ゆっくり茶臼小屋めがけ出発した。
南岳で三日目にして漸く富士山を拝む事が出来た、南岳を過ぎた辺りから素晴らしい花畑があらわれ、３６０度の大パノラマを眺めながら、時には湿原があらわれ上河内岳の肩に到着、４０分かけて上河内岳ピストンここからも富士山の眺め良かった、ゆっくり歩いて小屋に到着、昼食をとってから茶臼岳に光岳への未練を残しながら小屋に向かった。
また来たくなるような稜線歩きを楽しめた。

平成３０年８月３日

コース　茶臼小屋 5:35～6:24 樺段～8:00 横窪峠～9:05 中ノ段～10:15 ウソッコ沢小屋～11:55 ヤレヤレ峠～12:47 畑薙大吊橋～13:00 登山口

今日下って帰るだけという気の緩みがあってか、歩き始めて間もなく木の根に足を取られ、バランスを崩して木の古株に右胸・脇腹を強打してしまった。

「足は大丈夫だったのでナース英子さんの治療を受けながら、痛みを堪えて下山した。翌日整形外科で見てもらったが、軽度の骨折で日柄自然治癒しかないと傷の塗り薬もらった。五日目にして大分楽になってきた、夏山まだまだある注意して登りましょう。」

さて感想へ、長い下り坂の連続で漸くヤレヤレ峠へ、この下りを逆に登って来るのはさぞ大変だと、すれ違う登山者を見てつくづく思った。英子さんが是非わたりたかった畑薙大吊橋、なかなか長いがしっかりしていた吊橋で怖さはなかった。最後にメンバーの方々、心配をおかけしてすいませんでした、なかなか来れない聖岳に登れて本当に良かった、ありがとうございました。

青梅　御岳山

記　石井　美樹

山　行　日　　：　2018.08.04（土）　　天気：晴れ
メンバー　　：　L 石井文子　石井美樹　今泉優子　秦明江
コースタイム　：　南越谷 6：07－御岳駅 8：07－ケーブル山頂駅―御岳山 10：00―長尾平 10：30―七代の滝 11：10―ロックガーデン―綾広の滝―天狗の腰掛杉―ケーブル山頂駅 13：45―御岳駅 14：26―南越谷 16：16

全国的に 40 度を超す気温が続く中、暑さを覚悟で御岳山に向かった。

目的は、「レンゲショウマ」と「イワタバコ」である。

「レンゲショウマ」は、群生地に多くの花を咲かせていたが、御岳神社のまわりにも多くに花を咲かせていた。

「イワタバコ」は、沢沿いに、1-２輪咲いていたのみであった。時期がずれていたのでしょう。

暑さを覚悟の山登りであったが、山の中は、風があり、思ったより涼しい。また、沢水の冷たさが、心地よい。

しかし、人の多さには驚いた、林間学校の中学生、若者の男女の集団、親子の登山者など、夏休みを楽しんでいた。

いつも、山を独占している中高年グループは、熱中症を恐れてか、さすがに少なかった。

若さは、素晴らしい。若者たちは、この暑さを楽しんでいた。

久しぶりの山歩き、体を鍛えなければ、反省。

完

初めてのリーダー山行　～　編笠山・権現岳・西岳

【日程】　　2018 年 8 月 4 日（土）～5 日（日）
【メンバー】　　L. 宮澤、SL 新島、奥村、大門、村上、尾崎、松田、朝倉
【コースタイム】
1 日目　10:20 観音平登山口～14：00 青年小屋
2 日目　4:00 青年小屋～編笠岳～5:25 青年小屋 / 6：40 青年小屋～8：10 権現小屋～8：20 権現岳～10：00 青年小屋 / 10：25 青年小屋～11：20 西岳 / 11：40 西岳～登山口 14：15

山の会に入って以来、ずっと行きたいと思っていた青年小屋。「じゃあリーダーやったら」と言われ、企画をすることになったのは、安達太良山の雪山登山でのことだった。8 名の参加メンバーが集まり天気にも恵まれたが、電車の乗り継ぎは・・手配したタクシーは・・・と始終不安を感じながらのスタートとなった。

登山口に到着して一安心。と思ったら、歩き出す方向が分からない自分に驚いた。地図は持っていたが、コンパスもＧＰＳも持っていないと方向が分からないんだ。。。メンバーはどちらかを持っている人が多く、さすが山の会だなあと感心。
道中もメンバーに道を確認するダメリーダー・・・。グループが歩く速さをどう調整するのかなど、やってみて初めて気づくことが沢山あった。

歩くペースや休むペースが安定したころ、ぽつぽつと雨が落ち始め、青年小屋まであと 5 分、というところで本降りに。あわてて青年小屋に駆け込む。
同日に予定していた編笠岳へは翌朝行くことにして、明るいうちからビールを飲み始めた。普段飲む機会がない人たちと飲んで色んな話ができるから、泊りがやっぱり好きだなあ。

翌朝は 4 時に出発し、編笠岳へ。印を探しながら歩く岩場は思いのほか楽しかった。

頂上では雲海と、ご来光。

朝食後は、予定を 1 時間
繰り上げて出発。
難所の岩場も全員
難なくクリア。

早めに出発したにもかかわらず、権現岳到着はなぜか当初の予定時刻通り。
他の登山者とすれ違う事は多かったせいで 1 時間消化したのか・・・？
『山は早出早着』ですね。

このあとの西岳からの 2 時間の下りが実は一番きつかった。
平坦で景色があまり変わらない道、だけどある程度以上の傾斜があり、疲れた足にじわじわとくる。翌日の筋肉痛はそれほどひどくもなかったのに、翌週の木曜くらいまでずっと違和感が残っていたのはそのためだと思う。

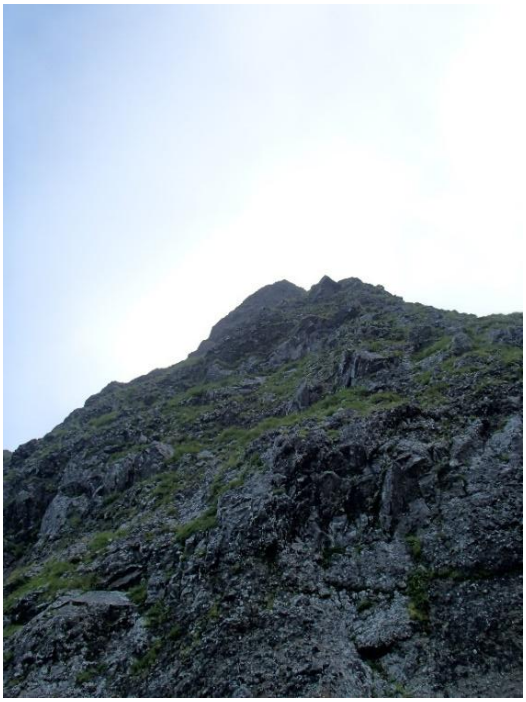
企画や事前準備を実際に自分で行ってみると、いつもリーダーを務めてくださる方々の気苦労が分かり、ありがたいなあという気持ちが増した。しばらくはリーダーはいいや・・・と思う反面、地図を見てルートを考えている自分がいる。
最後に、誰も怪我なく、リーダー山行を終えることができたのは、ＳＬの新島さんはじめ、メンバーの方々のお陰です。この山行にご一緒できたご縁に感謝！！

（宮澤）

八ヶ岳　横岳西壁　大同心　雲稜ルート

8/5　長田　一樹　会員外　　記：長田

4：15 赤岳山荘駐車場→北沢→5：40 赤岳鉱泉（朝食）6：05→6：50 大同心取り付き手前（装備切り替え）7：00 スタート→10：00 終了　大同心の頭で大休止　10：30→10：50 横岳山頂（ガチャ分け、装備解除）11：00→三叉峰→二十三夜峰→地蔵尾根→12：05 行者小屋（昼食）12：45→南沢→13：40 赤岳山荘駐車場



滝登りは、お腹いっぱいになったので、乾いた岩での岩登り！！夏のマルチピッチ第一弾です。何度か企画するものの、雨だったり自分の都合だったりメンバーの都合だったりで、登れていなかった八ヶ岳大同心の雲稜ルートに行って来ました。快適な登攀と大同心から横岳抜けて二十三夜峰への稜線縦走に、多めの休憩にビールとカレーパンで、アルパインと夏山気分を同時に楽しんで来ました。

前日夜に赤岳山荘駐車場へ！駐車場代 1500 円です（汗）混むと他に登るルート無いし、ルートと帰りの渋滞が嫌だから早めに出ようと飲みながら相談して 23：00 就寝。

3:30 起床で 4:00 出発が毎度ながら 15 分遅刻（汗）ここで確保器忘れている事に気が付く（大汗）赤岳鉱泉で買えるだろうと高を括って出発。一時間ちょっとで到着。朝食を取る前に小屋で聞くと販売してないしレンタルも無いとの事…。オールフォローにしてもらいムンターで確保してもらうか？などと考えつつ戻る、メンバーがガチャ類広げて装備確認していると、何と！！確保器が 2 つ！！！神っている（笑）朝食で 20 分強滞在

お礼に行者小屋での生ビールを約束し、朝食終わったら取り付きに向けて急登の大同心陵をひたすら登る（汗）上部にガスが掛かっている大同心基部には 6：50 に到着、ロープ出して装備付けて

取り付きに移動して、7：00 スタート。コールは聞こえたが大同心では無く小同心の模様！(^ω^)ｼﾒｼﾒ

1P：若干肌寒いので半袖の上に、パタゴニアの M10 ジャケット(薄手ハードシェル)を着込んでビレイ、ハング超えのピッチ、ガバが続きペツルのハンガーも有るのでフリーっぽいが、岩が剥がれる（汗）実際メンバーの左足のフットホールドが剥がれて危うくテンションかかる所でした。ヒヤッとしたのはそこだけで後は難なくロープが伸びて終了、フォローで登った感じでもアルパインというよりはフリーっぽいムーブが必要になる。30m弱

2P：リード、スタート直後に浅い凹角の嫌らしい箇所が出てくる、ココは人工登攀の所のようで、左に回り込めばハンガー連打されているようですが、折角なので凹角へ行ってみる。

何も無いように見えたが、左右に薄いカチがあり右上には緩いガバが有るので強引に立ち上がってスメアで体勢整えて左に移行する。プロテクションはハンガーでは無く錆びて伸びたリングボルトなので緊張した。慣れていないとルート迷いそう。20m強

3P：メンバーリード、このルートで一番長いピッチとなる。ムーブ云々は無いけど所謂アルパインっぽい草付きと不安定な岩です。ここも慣れていないとルート取り間違えそうです。ジャミングが効く箇所あり、カムも有効ですが不安定な岩が多いので注意して使用して下さい。40m強

4P：リード、トラバースルートで途中に岩が飛び出ているので、高度感満点のイナバウアーになるが、如何せん短い、スタン

スは豊富というかバンド状態？　最終ピッチ取り付きに着くと稜線が見え、太陽が眩しい！15m

5P：最終ピッチ、垂壁と薄被りが混じったピッチ、カンテ左から取り付き終盤は右手に出て高度感は更に倍！大同心の頭に抜けて終了。横岳方面からのギャラリーがいるので別な意味で緊張する（笑）核心は二箇所！！
岩はココが一番安定していました。高度感満点！標高 2800m付近でのフリークライミングという感じです。ハンガー多数有り。早い時間の登攀は最終ピッチまで日が当たらないので上着を着っ放しでした。頭で 30 分ほど休憩　20m弱

稜線に出る登りと横岳への登りが辛い(笑)、横岳で記念写真撮ったらガチャ分けして、地蔵尾根下降して行者小屋へ、稜線上は赤岳からの人も多く、交互に通過を待つ事もしばしば、地蔵尾根の下降に入ってからは、登ってくる人も少なくなり、一時間チョットで行者小屋に到着。お礼のビール奢ってカレーパン食べて、アッツイ青空の下で大同心と小同心を眺め、夏山気分満喫してから、赤岳山荘駐車場へ戻り 13：40 着、着替えて渋滞情報確認したら未だ始まっていなかったので、慌てて帰るも美濃戸まで前車のノロノロ運転に付き合わされる…。15：00 小淵沢から高速に乗ったら、小仏トンネル先頭に 20 キロの渋滞情報が（汗）結局は草加に 19：45 着でした。夏の中央道をナメていました。次回からは迂回ルート使用します。

二人共、リード＆フォロー双方でノーテーション、A0 無しで登れて良かったのですが、何と言うか拍子抜け感がチョットありました。今回は北沢から入り大同心から横岳抜けて地蔵尾根下降して南沢の周回とした事で、少しアルパイン気分を味わえました。ココは若干脆いですが、アルパインとフリーの良い所を併せたルートだと思います。冬の偵察も出来ればと思っていましたが、人工でも冬だと自分には未だ修行が必要そうです。

＊要注意：自分達は触りませんでしたが、3P 終了点付近に墓石大の浮石があります。落ちてきて当たったら間違いなく即死サイズです。注意して下さい

涸沢～穂高岳

記：畑野　順二

◆山行日：2018 年 8 月 11 日～15 日

◆山行者：畑野順二

◆コースタイム：

8/11　上高地 8：00-横尾 10：30-本谷橋 11：30-涸沢 13：35

8/12　涸沢 6：30-北穂高テント場 9：25-北穂高岳 10：40

8/13　北穂岳テント場 6：50-最低コル 8：10-穂高岳山荘 9：35

8/14　穂高岳山荘連泊

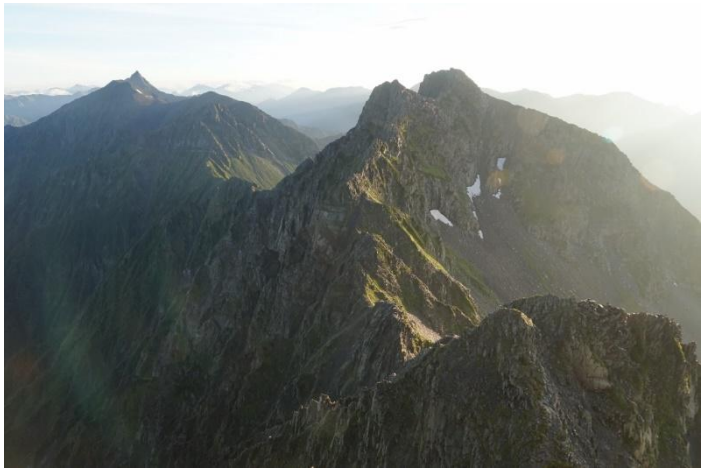
8/15　穂高岳山荘 5：10-奥穂高岳 6：00-紀美子平 7：35-前穂高岳 8：05-紀美子平 8：35-岳沢 10：50-上高地 13：10

8/11　草加を 2 時ごろ出発した。高速道路が渋滞していて、予定より約 1 時間遅れの 7：05 に沢渡に着いた。バスで上高地まで移動し歩き始める。
涸沢につくとテントもいっぱい、涸沢ヒュッテのテラスもいっぱいの登山者です。夕方には雲が出てきて、明日からの天気が心配になる。

8/12　起きると山頂には、雲がかかっている。残念。テント泊で荷物が重く北穂高岳への登りは辛かった。
北穂テント場は、霧のなかです。テントを設営して北穂高小屋に昼食と水を買いに行く。
北穂高岳の山頂からは、滝谷が薄ら見えるだけで他は何にも見えず残念です。
夕方には、大雨と雷で怖いよ～。小屋に逃げたいが遠く行けないので、早く雷が過ぎるのを願っていました。

8/13　北穂高岳に連泊の予定でしたが、朝ラジオを聞いていると、長野の天気は今日も悪そうで、小屋からテント場が近い穂高岳山荘へ予定を変更して移動します。
途中で雨がふりだし雨具をきて歩く。涸沢岳へのクサリ場の登りは、荷物も重いのもあり怖く感じました。岩トレが必要かも。
夕方は、今日も大雨と雷です。

8/14　入山して 4 日目でやっと晴れました。
涸沢岳で撮影です。
奥穂高岳から前穂高岳は、少しやけました。
期待していた、北穂高岳から槍ヶ岳は、靄がかかったようでスッキリせず残念です。
日の出から1時間ぐらい涸沢岳にいて、朝食のために下山しました。



8 時 30 分ごろもう一度、涸沢岳へ登りました。
あ～あ～　槍ヶ岳は雲の中です。雲が流れ槍ヶ岳山頂が現れるのを 1 時間ぐらい待っていましたが、見ることができませんでした。
午後になると霧が出て雨がふりだしました。
穂高岳山荘に天気予報を見に行くと、8/15 は晴れで 8/16 は雨か。なら明日下山しよう。

8/15　4 時前から朝食と出発の準備です。
5 時に出発し上高地に 13 時につきたい。
常念岳の手前に雲海があり日の出後に赤く焼けることを信じて待ってたが焼けずに終わり残念。
5 時ごろは、奥穂高岳へ登る登山者も奥穂高岳からの下山者もすくなく、クサリ、ハシゴは渋滞なしで登れます。
奥穂高岳の山頂のほこらでは、記念写真の順番待ちで登るのを諦めました。
紀美子平に荷物をおいて前穂高岳へ往復して、上高地へ下山です。
クサリ、ハシゴがあり、急な登山道が続き、岳沢小屋は見えるがなかなかつきません。
足はパンパンになり、ヘロヘロになり、なんとか岳沢小屋につく。
岳沢小屋からの登山道はゆるやかになる。
やっと上高地に近づいたら雨になる。
観光客がいっぱいで、上高地からの沢渡行のバス待ちが1時間30分でやっと上高地を出ることができました

谷川岳のヒツゴー沢の遡行

２０１８年8月２９日　松浦　剛

期　日・２０１８年8月１１日～１２日
場　所・谷川岳南面のヒツゴー沢
参加者・Ｌ鈴木勝、松浦、鎌形、山崎寧
　　Ｌ沼田、好田、岸野、会員外１名

はじめに

私が谷川岳の一ノ倉沢を登って居る頃、一ノ倉沢の出合いに突然看板が立った。その看板には「５００人目にならぬよう」と書かれていた。この時谷川岳では４９９人の人々が遭難死していた事になる。此れを見て我々は暫く谷川岳には行かない様にしていた。やがて５００人目の遭難が新聞で報じられ、それを見て私は少しショックを受けた。私は当時２６歳頃で日立製作所亀戸工場の山岳部長をしていた。何と遭難者は一番近い工場の亀有工場山岳部員であった。時には一ノ倉沢で会う事も有り誠に残念であった。此れ以来当時の私には難しい沢ではなかったが、登る気がしなくなり今日に至ってしまった。

８月１０日（金）

１８時３０分、草加駅西口集合とし、沼田パーティーに同乗して出発する。鈴木パーティーは１９時松原西口スタートとなる。
２２時前には水上の道の駅に着き、ここで屋根の下にテントを張り仮眠する。少し遅れて鈴木パーティーも着く。着いた当時は雨も止んでいたが、雷は周辺に轟いていたが、やがて遠退いて行った。夜中の空は満天の星であった。

８月１１日（土）晴れ

４時３０分頃起床し、朝食を取り６時ごろには出発し、谷川温泉に向かう。谷川温泉に着くが駐車場が予定の場所が閉鎖され、止む終えず日帰り温泉の駐車場に止めてヒツゴー沢に向かう。
７時頃谷川温泉の最奥にある、登山口をスタートする。谷川に沿った山道は緩やかに登り、やがて山ヒルの多い事に気付く。休むたびに靴や靴下に着いたヒルを払いのける。道はやがて谷川の河原沿いになり１時間半ほどで、オジカ沢とヒツゴー沢の分岐点に着き沢に入る。
９時ごろに沢に入り、遡行を開始するが水量が多くやっかいであった。やがて最初の大滝に先行沼田パーティーが取りついているのに出会う。水量が余りにも多く、シャワークライムではあるが、滝のしぶきで人間が見えなくなるほどの水量である。次の大滝も水量が落ちロに集まり、ものすごい水量で目も明けられない。１５ｍほどの大滝でもシャワークライムが無い所は楽である。滝つぼも水量が多く、膝から腰まで水につかり滝に取りつかなければならず、面倒この上ない。滝の飛沫と滝つぼへ入る事で常時体が濡れており、寒さが応える様になるが、時々は太陽が雲間から顔をだし、温めてくれる。連続する滝と、滝つぼでずぶ濡れとなり体も重くなる。沢がＳ字状に大きくうねった所を過ぎる頃から、全員嫌気がさし中ゴー尾根に逃げる事を考える。しかし藪がひどく中々逃げ道が見つからないが、やがて沢の中頃で中ゴー尾根からごく小さな水流のないスラブの小沢が入り込んでいるのを見つけ、こ

れを詰めて尾根に出る事にする。すでに６時間程遡行に費やして居り、ビバーク地もない。
１５時時２０分、初めはスラブの小沢を登るが、やがて沢も藪となり、折れ曲がった笹と木をまたいだり乗り越えたり、悪戦苦闘を強いられる事２時間、トップの鈴木さんから「尾根に出たぞー」の声がかかり、やっと安心する。やっと出た中ゴー尾根は、今まで見た事もない凄い急斜面で、おまけに最近歩いた人が無い様で、落ち葉が覆っており滑りやすい。
１７時２０分、身支度を整えて中ゴー尾根を下る。したの河原に降りる前に真っ暗な闇になってしまい、ヘッドランプ頼りに何とか、オジカ沢との出会いに着く。此れからは川沿いの踏み跡を探しながらの歩行となり中々面倒な事になる。やがて安定した河原に出たので、ここでビバークする事とする。
２１時３０分頃、ビバーク決定。五目アルファー米の夕食を取り、女性２人にはツェルトを張り、中でビバークしてもらうが、男２人はツェルトをかぶり河原に寝る。
２３時３０分ごろ、上流がチカチカひかり、やがて沼田パーティーが我々のビバーク地に着く。お互いに如何なっているのか消息がつかめず、心配していたがこれでお互いに安心する。沼田パーティーはそのまま下山し帰還するとの事で別れる。夜もヒルに何度も取りつかれた。沼田パーティーも完登出来ず、藪漕ぎには我々以上に苦労した様だ。

８月１２日、

快晴の空である。日帰り温泉は９時からしか開かないのでのんびり出発する事にする。
７時、ビバーク地発。１時間ほどで谷川温泉に着き、車で水上の町まで出てセブンイレブンで朝食を買って食べる。下山後に調べると靴や靴下には全員ヒルが５～６匹は着いていた。
９時に開いた日帰り温泉に入り体を休めて帰路に就く。水量が多くハードな沢登りであった。

滝つぼのへつり

シャワー・クライム

八ヶ岳　中山尾根　小同心クラック

L:長田　一樹　会員外　　記：長田

8/11　八ヶ岳山荘駐車場 8：25→9：10 美濃戸山荘 9：20→北沢→10：45 赤岳鉱泉

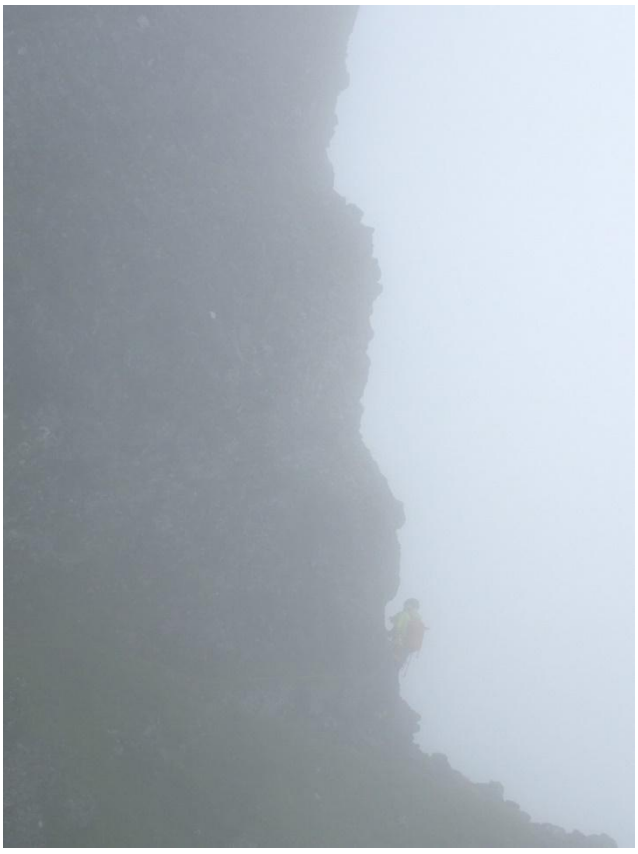
8/12　赤岳鉱泉 5：05→5：25 中山乗越 5：40→6：50 中山尾根下部岸壁 7：00→7：45 草付き→8：00 上部岸壁 2P　8：45→ハイマツ帯→9：00 上部岸壁ピナクル 2P　9：50→日ノ岳下部→10:15 トラバース 10:25 一般登山道→二十三夜峰→地蔵尾根→11:15 行者小屋→11:40 赤岳鉱泉

8/13　赤岳鉱泉 6:10→6:20 大同心沢→大同心稜→7:20 大同心取り付き→トラバース→7:40 小同心取り付き 8：00→小同心 3P→上部テラス→横岳下部最終 P→10：15 横岳頂上 10：25→10：50 硫黄岳→12：15 赤岳鉱泉　昼食及び片付けにテント撤収 13：10→14：50 八ヶ岳山荘駐車場 15：00

夏のマルチピッチ第二弾！！劔の予定でしたが、天候不安と雪渓の状態が不安定との情報があり、冬の偵察もしたかった八ヶ岳に変更しました。

高速の ETC 休日割引きの振替もあるのだろうが流石お盆休み…。金曜夜発なのに都内一般道と高速は大渋滞(汗)、前泊で赤岳山荘まで入ろうとしたが、八ヶ岳山荘通過して 5 分の所で渋滞？？どうやら前方で車両がスタックしたらしく、Uターンして戻る車と行こうとする車が鉢合わせして身動き取れなくなっている模様…。スタートからコレかよとボヤきつつ、後続が来る前にバックして退避場でUターンして八ヶ岳山荘へ戻ると、レッカー車が到着(苦笑)何で冬でもないのにスタックするのか？？もう何時になるか判らないし、既に午前 2 時過ぎたので諦めて八ヶ岳山荘に駐車することにする。

休み前の仕事と前夜の暑気払いが響いて、疲労が蓄積している、4：00 に起きてみたは良いが、とてもテン泊装備と登攀道具背負って歩ける状態では無いし、そのまま小同心クラックの登攀はもっと無理なので　メンバーに詫を入れて、小同心は最終日にしてもらい寝坊させてもらう、先週は日帰り装備で赤岳山荘からだったので楽だったが、今日は 20 キロオーバーで八ヶ岳山荘から、無理せずコースタイムくらいのペースで歩く、それでも冬よりは軽いし路面が凍っていないから楽でした。11：00 前に小屋に到着。受付してテント張ったら、もう今日はやること無いので、小屋のテラスで生ビールにて入山祝の乾杯！！担いできた肉で、昼間から焼き肉して 19:00 過ぎには就寝。天気は割と良く曇り時々晴れで夕方と夜半にパラっと雨が降る。



8/12　中山尾根

4：15 起床　曇りでガス　朝食は摂らずに出発。朝イチの鈍った身体に、中山乗越への登りが堪えるが、睡眠を十分取ったお陰で体調は良い。ほどなく乗越に到着、少し休憩してから、緑の立入禁止ロープ潜って、割とハッキリしている踏み跡に続く。

終盤、踏み跡が薄くなりハイマツ帯を避けるのに右手側へトラバース気味に行ってしまったが、左手方向が正解のようです。一時間程度で下部岸壁に到着する。ガスガスな上に前日の雨と今日のガスで岩の表面は湿気っている(汗)しかも崩落箇所多々で脆い脆い...

取り付き付近は狭いので一度下がって用意をする。用意が終わったらロープ出して取り付きへ、冬は右手方向に移ってから凹角を左上するらしいが、真正面にペツルのハンガーが連打されている。下部 2P 目が難しいとの事で、今回は自分が 2P 目担当

1P：見た目はⅣ級程度なので、メンバーは直登すると言ってスタート、序盤はスルスルとロープが伸びて快適な様子、途中でロープの伸びが悪くなった。どうやらクラックの内部が濡れている様子。カム持って行けば良かったのにと思うが、何とか A0 せずに通過したようで、コールが聞こえビレイ解除。

登ってみると前半は脆いものの、それなりに登れる、だが快適とは程遠い斜面、そしてクラック！ここはハンガー無しで錆びて腐ったハーケンがプロテクション(汗)カムあればプロテクション取れるが、無かったのでメンバーの緊張度マックスだったろうなと思いつつ通過、良く見るとスタンスも在るしフットジャムもそれなりに効きます。

2P：スタートする、出だしのヌメッとした広い凹角が何だかイヤラシイ、左に巻くことも出来るが草付きだし面白くないので凹角へ、ワンポイントだけ悪いが、そこだけで呆気なく終了というか実質の距離は 10m無い、せいぜい 5mちょい程度…恐らく冬季登攀のグレードと思われます。
繋げるとロープの流れが悪くなるのでしょうが！？なんだかなぁ～～と思いつつ、一旦ロープ仕舞って靴履き替えて草付きを登る、15 分前後登ると上部岸壁へ、このへんから雨が時折強く降り出す。上部岸壁前にて悩んだが相談の結果、明るいままで雨が強くならないのと下降より登る方が楽だとなり二人共アウター着込んで再スタート。

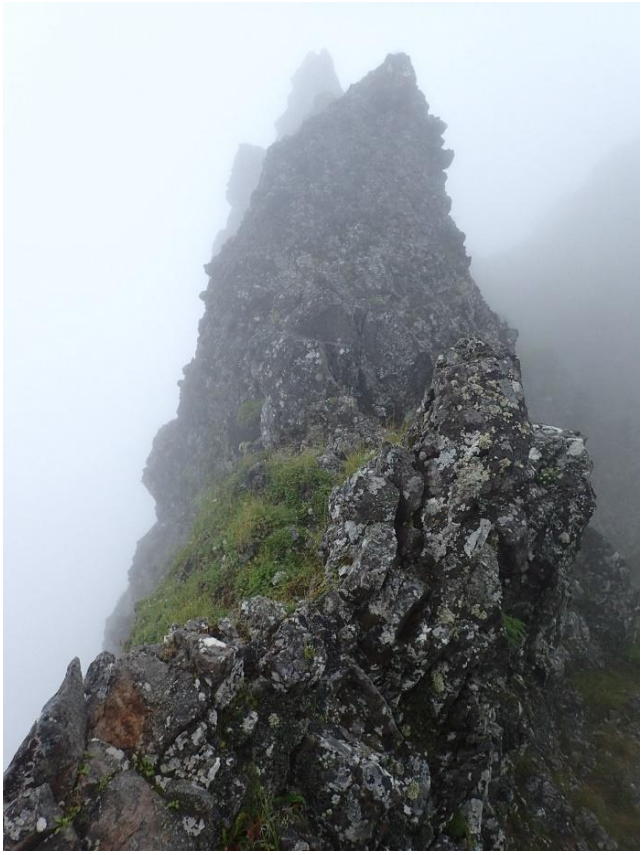
上部岸壁 1P：凹角を直登Ⅳ＋、メンバーリード、細かく脆いがそれなりにホールド、スタンスはある慎重に抜ける。

2P：緩い斜面に切り替わるⅢ＋くらい？ロープ伸ばせるだけ伸ばすがガレガレなので気を使う、濡れたロープで、緩い斜面に支点を取ると流れが悪くなるので 2 箇所のみ、ピナクルは左巻きせず直登で 40mチョイ伸ばすが、流石に重くなり進めなくなる、右にリングボルトとハーケンの終了点、左にペツルのハンガー×2 の終了点がある。

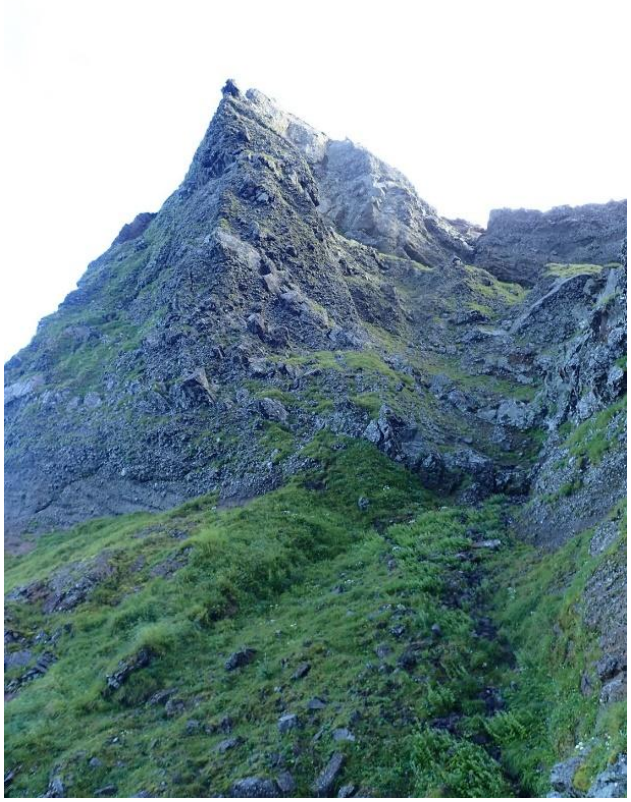
3P：メンバーがハング超えというか、ピナクルの乗越しが嫌だとの事で、自分がリード、ペツルのハンガーの場所から直登しようとすると乗り越してマントルかえす事になり悪いので、右上してから左に移動、支点は無い、その後 10m弱登ってリッジの右手側に降りるとハンガーの終了点あり。
位置的に ATC のガイドモードでのビレイは難しいのでセルフ取ってボディビレイ

4P：日ノ岳目指して直登しようと思っていたが、雨で冷えた身体と見通しの効かないガスに萎えてトラバースを選択、ガスでトラバースの状態が分からなかったので、ロープはそのままスタカットでビレイしてもらうが、難なく登山道に復帰、終了点は無し、カム効く所も無いのでフォローは肩がらみでビレイ。視界は常時 20m無いくらいでした。

悪い条件下での登攀で、やって良かったのか微妙でしたが、メンバーと相談の結果であり、登った事が無い、先が見えないルートでの登攀は非常に勉強になりました。



登山道脇の立ち入り禁止の緑ロープの所で大休止していると、登山者の目が痛い(汗)水分と食料補給したら、とっとと縦走路を抜けて地蔵尾根から下降して行者小屋から赤岳鉱泉へ！午前中に戻ったので、またしてもテラスでビール！！直後に雨で一時テントに逃げ込むが、しばらくすると晴れてくる(笑)表に出てビショビショになったロープや登攀道具を外で乾かしつつ飲む、気分良くなったので赤岳鉱泉のお風呂へ(笑)1000 円ですが気持ち良かったです。出てきてまた飲んで、夕方 16：00 過ぎには撃沈、20：00 頃に起き出して食事して就寝。夜半に結構な雨が降る。



8/13　小同心クラック（自分は再登）

4：00 前に起きてトイレに行くと、シケシケのガスガスでビショビショ。どうするかと悩んだが二度寝(笑)5：00 過ぎに起きてみると、少し晴れ間が覗いて明るい！もしかしてと思い直してゆっくり目の朝食を取り、岩が濡れて駄目なら取り付き敗退で！と決めて準備して 6：10 出発。三度、緑の立ち入り禁止ロープを潜る、先週も通った大同心稜は最後になるにつれ斜度を増す。今度は大同心基部に着いたら右手下方向へトラバース、草に朝露と昨日の雨がタップリ付いていて、露払いでズボンは太腿からビッショリだがゴアのアプローチシューズは◎濡れに濡れて取り付き到着、止まると寒いが着替えもないし、またもや上に M10 ジャケット羽織ってシューズ履き替え登攀開始。

1P：岩は湿っているが、登れない程濡れてはいない！相変わらず、支点がないので何処でも行けるが、左上して行き凹状を目指す、クラックというよりは下部が崩落したチムニーで一箇所乗り越す所がある、ホールドは豊富だがアチコチ剥がれて土色の部分が不気味に露出している、前から在る、腐って無いと信じたいハーケンのバックアップにエイリアンを決めて慎重に乗り越す、終了点は手前、中、奥と三箇所あるが、今回はハンギング気味になる中で終了。

2P：メンバーリード、奥の終了点がすぐにあり、悩んだようだがスリングで伸ばして支点にして先に進む、最初は緩い斜度だが、チムニーが段々と狭まり角度も立ってくる、両足を張って通過。チムニー内にハーケンの支点が三箇所くらい、終了点はハンガーちん。終了点は二箇所ある、今回は奥の上で取る。メンバー迎え入れて上のテラスに行ってもらい、テラスで大休止＆水分食料の補給。

3P：核心はスタート直後、終了点のハンガーにヌンチャク掛けて、ロープ通して、左側の切れ落ちた高度感抜群の所に、身体を出して薄被りを超える。グレード的には何て事ないのだが、信じられないホールドとスタンスに、高度感と、支点は足元以下というのが緊張する。ここを抜けると後は楽

折角、横岳を真正面から見るチャンスなのだが、アッという間にガスが湧いて来て見え無くなってしまう、大休止も終わりロープ畳んで靴を履き替えて、頂上下部へ移動。

4P：Ⅲ級程度だが、リードはもう一度、ク

ライミングシューズに履き替える、ロープは一本でスタート、カムを使用してみたり、色々と試してみたいことがあったようで、思ったより時間がかかる、それでも楽しんで頂上に抜けたようで、弾む声でコールがあり、ビレイ解除。自分はフォローなのでアプローチシューズで登り、横岳頂上で握手して、ガチャ分け。下降は大同心稜を使おうと思ったのですが、前夜の雨で足場悪いのと、嫌な予感がしたので、硫黄岳経由の一般登山道で下降する事にして、硫黄岳を目指していると、雨…。酷くなってきたので一度脱いだジャケットを着ると、雷の音が遠くに聞こえる(汗)頂上で写真撮影したら、足早に過ぎ去り、赤岩の頭を目指す。どんどん雨が酷くなったのでアウターの下も履こうとしたら雷の音が近くなってきたのでダッシュ！何とか樹林帯に入り一安心。あとは適当に飛ばしながら下山。
テン場着いたら、雨は上がって明るくなってくる、丁度良いので表に寝袋や道具広げて乾かしながら昼食を摂る、後は雨と雷を気にしながらテントを片付けて赤岳鉱泉を出発！長い北沢に飽きて、押し黙ったり、文句を言いながらも順調に下りる。雷の音が取れずヒヤヒヤしながらも、重い荷物の割には良いペースで八ヶ岳山荘駐車場に到着。車に乗り込んで走り出した途端、前が見えない土砂降り。

酷い雷雨の中、もみの湯で汗流して、諏訪南 IC 近くのハルピンラーメン（長野ローカル中華ラーメン屋さん）に行く途中で、メンバー知人の訃報を知る、沢登り中の事故でした。ショックではあったが食事を取り 17 : 40 に高速に乗ると、小仏トンネルに渋滞マーク…。更に甲府盆地で酷い雷雨に遭い、全車スピードダウンの渋滞、小仏トンネル大月間の渋滞避ける為、大月 JCT は河口湖方面へ、都留 IC で降りて県道を使用して上野原避け、相模湖へ、信号も殆ど無くて快適でした。但し周りを走る車はそれなりのスピードなので峠道を楽しんで走れないと辛いです。大月近辺で八王子まで 2 時間以上の表示が出ていたらコチラを使った方がストレス無いと思います。相模湖から再び中央高速に乗り帰宅しました。21 : 30 草加着

濡れた岩は、もう嫌だとマルチピッチのクライミングにしたのに、沢登り以上に岩は脆く、雨や霧で岩は濡れていました。それでも両日とも事故怪我も無く登れ、登攀も順調に終わり、焼き肉して早い時間から呑めて赤岳鉱泉に入浴も出来て！！リード&フォローともノーテーション、A0 無しで抜けられて満足です。今まで以上に事故には気を付けて登りたいです。

黒川山・鶏冠山

張替　清治

■日時　　平成 30 年 8 月 15 日（水）

■メンバー　　L=小林（い）、小野寺、山本、松田、張替

■コース　　草加松原 5：30……浦和 IC……久喜……鶴ヶ島……青梅……青梅街道
柳沢峠駐車場 8：20……黒川山 11：12……鶏冠山 11：40……柳沢峠駐車場 14：26……草加

8/12 いつ子さんから山行かないと誘われ、8/15 松原 5：30 という事で了解ですと答え決定です。連休中の高速道路の渋滞はと思いましたが、心配することなくスムーズでした。メンバーも平成 10 年組の小野寺、山本さんで…夏山は暑いなと思いましたが、標高 1700m さわやかな風が吹き、清々しい山歩きが出来ました。静かな「山歩き」を楽しめました。帰りには丹波山村の「めのこい湯」という日帰り温泉に立ち寄り、汗を流してスッキリしました。

運転手の松田さんご苦労様でした。岩あり、やせ尾根あり、苔あり静かな山で良かったです。松原駅にて「やきとり」で打ち上げし、楽しい 1 日を過ごせました。メンバーの皆さまお世話になりました。また会員バスハイクの際もよろしくお願いします。

針　ノ　木　岳　(2,820m)

(長野県大町市)

記：森花江、大門京子、出口栄子；取りまとめ：山﨑正夫

【日　程】2018(平成 30).8.20(月)～21(火)

【天　気】①晴れ後雨　③晴れ時々曇一時雨

【メンバー】Ｌ．山﨑正夫、兼堀善和、出口栄子、大門京子、森花江

【コース】

8/20(月) 獨協大学前 5:30～扇沢駐車場 9:30～登山口 9:45～大沢小屋 11:10～レンゲ沢 13:40～15:00 針ノ木小屋(2536m)16:00～16:40 針の木岳 17:00～17:45 針ノ木小屋

8/21(火)針ノ木小屋 6:15 出発～6:45 水場～7:00 蓮華沢～8:50 大沢小屋 9:03～10:20 登山口→薬師の湯→昼食(松川道の駅)→帰路

【経　費】交通費(外環道路＝660 円×２＝1,320 円、高速道路＝5,740 円×２＝11,480 円)
車代＝5,000 円、針ノ木小屋＝9,500 円、薬師の湯＝700 円　合計＝28,000 円

8/20(月) ブナ林を抜けて沢を渡る。湧き水の標識が立つ小さな瀬。水は冷たく、心地良い。もう一つの沢を渡り大沢小屋へ。貸しアイゼンが玄関口にあった。
雪渓の辺は傾斜がきつく幅の狭い所もあり慎重に歩く。今日は蒸暑く中々進まない。ざらつく砂地の斜面は更にきつく辛かった。やっと針ノ小屋の建つ峠に出た。ホっとした。　(森)

小屋に着いて、明日の天気予報があまり良くないので、少し休憩を取ったら今日のうちに頂上を目指す事になる。出発しようとすると夕立が降り出した。諦めて荷物の整理を始めると、天候は変わり、晴れて虹も出ていました。再度登る事になる。バタバタもあり三人で行く事になるが、更に二人が後になり、一人で登り始める。息が上がらないように急がず、呼吸に合わせて一歩一歩進む。

大きな段差もなく歩き易く、ゆっくりと４０分程で頂上に着くと、雷鳥の親子３羽が出迎えてくれ、こんにちは！

徐々にガスが上がってきて、辺りは真っ白です。小雨も降り出してきました。後から来る二人がまだ来ません。雷鳥と一緒に５時迄待ったら下山しよう。時折、雲の隙間から下のダム湖も見えた。

５時に下山し始めて１０分程で、登るのを止めて待っていてくれた二人と一緒に下山、無事に小屋に着く。いつか、機会があれば晴れた日に、又、挑戦したいです。☆万全の体調でないのにも関わらず、往復の運転をしていただき、兼堀さん、ありがとうございました☆　　(大門)

8/21(火)

朝は、昨日ほどではありませんが天気は晴れていました。虹が空に少しかかっていて眺望は遠くまでは見渡せませんが、まあまあという感じでした。

小屋で一人当たり水１リットルを詰めてもらい、昨日のコースをそのまま下ります。兼堀さんの声が今日は昨日よりも明るかったので、運転担当心配なしに思えました。道は雪渓の表面が夜の雨で凍り、ほんの数メートルでも昨日と違い怖く感じました。

途中のガレ場で電波が通じたので、種池山荘に宿泊取り消しの連絡を入れ、樹林帯に入る前の位置では少し雨が落ちてきましたが予定通り下山できました。

花は釣り鐘にんじん、唐松草、赤い実のおおかめの木、トリカブト、立山竜胆、四つ葉しおがま等々大門さんと森花江さんに教えてもらいました。こま草は、蓮華岳で咲いているそうです。

下川さんから始まったこの山行でしたが、不完全燃焼に終わってしまいました。計画通りいかなかったのは残念です。先頭を行く山崎正夫さんの元気と食欲が目に残りました。やはり皆で行ける山登りは楽しいです。有り難うございました。　　(出口)

夏(6～8 月)の山行記録

記:山口　裕史

丹沢四十八瀬川 勘七ノ沢(沢登り)

日時：2018 年 6 月 2 日　メンバー：L 沼田、山口裕、岸野、会員外 3

ルート：9 時間 15 分／表丹沢県民の森駐車場 8:19 - 8:44 二俣- 9:07 小草平の沢渡渉地点 - 12:55 勘七ノ沢　- 15:59 天神尾根分岐 16:26 - 16:36 堀山の家 - 17:07 小草平の沢渡渉地点- 17:33 駐車場

シーズン 2 回目の沢登りは、表丹沢でも代表的な勘七ノ沢。自分にとっては 2 回目のルートです。

勘七ノ沢は噂に違わぬ美渓。最初の F1 から垂壁の滝だが、ロープで確保されながらなので楽しく登る。連続する高い滝、それも垂直から少し寝たもの、釜がある滝などバリエーションが多い。

終盤は小滝の連続するゴルジュっぽい雰囲気でロープなしで非常に楽しく遡行できる。ゴルジュは水流が集中するのでじゃぶじゃぶと楽しいです。もう少し暖かければガッツリと濡れるのですが…。

看板があるのはちょっと興ざめな部分もありますが、今日のように途中から尾根に上がれば詰めも楽だし、小草平の沢を使えば沢降りもできるし丹沢でも素晴らしい沢ルートだと思います。

今日のヒル：遡行中は 1 回沢口に取り付き切れ目から入り込もうとして画策しているのを発見して除去。皆も何回か取り付いているのを発見。下山時、途中で 1 回除去、駐車場で靴脱ぐときに 1 匹と計 2 匹。登山道の方がいるんかい。ちなみに沢初めての岸野さんは下山して手袋を取ったら、ちっちゃいのに取りつかれていて、チューチュー吸われていました。これで嫌いにならないでね。

東丹沢早戸川 本間沢　登りやすい滝多く(沢登り)

日時：2018 年 6 月 9 日　メンバー：L 沼田、鈴木勝、森律、山口裕、岸野、会員外 2

ルート：6 時間 10 分／本間橋 9:24 - 9:26 本間沢 - 14:15 本間ノ頭- 14:29 栂立分岐 - 14:42 本間ノ頭北西尾根 P1106 - 15:22 本間沢 15:23 -本間橋 15:35

シーズン 3 回目の沢登り。宮ケ瀬方面の山域は初めてでしたが、結構遠いですね～。比較的簡単な

滝が多く、直登するとシャワーでガッツリ水をかぶりながら歩けた本間沢はなかなか面白い沢でした。
巻き道もしっかりしているので不安があれば巻きを選択もありだし、今回みたいにロープ降ろしてもらい登れるがイイっすね。特に遡行図 No6 トイ状、No8 大滝はシャワークライムで登りごたえありました。ヒル報告：登り中に 1 匹足元で発見。下山後装備解除時に 2 匹足元に発見。急いで振り払い吸血はありませんでした。仲間も吸血はなかったけど、随分と取りつかれていた。やっぱ丹沢は多いです。

世附川土沢 三ノ沢から鉄砲木ノ頭へ（沢歩き）

日時：2018 年 6 月 30 日　メンバー：L 山口裕、SL 鈴木勝、山崎寧、鎌形、村上、奥村、会員外 1
ルート：6 時間 10 分／村上さんの報告を参照のこと
沢登りに興味を持つ仲間が増えてきたのでお試しで企画したのがこの沢。登攀要素が極めて低く、ナメ沢を歩いて沢を遡行する、釜で水に浸かりながら進むのがどんなに気持ちよいかを堪能することが目的です。この沢だけだと若干短いので三国山と鉄砲木ノ頭のピークを踏む周回ルートで計画しました。
梅雨明け晴天の中、じゃぶじゃぶと楽しむつもりがなぜかこの山域だけガスガス。暑いって程じゃない状況で泳ぐには至りませんでした。まず沢を体験してもらうにはちょうど良いルートを見つけました。

水無川本谷～塔の岳~表尾根～政次郎尾根（沢登り）

日時：2018 年 7 月 8 日　メンバー：山口裕、会員外 8
ルート：7 時間 30 分／戸沢山荘 7:55 -天神尾根入口（旧書策新道入口）- 8:40 セドの沢- 10:22 水無川本谷- 13:02 塔ノ岳 13:30 - 13:56 木ノ又大日 - 14:06 新大日- 14:23 政次郎ノ頭 - 15:28 戸沢山荘
天候不良で泊り沢が中止になりましたが、そんな時にお手軽な沢は丹沢。戸沢の駐車場までは荒れた林

道なのでちょっと注意。天気はいまいちでしたが前日までの雨のためか水量はかなりあって3年前訪れた時よりも楽しめた感じ。以前F5/9mの滝の右側に連続してついていたゴッツイ鎖の途中がなくなっていて、代わりにロープが張られていた。鎖切れた感じですかね。上部は結構脆くてF8の巻きの急坂は慎重に。詰め上げた塔ノ岳で装備解除したらヒルが靴、スパッツ裏に6匹取り付いていて「ウヒャ～」ってたじろぐ。今まで2匹が最高だったのに一気に更新。丹沢恐るべし。

光岳～茶臼岳～上河内岳　易老渡よりテント泊周回

日時：2018年7月14日～ 2018年7月16日　メンバー：L山口裕、山口敏、鈴木勝、岸野
ルート：3日間で34時間／山口敏雄さんの報告を参照のこと
父が目標としている日本百名山の残り6座。自分も残り5座の中の未踏の光岳。過去何回か計画を立てるも天気に泣かされ、そのうち土砂崩れで易老渡までも入れなくなり足が遠くなっていましたが、意を決して計画しました。
当初は2泊3日で光岳・聖岳を歩こうと考えていましたが、このルートをなめていました。父もテント泊装備でよく頑張ってくれましたが、睡眠不足と1500m以上の登りで結構厳しか

った。何とか光小屋にたどり着いたものの、
1日目は光岳に行けず。
2日目は予定を変更し茶臼小屋で幕営、聖岳をカットする計画に切り替えました。光岳は2日目に無事登れ、百名山達成も一歩前進。テカリ石まで足を延ばし記念撮影してきました。テント撤収後順調に歩き茶臼小屋でテント幕営。越冬ビールが安くて嬉しかったですね。

3日目のメインだった上河内岳は今回一番標高が高い山。抜群の展望に先へ行くのが惜しくなりました。薊平からが本当に長い道のりでしたが、父はよく頑張ってくれました。
このルートは目の保養になるような花や景色がないですが、最南部の苔むした樹林、最南部のハイマツ帯が魅力でしょうかね。関東からの遠さ、厳しさに比べると畑薙から入る聖～赤石周回、荒川三山～赤石周回の方が魅力あるかな～と。今回縦走で初めて一緒に歩いた（沢では何回か）岸野さんが結構歩けて、担げて頼りになることがわかって嬉しいですね♪先輩の鈴木勝さんと、今後一緒に歩いてくれることを楽しみにしています。

花の山旅　利尻島礼文山･礼文島礼文岳･知床(3 泊 4 日)

日時：2018 年 7 月 27 日～ 2018 年 7 月 30 日　メンバー：L 山口裕、会員外 4 人

ルート：1 日目移動日、2 日目 10 時間 20 分、3 日目 8 時間、4 日目は移動日

2 日目：キャンプ場ゆ～に 2:55 － 3:26 北麓野営場 3:43 -3:53 甘露泉- 6:52 長官山 7:05 － 7:18 利尻岳山小屋 － 8:16 沓形分岐 － 8:32 利尻山北峰 8:58 － 9:13 沓形分岐- 10:12 長官山 10:19 － 12:22 甘露泉 － 12:30 北麓野営場 12:45 － 13:13 キャンプ場ゆ～に

3 日目：礼文岳登山口 6:54 － 8:42 礼文岳 9:01 － 10:25 礼文岳登山口 10:27 － 13:18 ツバメ山 13:21 － 14:10 桃岩展望台 14:21 － 14:31 桃岩登山口バス停 14:32 － 14:59 うすゆきの湯

3 月から温めていた利尻･礼文の花の山旅。今回は一緒に行った仲間 4 人、礼文合流の 2 人と楽しい山行になりました。行くまでは当初手配していた ANA が 2 週間前に機体故障で欠航になり慌てて別の飛行機を手配したり、台風が近づいてきたり、到着するまでハラハラドキドキでしたが、終わってみれば、今年最高の天気だったようです。

利尻山は思っていた通り長い行程でしたが、メンバー全員元気で登頂を果たせたのは本当に良かったです。山頂直下の花の群落も素晴らしく、山頂からの海を眺める 360 度の展望も良いですが、船から見る利尻富士が一番印象に残りましたね。フェリーまで時間があったので「さとう食堂」でうに丼を食す。ご当地ならではのうにの甘さに舌鼓しました。

利尻ならではの旨い食事。気持ちよい温泉。まさに花の山旅を満喫した 4 日間（2 日目）でした。礼文で合流していた仲間から聞いた残雪期の利尻、いつか訪れてみたいものです。

2 日目、利尻岳登頂後に礼文島に移動し緑ヶ丘キャンプ場にて幕営しましたが、3 日目は礼文岳を満喫すべく午前・午後の部に分けて礼文岳と知床･桃岩コースを歩きました。計画するにあたっては、移動手段である宗谷バスの時刻が大変重要でした。

午前中は礼文岳へ。礼文岳は利尻山の厳しさとはうって変わって緩やかな歩きやすい登山道です。ルートの大半が樹林帯に覆われ、花もほとんどないですが、礼文岳山頂に立った時の 360 度の大展望だけ十分登るに値する山でした。下山してちょうどお昼。バスで移動し、香深の食堂「かふか」へ。ここでも何を食べるか

非常に迷いましたが、やっぱりウニが忘れられず 3200 円の二色丼を満喫しました。
午後からの知床～桃岩知床～桃岩のハイキングコースへ。知床から登って行くと利尻島の展望が広がります。北海道とは思えない 30℃を超す気温には辟易したが、海風が適度に吹いていて心地よかったです。
元地灯台より片側が崖で海が広がるハイキングルート歩きとなるが、沖縄のような青い海を眼下に、緑の笹原広がる大地、足元には固有種をはじめとした高山植物が目を飽きさせず、歩みも止まりがちでした。途中、リシリソウについて教えてもらい必死で探してみたところそれらしき花を数株見つけられました。青い海、緑広がる笹原、可憐な高山植物、雄大な姿の利尻富士と礼文島の素晴らしさを凝縮したようなコースでした。

登山後は香深の「うすゆきの湯」で汗を流し、近くの食事処「さざ波」で岩ノリラーメンと名物ヌカボッケ、岩ノリのバター炒めを食しながらビールで乾杯。ラーメンは濃厚スープの塩味が体に染みわたり絶品でした。近くのマリンストアで買い出しして緑ヶ丘キャンプ場にタクシーで戻る。山旅の思い出を肴に気の合った仲間と酒を酌み交わしました。礼文はスコトン方面のハイキングルートを取っておきました。いつか別の仲間と再訪する日を楽しみにしております。花の山旅万歳！

小仙丈沢を遡行し仙丈ヶ岳へ（沢登り）

日時：2018 年 8 月 4 日～ 2018 年 8 月 5 日　メンバー：SL 山口裕、会員外 8
ルート：1 日目 2 時間／2 日目：10 時間 20 分
1 日目：野呂川バス停 11:18 － 13:10 大滝前幕営地
2 日目：大滝前幕営地 5:24 － 11:47 仙丈小屋分岐 － 12:17 仙丈ヶ岳 12:24 － 13:27 小仙丈ヶ岳- 15:21 北沢峠 15:29
昨年天候不良で中止になった小仙丈沢。今年は 9 人の大所帯でにぎやかな山行となりました。三千メートル峰へ詰め上がる沢登りは初めてだったため幾分か緊張しましたが、達成感のある満足度の高い沢登りです。1 日目の幕営地は草地で快適、倒木がたくさん流れ着いている

ため焚き火用の木も事欠きません。北岳を仰ぎ見ながら焚火を囲んで串焼きを楽しむシチュエーションは他では味わえない贅沢ですね。

2 日目 1 段目の大滝はロープを使わない巻き、2 段目の大滝は水流少ない左手の支流を登りますが、ここでようやく登りが登場です。先発 4 人パーティーが既に取り付いていたためしばらくは下で休憩。登り待ちが意外に長かったですが、ロープは必要ないくらいの難度（高度感があるので念のためロープは出す）で快適に登れました。
本流に復帰し、ここからは小滝の連続する楽しい沢登りが続きます。うだるような暑い日だったのでキンキンに冷えた沢水が心地よいですね。水流がなくなるまで登り上げると視界がバーンと開け、そこは小仙丈カールが広がります。一般登山道からでは見えない景色に感激もひとしおでした。
装備を解除していよいよ登山道に向けてこのカールを詰め上がります。結構なガレでしたが想像していたよりは楽（ルート取りをしっかりしていれば）で登山道に出ました。軽身で仙丈ケ岳のピークを踏みに行きますが、荷物が無いと羽が生えたように歩けました。今年 1 月に訪れた白銀の仙丈、沢から登った夏の仙丈と本当に良い山です。そして仙丈ヶ岳から見る甲斐駒が美しいですね～。

乗鞍岳　白雲荘泊でペルセウス流星群を満喫

日時：2018/8/11～12　メンバー：L 山口裕、会員外 2
ルート：3 時間 20 分
肩の小屋口 11:57 - 12:33 肩ノ小屋 12:45 - 13:18 朝日岳（乗鞍）- 13:39 乗鞍岳 13:47 - 14:30 肩ノ小屋 14:39 - 15:12 畳平バスターミナル- 15:18 乗鞍白雲荘
67 歳の叔母（山はほとんど登ったことがない）が富士山に行きたいという願いを聞き企画したのが乗鞍岳。本当に登れるのか？高山病は大丈夫なのか？と心配だったので、高度順応もかねて 2,700m の畳平にある白雲荘に一泊するゆるりとした計画です。ちょうど 11～15 日にペルセウス流星群が見えるということで星空観賞も楽しみにしていました。
お盆休みの渋滞は思っていた以上で、草加から 6 時間かかり観光センター前に到着（通常 3 時間 30 分位）。危うく登山ができないところでしたが、ギリギリセーフでした。

下界ではガスの中だった乗鞍も歩き始めると晴れて山頂が見えたので本当に良かった。しかも雷鳥にも出会えて。今年は茶臼岳、仙丈ヶ岳に続き 3 回目の雷鳥ですね。
就寝時にはガスがかかっていた星空。夜中雨が降り絶望的かと思いきや 2:00 過ぎにスカッと晴れてくれました。満天の星空の中、ペルセウス流星群の流れ星を数えきれないほど見ることができました。
残念ながらご来光はガスで見えませんでした

が満足の山行です。乗鞍岳日帰りで帰るにはもったいない山ですね。白雲荘はお勧めです。叔母は今回無事にクリアしてくれたので、来週は富士山を目指すことにしました。行程が約3倍になるので、極力ゆっくりと歩き、念願である富士山頂まで何とか登らせてあげたいですね。

富士山　富士宮口から登頂し叔母の念願叶う

日時：2018/8/18　メンバー：L 山口裕、会員外 1

ルート：10 時間　富士宮口 5 合目 6:00～剣ヶ峰 12:35～15:55 富士宮口 5 合目

山形在住の 67 歳になった叔母が一度富士山に登ってみたいと言っていて、その願いをかなえてあげたく考えていました。叔母は登山をやっているわけでもなく、ちょっと心配だったので準備万端を期すために先週は標高 3,000m 乗鞍岳に行き高度順応を兼ね 2,700m にある畳平の白雲荘へ宿泊。そして本日は一番標高の高いところからスタートできる富士宮口で計画。出だしは快調で予定していた時間よりも随分早いペースだったのですが、それが仇となったのか、九合目間近で叔母の両足がつってしまい、一時はどうなるかと思いました。が、九合目で 1 時間のマッサージをしたら足が回復して、まずは九合五勺まで少し歩いては休憩し無事たどり着きました。その調子で富士宮口頂上まで一緒に登ることができました。台風がひっきりなしに来る今年の天気で心配しましたが天気も良く、叔母も本当によく歩いてくれました。叔母の笑顔を見て富士山へ登る願いのお手伝いが出来て良かった。人間って思い頑張れば何でもできるんだなーと改めて思った今日この頃でした。

北秋川水系シンナソー下降ヒヤマゴ沢　福生ビール小屋での乾杯

日時：2018 年 9 月 2 日　メンバー：L 沼田、山口裕、会員外 2

ルート：3 時間 50 分／藤倉バス停 9：30～シンナソー入渓～11:25 遡行終了尾根へ 11:45～12:08 ヒヤマゴ沢入渓～13:15 藤倉バス停

湯檜曽本谷の予定でしたが台風の影響で天候不安定、水量も心配と言うことで計画を変更。ルート 120 で水量が少なく多少増水してちょうど良さそうな沢をリーダーと相談した結果、奥多摩のシンナソーへ行くことに。細い沢ですが目論見通り水量は多く、樹林帯で暑さも軽減され、快適な遡行を楽しむことが出来ました。下山で利用したヒヤマゴ沢は、事前情報だと倒木が酷くあまり良くない沢とのことでしたが、ロープを出すような大きな滝もなく、滑るところもないため下り易かったなーと。やっぱり酷暑では沢登りが良いなとつくづく思います。沢はサクッと終わらせて、瀬音の湯で汗を流し、「福生のビール小屋」へ行きました。

石川酒造が製造するビールが美味しいとのことでしたが、やっぱり日本酒が美味しい。そしてイタリアンな料理も日本酒にバッチリ。ビールから始まり日本酒、ワインと随分と飲んじゃいました。

上越　平標山

記・山崎　寧子

20180711　1993m

メンバー　Ｌ山崎寧子　会員外１人

行程

交通所要時間約２時間　　月夜野～三国トンネル先平標山登山口駐車場

山行歩行時間約７時間前後（休憩 30 分を含む）

標高差約 1000m

08:40 平標登山口--50-- 1385m 地点-50--松手山-70--平標山（12 時お昼 30 分）

--40-平標山ノ家（雨宿り）--45--水場--55--平標登山口

雨も楽しい
一ヶ月半振りの山
横に奥に山山山

長い長い稜線

雨続きの中、やっと登れそうかなと
向かった平標山、天気予報にあっけ
なく裏切られ、
稜線に出た途端雨、雨、強い雨

そして、仙ノ倉山は諦め・・・・
それでもやはり登山は楽しい。

北八ヶ岳　蓼科山

記･山崎　寧子

20180714 2530m蓼科山 2530 メートル
メンバー　Ｌ山崎寧子　会員外１人
行程：　S 大河原峠～蓼科山荘～蓼科山～ピストン～竜源橋分岐～亀甲池～双子池ヒュッテ～双子山～大河原峠　　3 度目の蓼科山は夏。　7 時間 45 分休憩込み

やっと、体が戻ってきた。手術から一年半
やっと、脚の動きが、人並みになってきた。
まだまだ、しっくりこないけど、少しずつ。
完治宣告までは、あと半年あるけど、動きはおそくなったままだけど、ガンガン登りたい。
心無い知人に、「遅い！」と、言われ。
足手まといと指摘され。
私だって、知ってるよ。
歩けなくちゃはじまらない。
そんなこと、当たり前でしょ。

自分が登りたい山に、登れる速さで、登りたい時に、登りたい距離だけ、
登るために、いま登ってるんだから。

でも、そんなこと、もうどうでもいい。
今は、そんなこともどうでもいい。

自分の道は自分でつくるだけのことだから。

亀甲池～双子池ヒュッテまでの樹林帯とコケのおりなす自然の荘厳さに、ただただ溜息をつくばかり。
遠くまで車を走らせてよかった。
移動 6 時間 約 470 キロ
行動 38886 歩

上州　武尊山

記･山崎　寧子

220180715 上州武尊山 2158m

メンバー　Ｌ山崎寧子　会員外２人

行程；　　裏見ノ滝駐車～武尊山～剣ヶ峰～裏見ノ滝駐車場　（参考タイム通り）

8 時間．休憩込み　40828 歩

灼熱だ

暑いぜ

沢に、岩に鎖に、稜線

急な下り、ヌメヌメの道

陽射しイタイ（笑）

ブヨ。ぶんぶん

木陰～幸せ～。

汗ぐちゃぐちゃ、びっしょり

盛りだくさんで、面白い。

久々に手応えのある山に大満足。

駐車場は広々だったけれど、到着時は１，２か所程度しか空いてなかった。

停めれてラッキー

神社からは、長い林道歩き、暑い

樹林帯をすぎると、長い鎖場が連続する。

でかい鎖場だ。わくわくする～登りきると、真青な空が、上州の稜線がドカンと出迎えてくれた。

山頂まで日陰もなく、暑さが一段と強くなる。

灼熱だ。大好きな灼熱だ。

山はいいなぁ。武尊山いい山だ。両想いになろう。

上州　三角山～大源太山

記･山崎　寧子

20180801　　1636m

メンバー：　山崎寧子　会員外１人

行程：　　三国山～三角山～大源太山　７時間（ほぼ参考タイム通り）

あつすぎる
それしか感想が出ないくらい、暑かった。

上州には２つ大源がある。

２つとも行きたいと、年明けから思っていた。

３月に裕史くんにリーダーの三国山に登り、感動して、３回目

今回は、前々から行きたかった大源太山まで足をのばそう。

冬、雪に埋もれていた神社の鳥居。

こんなに高かったのかと、雪の多さにびっくりする

夏と、冬ではだいぶ違うんだなと思いながら、三角山の山頂に立つと、

山頂の標がちゃんとあるではないか！！！！

やはり、ここが山頂であっていたんだ

雪に埋もれたベルと、標柱がしっかりと立っていた。

なんだか、嬉しい。

熱射病になってしまいそうだ、体温が高くなってボイルされそうだ。

連れは、意識がもうろうしそう。

いつも強気の彼女も、暑さはこたえてる様子。

少ない木陰を逃さず、「休もうよ」と

１本多めにもってきた、凍らせたペットボトルを彼女に渡すと、笑みがこぼれた。

良かった。

このコースを指定したのは私、夏の低山は暑いと覚悟したが、こんなに暑いとは！

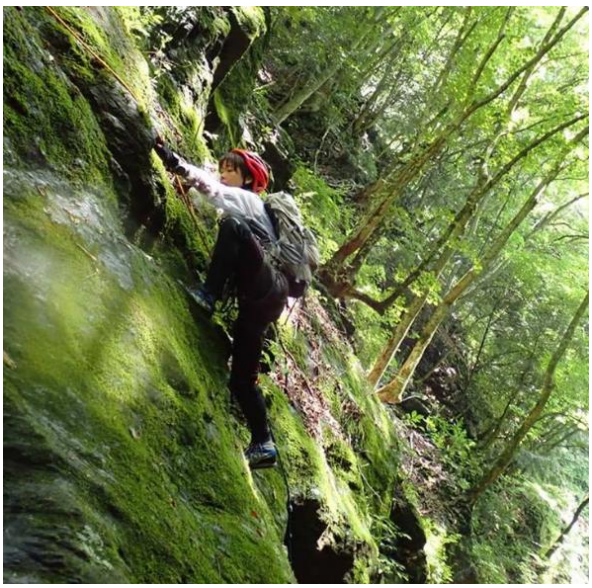
この暑さも楽しもうと、のってくれた彼女に感謝　「ありがとう」

これにこりず、また一緒に登ろう。

奥多摩水系　水根沢

記･山崎　寧子

20180721 奥多摩 多摩川水系 水根沢
メンバー：　山崎寧子　会員外 4 人
行程：　途中敗退
初級者向けの沢ということで、ドキドキと期待をもって挑んだ沢
1 つ目の滝からいきなり落ちる人続出。
わざと落ちる人も（笑）
水量が多すぎる
濁流だ～
滝壺は、足が届かず、アップアップ。
びちょびちょ。
超楽しい
みんな猿みたいに、ぴょんぴょん超えていくから、びっくり唖然。



途中、
沢デビューの男子が、軽い怪我をして敗退を決める。
一緒に降りようと決める
今日、はじめて会ったけど仲間だから
よく頑張ったね。。
敗退なんて、気にしなくていい。そういう時もある。
どうぞ、沢登りを好きになってね。
心からそう思った。
「また、来ようよ」しか言えなかったけど、伝わっているといいな。
次は一緒に登りきろう。
何度でも挑戦しようよ。

奥多摩多摩川水系　鬼石沢　マスキ沢

記･山崎　寧子

20180725 鬼石沢敗退

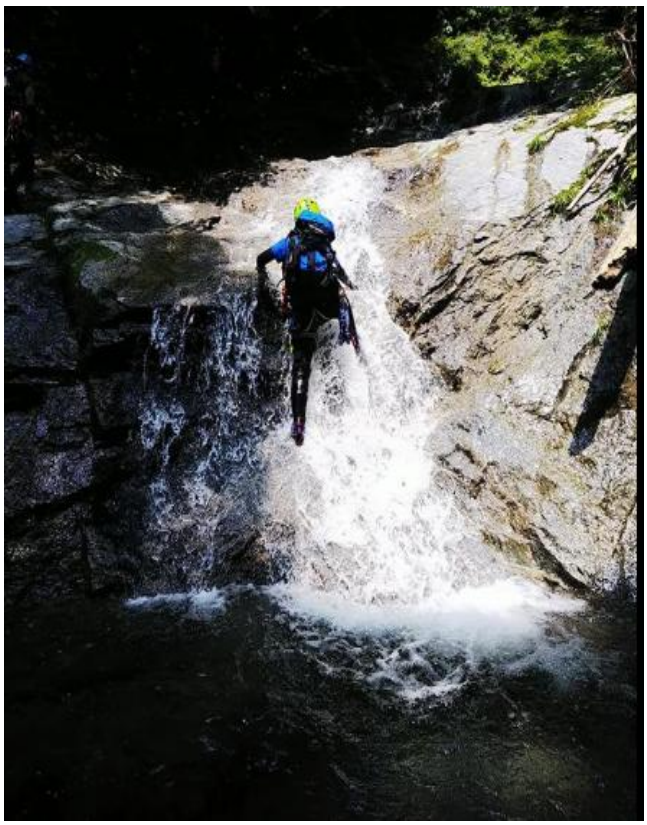
メンバー：　山崎　会員外４人

行程：　急きょ　マスキ嵐に変更

　　マスキ嵐沢入渓～権現山～西丹沢大滝キャンプ場Ｐ

鬼石沢のF1は50メートルの大滝　左岸滝スレスレ、ぬめぬめ脆い岩を登る。

核心はとりつき、フォールドは、ちょっとあるもののスタンスが・・・・・



ひざを、肩を、腕をスタンスにしてもらい、第２番手でゆく

途中のテラスまで全員登ったところで、ビレイヤーとなる。

トップがテラスから上に行く。やはり　1っ歩目、２歩目が滑ってズルズル

落ちるかとひやひやしながら、見守り、2番手をまたもや指定される

途中、１本回収して～。

ルートからはみ出た、カムの回収を依頼される

スタンスがない。

無理かもなんていってられない。

支点が１つで怖いけど、あぶみをつくり登ることにした。

ＡＯで、あがってきて！

プルージックつけて！

全員がＡＯで登る。いきなりF1でこんなハード？

ここを登ると、時間切れ。急きょとなりのマスキ嵐沢に変更する。

小さな滝が次々に現れる。癒やしの沢だな。

初級で適度な滝がいくつもある楽しい沢だ。嵐って、何で名前についてるんだろーなんて。。。

下山は道を間違えたのか？　尾根3つをトラバースすることになり。ブヨの嵐（泣）

高原山塊箒川鹿股川 スッカン沢 桜沢

記･山崎 寧子

20180804 スッカン沢　桜沢

メンバー：　山崎寧子　会員外２人

行程：　山の駅　たかはら～スッカン橋～雄飛の滝～仁三郎の滝～スッカン橋～咆哮霹靂の滝

～霆の滝～おしらじの滝～山の駅たかはら　６時間位

美しすぎる沢　ブルーの沢のスッカン沢

天国かと思われるような美しいナメの桜沢

あまりにも素敵で、美しい沢でした。写真では、伝えられない美しさです。

スッカン沢は沢沿いに登山道があり、登山者、つり人、沢登り人、水遊び人と多くの方が訪れていました。

登れない滝は巻きます。

途中で、朝ごはん休憩をして、朝寝して。

登山道を下山し、桜沢へ。

桜沢は、最初の滝を登ると、そこは別世界。

美しすぎる水面に、水流に、滑に、感動とため息ばかり。

初級者が楽しめる沢、次は、山の会のみんなと行きたい癒しの沢リストに入れることに。

白峰三山縦走（北岳、間ノ岳、農取岳）
南アルプス

記・山崎　寧子

20180815-18　　3,193m8

メンバー：　山崎寧子　会員外１人

行程：　奈良田～広河原～御池小屋～肩の小屋泊～北岳山荘泊～大門沢小屋泊～奈良田

ゆっくりと３泊４日で行ってきました。

１日目

肩の小屋までのお花畑は、様々なお花が咲き、

急な斜面から振り返ると、青い空と池と満開のお花たちが、登りの脚を軽くしました。

小屋でのご飯は美味し過ぎで、大盛りおかわりをお願いしました。

２日目

嵐が本格的にならないうちにと５時に出発土砂降りの北岳山頂は何も見えず、証拠写真だけをパチリ。

２時間半で北岳山荘に到着。本格的暴風雨に山荘で、「孤高の人」漫画編 16 冊を読破。

３日目

晴れるも飛ばされそうな強風の中、立ち止まり歩き、立ち止まり歩きを繰り返し農鳥岳へ。

風もやみ、ここからは快適なハイキングと思いきや、

急な下り、ザレ場と荒れた登山道に集中しながら歩くこと 4 時間、やっと着いた大門沢小屋。

４日目

歩きにくい下りの長さにげんなりしていた頃、美しい沢と吊橋が、丸太橋が、迎えてくれ、楽しい下山となりました。

西上州　妙義山　相馬岳

記･山崎　寧子

20180823　　西上州　相馬岳 1,104m
メンバー：　山崎寧子　会員外２人
行程：　　車移動 2 時間半～妙義山神社～大の字～奥の院～白雲山～天狗岩～相馬岳～タルワキ沢のコル～妙義山神社　　6 時間弱

5 年ぶりの相馬岳山頂に出ると涼しい風が、フワーッとあったけど、暑いわ～。
妙義山神社を左にして、登山道を進むと、上級者コースとの立札が。。。
じめっと、暗い登山道を登り、最初の目的地「大の字」、上州の街を眺め、空を眺め、そういえば 5 年前も暑かったなぁと。
低山の岩場の山をあまり経験のないメンバーが、緊張しながら鎖を登り、降り。
これから、鎖場がいくつあるのかネットで調べて、覚悟してきたと元気に言う。
頼もしいなと思いながら、前を歩いてもらい。鎖の登り降りの様子を観察。
奥ノ院の鎖場では、2 年前に教えたセーフティをとって鎖場を登る方法を再確認する。

「大丈夫だね？」
「うん。大丈夫」とのやりとりで、笑顔を見せてくれる。
先輩はフリーでサッサと登る。
私たちの遅い登りにも文句を言わず。「安全が一番だから、ゆっくりきなさい」と、声がかかる。ありがたい。安心して登れる。緊張しない。
「奥の院の鎖場を登ると左へトラバースする鎖がかかっているから、セーフティを必ず取って進んでね。」
「ハイ。」と元気のいい返事が返ってくる。
相馬岳へ向かう 30m 下降の鎖場は、怖いから先に行ってと言われ。思わずびっくり。
「いくつもの鎖場をよく頑張ったね。ここを下りたら、鎖場はほとんどないよ。」の言葉に元気が出た様子。下山道の崩壊箇所のトラバースで、なかなか来ない彼女に、がんばれと声をかける。体力も大事だけど、経験値はとても大切だと実感した山行。
たくさん登って、私を追い越して行ったらいい。もっともっと逞しくなれ。

奥多摩　倉沢谷　本谷

記･山崎　寧子

20180825 奥多摩　倉沢谷本谷
メンバー：　山崎寧子　会員外５人
行程　　駐車場～入渓～堰堤～下山道(登山道)～駐車場　４時間
駐車場から入渓まで、わずか 10 分、入渓から F1 がいきなり、今回の行程の核心の滝
左岸を登って、バッシャーン
次もバッシャーン、次も、次も
みんな飛び込む。
水は透明で、ブルーかかっている。
滝壺を泳いで、滝にたどりつく。
楽しい。いきなり楽しすぎる。
「ここの沢は、泳いだり、ばしゃばしゃ遊ぶ沢です。ロープいりませんよ」と、誘ってくれた友人が説明してくれると、
みんなわおーと喜んで、沢の中を歩く

今度はあいつを連れて来よう。
あの子も連れて来よう。
山の会の後輩の顔が、次次浮かぶ。
私にもリーダーができると確信した沢。
リーダー目線で、沢の遡行図と実際を何度も見る。
遡行時間わずか３時間ちょっと、休憩込。
たき火込み。
五平餅を焼いて食べる時間込み。
連れてきたい沢リスト入りしました。

巻機山（1967M）

記：山田　朗子

＜日程＞2018 年７月１０日（火）

＜メンバー＞山田

＜行程＞桜坂(05:54)・・七合目物見平(07:49)・・
九合目前巻機(8:40)・・巻機山避難小屋(8:45)・・
巻機山御機屋(9:09)・・最高点(9:19)・・
巻機山御機屋(9:30)・・巻機山避難小屋
(10:00)・・九合目前巻機(10:20)・・桜坂(12:46)

＜感想＞　巻機山のお花畑を見に出かけてみました。粘土質の登山道、ブナ林を抜けて、七合目からは空と稜線、高山植物の世界です。ニッコウキスゲと一面のワタスゲがとてもきれい！！向こうの斜面も一面ニッコウキスゲ！！！！！

キンコウカ、モウセンゴケ、タテヤマリンドウ、イワイチョウ、ウラジロヨウラク、ベニサラサドウダン、イワオトギリ、、、、。

午後は雷雨の予報も出ていたので長居せずに降りて来ましたが牛ヶ岳、割引岳も行けばよかったかな～。

焼岳（2393M）

記：山田　朗子

＜日程＞2018 年７月３０日（月）

＜メンバー＞山田

＜行程＞千間台(前日 19:30)・・・沢渡(前日 23:30)・・・
大正池(5:00)・・・田代池(5:20)・・・田代橋(5:37)・・・
西穂登山口(5:38)・・・焼岳登山口(5:50)・・・峠沢
(06:25)・・・焼岳小屋(7:33)・・・中尾峠(7:52)・・・
焼岳北峰(8:31)・・・中の湯新道分岐(9:40)・・・
焼岳登山口(11:00)・・・中の湯温泉旅館(11:25)・・・
中ノ湯(12:00)

＜感想＞　前日の夜沢渡バスターミナル駐車場に入り、車中泊。トイレもきれいで快適です。朝は始発のバスより早くタクシー乗り合わせで出発。わざわざ大正池からの焼岳を眺めてから歩き始めると、朝もやの大正池と月と焼岳のモルゲンロート！！

登山道は花少なく、梯子（高さ８M、斜度８０度とか）を登り、手で岩々を登ると頂上！雲もほとんどなく３６０度全て見え、槍や穂高の景色を楽しみました。噴煙がシューシュー上がるすぐ横を通るので、おもしろいけど、噴火しないでね～とお願いしながら歩きました(*^-^*)

塩見岳(3047)～農鳥岳（3026M）

記：山田　朗子

＜日程＞8 月 11 日（土）～13 日（月）
＜メンバー＞山田、会員外１名
＜行程・感想＞

【８月１１日（土）1 日目】

前夜毎日アルペン号 23：00 竹橋駅→→鳥倉林道ゲート(6:12)・・・鳥倉（豊口山）登山口(6:55)・・・三伏峠(9:47)・・・本谷山(11:00)・・・塩見小屋(12:56)

今回は初めて弟と二人きりでの山行。小さい頃からの思い出も胸に、感慨深く、でも口ではお互いに冗談をいいながら気持ちよく歩きました(*^-^*)花も多く、天気もよく、塩見もよく見え、夕方はブロッケンも見え、夜はペルセウス座流星群の流れ星もたくさん見えました！！

【８月１２日(日)2 日目】

塩見小屋(04:00)・・・塩見岳(05:10)・・・北俣岳分岐(05:50)・・・北荒川岳(07:13)・・熊ノ平小屋(9:50)・・・三国平(10:12)・・・農鳥小屋(12:50)

昨日登っておけばよかった！！塩見山頂はガスで覆われ、展望なし、仙塩尾根を熊の平小屋へ向かう。ガスで展望ないが、トウヤクリンドウ、チシマギキョウ、タカネコウリンカ、タカネビランジ、、、花が多く楽しい。ダケカンバとマルバタケブキの天国を過ぎ、シラビソの樹林帯へ入る。途中から雨もしっかり降ってきたので、三峰岳、間ノ岳は行かずに三国平から右に農鳥小屋に向かう。小屋に入った途端、ダバーッ！！！と雨が降り始めた。管理人さんは親切で気配り上手、山の知識、ウイットに富んだ楽しい方でした(*^_^*)

【８月１３日（月）3 日目】

農鳥小屋(04:34)・・・西農鳥岳(05:20)・・・農鳥岳(6:00)・・・大門沢下降点(06:37)・・大門沢小屋(08:50)・・吊橋（森山橋）(10:45)・・奈良田第一発電所（農鳥岳登山口）(12:00)・・・奈良田(11:30)→バス→広河原→バス→甲府→電車→千間台

朝 3:45、管理人さんがポットを持って入ってくる。午後大雨注意報出ているから、早く出発できるよう、朝ごはん早くした、温かいもの飲んで目を覚まして、と言う。ありがたい。農鳥山頂はまたまたガスで展望なかったけど、少し下がると周りも見えだし、富士山もよく見え花も多くしばし快適な下り。大門沢下降点からはこれでもかの延々激下りです。渡渉を何回か繰り返し、きれいな森を抜け、雷には合わずに降りて来ました。奈良田の温泉にも入れてよかった。普段は離れている弟と３日間、冗談いいながらの山、本当に楽しかったです。

〈山行報告文の基本事項〉

1. 山行報告文の内容

山行日・参加者・コースタイムを必ず記載する。（紙・電子文共通）

2. パソコン作成の基本事項

①ＭＳ　Ｗｏｒｄ（ワード）を使用して作成

②用紙サイズ：Ａ４サイズ　タテ

③余白設定：上下左右 25mm

④文字設定（本文）：ＭＳ明朝　11 ポイント

見出し（タイトル）は自由書式にて作成

〈平成 30 年度の原稿提出日程〉

号　　数	242 号	243 号	244 号	245 号
原稿締切日	5 月 31 日	8 月 31 日	11 月 30 日	2 月 28 日
発行日	6 月 21 日	9 月 20 日	12 月 20 日	3 月 20 日
表紙絵担当	鈴木　廣	松浦　剛	井口宮子	張替清治
コール	松浦　剛	石井文子	四宮慎太郎	小宮将光
※私の一名山	新庄八重	森　律子	小林真一	鈴木　廣
編集担当	松田　武	長田一樹	小野寺英子	奥村一江

※今期から**「私の一名山」**を企画しました。
初めての山登りで苦労した山、思わぬ人と出会えた山、自分にとって忘れ難い山やイチオシの山についての原稿を紹介していただければと思います。

※文字設定は忘れずにチェックをお願いします。ワード初期設定ですとフォントサイズは 10.5 になっています。編集担当がフォントサイズを変更するとレイアウトが崩れてしまうためページ数が変わり編集担当の労力が増えます。提出前に必ずご確認お願いします。

〈編集後記〉

急遽回って来た、「てんとさいと」の編集、断るのは簡単だが、発言の責任もあるし、同じ穴の狢にはなりたくないので引き受けました。久々にやるとコツを忘れていて大変でしたが、原稿をダウンロードする時にファイル名を書き換え、山行実施日を先頭にするのを思い出すと、フォルダー内に日付順に整理され楽になり、思いの外楽しんで出来ました。今年度より山行計画書の管理にも、携わらせていただいておりますが、会員数も増え山行計画も増えています。45 周年記念埼玉百名山も始まり、また山行形態も増え、今回は通常バージョンの「てんとさいと」なのですが、何と！ついに 100 ページを超える「てんとさいと」になりました。

沢 山 の 原 稿 あ り が と う ご ざ い ま し た ！

尚、締切りしてページ割り振りと目次作成が終わった後に、届いた原稿は追加掲載していますので、完全な時系列順にはなっておりません。ご了承願います。

最後に、残念ながら提出計画書と照らし合わせるとマッチしない山行が 2、3 ありました。そのまま掲載しておりますが、計画書の提出は忘れずにお願いします。当日行き先変更の際には電話やメールで、日時と行く山域山名、ルート名、登山口、経由地、降り口だけでも、お知らせ下さい。電波状況で電話やメールの連絡が出来なければ、下山後に改めて計画書の提出をお願い致します。メール内容と添付ファイルの計画書が全然違うメールもありましたので、お気を付け下さい。送信前にもう一度ご確認下さい。

＊間違った計画書で遭難した場合には、全く違う所轄警察が、違う山域に捜索に入ることになってしまいます。また計画書が無い状態での遭難は、捜索の手掛かりが全くない状態です。何処に捜索願を出せば良いのか？何処を捜せば良いのか？全く分かりません。家族や会員、現場に捜索に入る方々に多大な迷惑がかかります！更には自分自身を発見してもらえません十分注意して下さい。ココヘリがあっても入山した山域山名が判らなければ発見出来ません。

JRO（日本山岳救助機構合同会社）のホームページに、計画書が無い遭難の捜索ルポルタージュがアップされております。奥多摩ですが、遭難から発見までに 1 年と 4 ヶ月近い時間が掛かっています。是非一度読んでみて下さい。計画書が無い場合の捜索の大変さが分ります。

https://www.sangakujro.com/【寄稿】ルポ奥多摩捜索

又は JRO 遭難 ルポ　奥多摩　で検索すれば出てきます。

これからも安全登山で登って行きましょう！！

草加山の会
SINCE1974